



# ハンドボール

10

OCT.2019  
No.595



- 男子日本代表チーム第1回欧州遠征
- 女子日本代表チーム第3回強化合宿・第2回欧州遠征
- 第8回男子ユース世界選手権
- 第8回女子ユースアジア選手権
- 第48回全国中学校大会
- 第32回全国小学生大会
- 第46回全国高等専門学校選手権大会
- 第24回ジャパンオープントーナメント
- 第10回全国中学生クラブチームカップ



挑戦を続けた日々が、大舞台へと届くように。  
諦めない気持ちと、熱い感動を、世界中へ届けるために。

ヤマト運輸はジャパンハンドボールオフィシャルパートナーです。



ヤマトホールディングスは、  
東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナーとして、  
東京2020オリンピック競技大会を応援しています。



東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー  
ヤマト運輸はヤマトホールディングスのグループ会社です



# プレミアム・リゾートという選択 一戸建て住宅型有料老人ホーム



## メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始!

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開! 待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは  
女子ハンドボールを応援しています!!

## 株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL : 03-3525-8986 / FAX : 03-5295-8188 <http://yurika-co.jp/>





あたたかい空へ。あたらしい空へ。

**ANA** Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

Eat Well, Live Well.

**Aji**  
AJINOMOTO.

**Behind Your "Best"**



新しいバスケットボール  
鳥海 連志 選手

バドミントン  
松友 美佐紀 選手



競泳  
瀬戸 大也 選手

バドミントン  
高橋 礼華 選手

ハンドボール  
原 希美 選手  
ハンドボール  
永田 しおり 選手  
ハンドボール  
横崎 彩 選手

空手  
喜友名 諒 選手



5人制サッカー  
加藤 健人 選手  
5人制サッカー  
黒田 智成 選手

パラ水泳  
一ノ瀬 メイ 選手  
パラ水泳  
木村 敬一 選手  
パラ水泳  
山田 拓朗 選手



©The Asahi Shimbun via Getty Images  
©Atsushi Tomura/Getty Images for Tokyo 2020  
©Junya Nishigawa - PARAPHOTO/Getty Images  
©Ian MacNicol/Getty Images ©JBFA ©X-1

味の素(株)は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、  
東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。

＼ がんばる人のチカラになるごはん！

**勝ち飯®**

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。

味の素(株)は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、  
彼らのカラダづくりを支えています。



東京2020オフィシャルパートナー  
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)



【表紙の写真】  
第8回男子ユース世界選手権

# CONTENTS

- 07 日本協会と地方協会の連携と絆  
——(公財)日本ハンドボール協会常務理事・中野利一
- 男子日本代表チーム第1回欧州遠征
- 08 メンバーリスト
- 09 報告—コーチ・舎利弗 学
- 12 メディカル報告—ドクター・沖本信和  
トレーナー・飯田純一郎、事柴壮武
- 女子日本代表チーム  
第3回強化合宿・第2回欧州遠征
- 14 メンバーリスト
- 15 報告—監督・ウルリック・キルケリー
- 16 選手コメント
- 第8回男子ユース世界選手権
- 17 メンバーリスト
- 19 報告—監督・植松伸之介、GK・石濱 壘  
アナリスト・大杉憲由、医師・松村健一
- 25 戦評
- 28 過去の結果
- 第8回女子ユースアジア選手権
- 29 メンバーリスト
- 30 報告—団長・田口 隆、監督・古橋幹夫  
主将・松浦未南、アナリスト・田口真夕  
ドクター・貝沼圭吾
- 36 戦評
- 37 過去の結果
- 39 第48回全国中学校大会
- 40 大会を振り返り—実行委員長・市川眞也
- 41 男子優勝：扇台中学校  
—監督・鳥本岳志、主将・竹内 克
- 43 女子優勝：芦城中学校  
—監督・中出早彩、主将・中川舞香
- 45 男女戦評
- 47 男女勝ち上がり表
- 第32回全国小学生大会
- 49 大会を振り返り—大会事務局・石田真由美
- 50 男子優勝：桃園ハンドボールクラブ  
—監督・七里教証、主将・久保田仁太
- 52 女子優勝：薪小学校ハンドボールクラブ  
—監督・乙村直人、主将・木村珠希
- 54 男女勝ち上がり表
- 第46回全国高等専門学校選手権大会
- 56 大会を振り返り—徳山高専顧問・池田光優
- 57 優勝：徳山高専—監督・池田光優、主将・谷本貴哉
- 58 戦評
- 第24回ジャパンオープントーナメント  
「燃ゆる感動かごしま国体」国体リハーサル大会
- 59 大会を振り返り—事務局・海江田貴嗣
- 60 男子優勝：HONDA—監督・伊藤征四郎
- 61 女子優勝：香川銀行T・H—監督・重信あかね
- 62 男女戦評
- 第10回全国中学生クラブチームカップ
- 64 大会を振り返り—大会副総務委員長・酒巻博美
- 65 男子優勝：  
山梨市ハンドボールクラブ—主将・窪田晴天  
大阪 RSC—主将・近藤秀太  
HC 福岡—主将・金子凜人  
ヴァルト岐阜—主将・宮村泰知
- 66 女子優勝：  
HC 千葉ジュニア—監督・長沢 亮  
大阪ジュニアクラブ—監督・神並弘枝
- 68 男女勝ち上がり表
- 69 改めて、今、部活動を考える【その1】  
——ジャーナリスト・島沢優子
- 71 熊本通信
- 72 令和元年度第22回ハンドボール研究集会要項

### がんばれハンドボール 20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】山本大暉【宮城】小林宏幸、大河原浩気【埼玉】岡部克則【千葉】黒田俊雄、小椋 薫、小椋良子【東京】三善信明【富山】吉田容子【愛知】加藤ゆき、笹野邦雄、松下孝子【岐阜】中島明美【大阪】久保幸子、白鳥貴子、水戸恵子【兵庫】柿木國夫【岡山】奥埜美峰、奥埜啓子【佐賀】久保田秀光【熊本】井本光次郎【鹿児島】蔵元恵子

次号 11月号 (No.596) は 11月1日発行予定です。

# 日本協会と地方協会の連携と絆



公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事

## 中野 利一

常日頃、皆様方には、日本ハンドボール協会の活動にご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。私は、今年度、役員改選により常務理事を拝命いたしました。

今回、地方9ブロックよりブロック長の一人として、重責を担うこととなりましたが、地方ブロック協会と日本協会のパイプ役として、小生僭越ではございますが活動してまいりたいと思います。

以前より、地方協会では日本協会主催行事等に多くの検討意見を申し上げてまいりましたが、改善を見ることがなかなか伝わりにくく課題を抱えてまいりました。

特に、国体の枠・日本選手権の枠・ジャパンオープンのあり方・クラブ大会の運営等々、地方の意見を反映できるよう努力してまいりたいと思います。

一方、地方で協力できることは、ハンドボール界発展のためにも以前に増して協力を惜しまず、やっていかななくてはならないと思います。しかし、地方ブロックにおいても多くの相違点もあります。その調整を図りながら進めなくてはと思っています。

少子高齢化の波がますます進行する昨今、登録チーム数・登録者人口が、減少しています。これらの対策等は、直面している地方協会の方々に方策・啓発活動をしていただかなくてはなりません。できることは、皆様方と実現に向けてやりましょう。

他方、魅力ある競技として代表チームの活躍、マスコミ等表面に出での活動が求められます。他の競技（バレーボール・バスケットボール・サッカー・ラグビー・野球）では、日々TV等で活躍されている現役選手の姿、OB・OGの方々を目にします。個人競技においてもまさにそのものです。

ハンドボールにおいても、宮崎大輔選手に次ぐ人材の発掘実現を強く望むとともに応援していきたいものです。

さて、本年は、11月30日から12月15日まで、熊本においての女子世界選手権では日本代表選手の活躍がみられることと思いますが、ハンドボール関係者はもとより、多く的一般の方々の観戦を戴き選手の活躍を強く期待するところです。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックが行われますが、日本代表選手が予選トーナメントを突破しメダル獲得となることを皆様方と実現できるよう大いに期待したいと思います。代表選手は悔いの残すことの無いようトレーニングを積んでいかれることと思います。

最後にハンドボール界の発展に、皆様方のご協力を戴きながら、微力ながら努力をしております。改めて宜しくお願い申し上げます。



# 男子日本代表チーム 第1回欧州遠征

2019年8月1日から8月15日 於：アイスランド

| 役職        | 氏名               | ふりがな        | 所属                       |
|-----------|------------------|-------------|--------------------------|
| ヘッドコーチ    | Dagur Sigurdsson | だぐる しぐるとそん  | (公財)日本ハンドボール協会           |
| アシスタントコーチ | 舎利弗学             | とどろき まなぶ    | (公財)日本ハンドボール協会           |
| GK コーチ    | 北林健治             | きたばやし けんじ   | (公財)日本ハンドボール協会 都城工業高等学校  |
| ドクター      | 沖本信和             | おきもと のぶかず   | (公財)日本ハンドボール協会 沖本クリニック   |
| トレーナー     | 飯田純一郎            | いいだ じゅんいちろう | (公財)日本ハンドボール協会 J・フロントライン |
| トレーナー     | 事柴壮武             | ことしば そうむ    | (公財)日本ハンドボール協会 広島大学      |

| 背番号 | ポジション | 氏名      | ふりがな        | 所属      | 生年月日       | 身長  | 出身校    |
|-----|-------|---------|-------------|---------|------------|-----|--------|
| 3   | RW    | 柴山裕貴博   | しばやま ゆきひろ   | 大崎電気    | 1992.05.21 | 177 | 大阪体育大  |
| 5   | PV    | 酒井翔一郎   | さかい しょういちろう | トヨタ紡織九州 | 1992.08.15 | 188 | 大阪経済大学 |
| 10  | LW    | 杉岡尚樹    | すぎおか なおき    | トヨタ車体   | 1994.04.18 | 177 | 中央大学   |
| 12  | GK    | 岩下祐太    | いわした ゆうた    | トヨタ紡織九州 | 1991.06.21 | 183 | 早稲田大学  |
| 13  | PV    | 笠原謙哉    | かさはら けんや    | トヨタ車体   | 1988.05.15 | 197 | 東海大学   |
| 14  | CB    | 北詰明未    | きたづめ あすみ    | トヨタ車体   | 1996.10.22 | 184 | 中央大学   |
| 19  | RB    | 徳田新之介   | とくだ しんのすけ   | 豊田合成    | 1995.12.06 | 178 | 筑波大学   |
| 20  | RB    | 渡部仁     | わたなべ じん     | トヨタ車体   | 1990.01.17 | 183 | 日本大学   |
| 21  | LW    | 土井レミイ杏利 | どい れみい あんり  | 大崎電気    | 1989.09.28 | 181 | 日本体育大学 |
| 22  | GK    | 坂井幹     | さかい もとき     | 豊田合成    | 1995.11.10 | 191 | 筑波大学   |
| 24  | CB    | 信太弘樹    | しだ ひろき      | 大崎電気    | 1989.06.24 | 188 | 日本体育大学 |
| 25  | RW    | 元木博紀    | もとぎ ひろき     | 大崎電気    | 1992.02.14 | 182 | 日本体育大学 |
| 27  | PV    | 玉川裕康    | たまかわ ひろやす   | 大崎電気    | 1995.04.27 | 197 | 国士舘大学  |
| 29  | PV    | 岡元竜生    | おかもと りゅうせい  | トヨタ車体   | 1993.11.01 | 192 | 中部大学   |
| 31  | LB    | 吉野樹     | よしの たつき     | トヨタ車体   | 1994.07.13 | 182 | 明治大学   |
| 33  | CB    | 東江雄斗    | あがりえ ゆうと    | 大同特殊鋼   | 1993.07.06 | 183 | 早稲田大学  |





# 日本代表欧州遠征2019(アイスランド)報告

日本代表コーチ 舍利弗 学



日本代表(彗星ジャパン)は、7月13日に開幕を迎えた「第44回日本ハンドボールリーグ」の中断期間を利用して、8月1日から8月15日の日程で「欧州遠征(アイスランド)」を実施した。

チームは7月31日に味の素ナショナルトレーニングセンターに集合。メディカルスタッフによるコンディションについてのヒアリング、メディカルチェックを実施。その後、チームミーティングを経て、相川ストレングスコーチによるウェイトトレーニング、立谷メンタルトレーナー(国立スポーツ科学センター)によるメンタルトレーニングを実施し、当日の深夜便にて羽田空港よりフランクフルト経由でアイスランドに向かった。

アイスランド国内では、国内リーグ所属のValur(シグルドソン監督の出身クラブ)の施設を主に使用して強化合宿を実施。快適な気候と充実した施設の中、強化合宿を実施することができた。合宿中はSnorri Gudjonsson氏(現Valur監督、アイスランド代表としてオリンピック3回出場(アテネ、北京、ロンドン。北京では銀メダル獲得)。現役時代はドイツやフランスリーグなどで活躍。2017年にもゲストコーチとして来日経験あり)を1日特別ゲストコーチとして招いてトレーニング実施。強化活動を推進した。

遠征中の親善試合については合計5試合(対アイスランドユース代表1試合、対アイスランド国内リーグ所属チーム4試合)を計画・実施。また、休憩時間を活用してメディカルスタッフ(ドクター&トレーナー)が「アンチドーピング教育」と「頭頸部外傷に対する応急処置」の講習と実践を行い、さらにはアイスランドの豊かな自然を利用したチームビルディングにも時間を費やすなど、日本国内とは異なる環境において大変充実した強化合宿を実施できた。

以下、欧州遠征における親善試合の内容についてご報告いたします。

## 【彗星ジャパン欧州遠征 第1戦 8月3日】

### 日本代表 41 (23-14, 18-15) 29 アイスランド U19 代表

得点者: 柴山 4点、酒井 1点、杉岡 3点、笠原 1点、北詰 3点、徳田 4点、渡部 3点、土井 4点、信太 2点、元木 2点、玉川 1点、岡元 4点、吉野 5点、東江 4点

欧州遠征第1戦目の相手は、直後にユース世界選手権(マケドニア)を控えているアイスランド U19 代表との対戦となった。

立ち上がり、日本はコンビネーションプレーから土井のサイドシュートで先制点を決める。その後も速攻、セット攻撃などで加点して徐々にアイスランド U19 代表を引き離していく。前半15分には当初の予定通りメンバーを総入れ替えし、新しい布陣で臨むも柴山や杉岡らが得点を重ねて23対14で前半戦を折り返した。

ハーフタイムでオフェンスとディフェンスの修正ポイントを確認し後半に臨む。

後半戦も前半開始と同じメンバーでスタート。東江のゴールで先制しその後テクニカルミスが発生するも、GK坂井の好セーブで相手にペースを渡さず、坂井の好セーブから元木、渡部らが加点していく。前半戦同様に15分でメンバーを総入れ替えするが、その後も岡元のポストシュート、信太のミドルシュートなどで得点を重ね、最終的には41対29で勝利となった。

日本から2日前にアイスランドに到着し、時差調整等でもまだコンディションは充分とは言い難いが徐々に本来のリズムを掴み、次の試合でも更なる成長を期待したい。

## 【彗星ジャパン欧州遠征 第2戦 8月7日】

### 日本代表 35 (19-11, 16-12) 23 IR Reykjavik (アイスランドトップリーグ所属 昨シーズン7位)

得点者: 柴山 5点、酒井 1点、杉岡 3点、北詰 2点、徳田 4点、渡部 4点、土井 3点、元木 4点、玉川 1点、岡元 3点、吉野 1点、東江 4点

欧州遠征第2戦目の相手はアイスランドトップリーグ所属のIR Reykjavik(昨シーズン7位)となった。

日本は東江をトップDFに、笠原をセンターDFに配置した「5-1DF」で前半スタート。試合開始当初、攻撃では相手ゴールキーパーの好セーブが続きなかなかリズムに乗りきれない中、コンビネーションプレーから土井が落ち着いてサイドシュート決めて先制する。その後、相手クイックスタートから失点するも、今度は逆にクイックスタートから吉野が決

めるなど相手にリードを許さない。試合開始から効果的なコンビネーションプレーを駆使して元木や土井がミドルを決め、さらには吉野のカットインのチャンスから獲得した 7MT を東江が落ち着いて得点するなど徐々に相手を引き離していく。その後も DF と上手く連携した坂井の好セーブが続き、セットオフェンスでも東江や信太の好リードからのコンビネーションプレーが冴えて、酒井のポストシュートなどで加点していき前半を 19 対 11 の 8 点差で折り返す。

ハーフタイムではディフェンスの修正点を確認。

後半スタート、渡部のミドルシュートで試合が動き出し、柴山の速攻からのシュートで追加点を奪う。後半の中盤にリズムが悪い時間帯も見受けられたが、角度の無いポジションからの柴山のサイドシュートや GK 岩下の好セーブ、杉岡のパスカットなどで相手に主導権を渡さず、逆に日本は東江のステップシュートや 7MT、岡元のポストシュート、柴山、杉岡の速攻などで加点していく。そのまま最後まで集中を切らすことなく 35 対 23 の勝利で試合を終えた。

この試合も選手を入れ替えながら、トレーニングの成果を試した展開となった。引き続き次の試合でも更なる成長を狙った試合を期待したい。

### 【彗星ジャパン欧州遠征 第3戦 8月8日】

#### 日本代表 42 (18-14, 24-11) 25 HAUKAR (昨シーズンアイスランドリーグ優勝、プレーオフ準優勝)

得点者：酒井 2 点、杉岡 4 点、笠原 1 点、北詰 5 点、徳田 5 点、渡部 4 点、土井 5 点、信太 1 点、元木 3 点、玉川 1 点、岡元 4 点、吉野 6 点、東江 1 点

欧州遠征第3戦目の相手は、アイスランドトップリーグ所属の強豪、HAUKAR (昨シーズン・リーグ優勝、プレーオフ準優勝)。昨シーズンのアイスランドリーグのシーズンチャンピオンであり、プレーオフでは惜しくも準優勝となったが、今シーズンは EHF CUP にも出場する強豪チーム。

日本は東江をトップ DF、笠原をセンター DF、坂井を GK に配置し、周りを酒井、元木、土井、徳田で固めた「5-1DF」で前半をスタート。攻撃は、両サイドに土井、元木、バックコートプレーヤーに東江、吉野、徳田、ポストに酒井の布陣。

試合開始、幸先よくコンビネーションプレーから徳田のミドルが決まり先制する。直後に相手のディスタンスシュートで失点するも直後にクイックスタートから吉野が決めて相手の反撃を許さない。その後は元木のサイドシュートや吉野のディスタンスシュートで加点するも、相手の速攻やクイックスタートで連続失点を喫し、タイムアウトを請求。バックチェックについても一度チームの規範を確認徹底する。タイムアウト終了後には堅守からの速攻により、徳田、土井、東江、北詰が連取。GK 坂井の好セーブもあり徐々に相手を引き離していき、前半を 18 対 14 の 4 点差リードで終了。

ハーフタイムでは、主にディフェンスについて確認と修正を実施。

後半立ち上がり、日本は相手コンビネーションから失点を喫すも、直ぐに酒井のポストプレーから元木が決めて反撃。その後も酒井のポストシュートや速攻、土井のサイドシュートで加点していく。後半 13 分過ぎにはタイムアウトを請求し、再度ディフェンスの修正を試みる。その後、一層 DF が機能し始め、速攻時の東江、信太の好リードから笠原、岡元、玉川が決めるなどトレーニングしてきた速攻の成果が出る。そのまま試合はアイスランド遠征 3 連勝となる 42 対 25 で試合を終えた。

強豪相手に価値のある大差での勝利となったが、ここで気を緩めることなく次の試合に臨みたい。

### 【彗星ジャパン欧州遠征 第4戦 8月9日】

#### 日本代表 26 (10-13, 16-11) 24 FRAM (アイスランドトップリーグ所属 昨シーズンアイスランドリーグ 10 位)

得点者：酒井 2 点、杉岡 2 点、北詰 1 点、徳田 1 点、渡部 8 点、土井 2 点、信太 1 点、元木 2 点、玉川 1 点、岡元 1 点、吉野 3 点、東江 2 点

欧州遠征第4戦目の相手は FRAM (昨シーズンアイスランドリーグ 10 位)。

日本は昨日同様のスタートメンバー。東江をトップ DF、笠原をセンター DF、岩下を GK、周りを酒井、元木、土井、徳田で固めた「5-1DF」で前半をスタート。攻撃も昨日同様、両サイドに土井、元木、バックコートプレーヤーに東江、吉野、徳田、ポストに酒井の布陣。試合開始、相手のバックプレーヤーのディスタンスシュートに DF と GK の連携が取れず先制を許す。日本はチャンスを創出するも相手 GK の好セーブに合い、難しい時間が続くも前半 6 分過ぎに元木の攻守から速攻で徳田が先制点をもたらす。その後も体格の勝る相手 DF を崩すことができず、逆にシュートブロックなどからの速攻で失点が続く。吉野のカットインなどで反撃を試みるもルーズボールやリバウンドが相手に渡り失点を許す。GK 岩下の好セーブもあり連続失点は許さず、前半 19 分過ぎに渡部のミドルシュートで 6 対 6 の同点に追いつくも、オフェンスに活路を見出す事が出来ずに 10 対 13 の 3 点ビハインドで折り返す。

後半スタートは、コンビネーションプレーから酒井のポストシュートで試合スタート。17分過ぎ、速攻から元木と酒井のコンビネーションプレーや渡部のミドルシュートなどで同点に追いつく。更に玉川の好守から信太の速攻で遂に逆転。ここで相手チームがタイムアウトを請求。タイムアウト後も高い集中を保ち続け、北詰や玉川の速攻、渡部のカットイン、杉岡のサイドシュート、東江のパスカットからの速攻などで更に引き離す。後半残り2分、東江のカットインから得た7MTのチャンスを自ら決めて勝負あり。試合はアイスランド遠征4連勝となる26対24で試合を終えた。

連戦が続きミスが多い内容だったが、試合中に修正を加えながら勝ち切ることができたことは今後に生かされると期待したい。

#### 【彗星ジャパン欧州遠征 第5戦 8月11日】

#### 日本代表 34 (13-14, 21-7) 21 Valur (アイスランドトップリーグ所属 昨シーズンアイスランドリーグ3位)

得点者：柴山3点、酒井1点、杉岡1点、笠原1点、北詰2点、徳田5点、渡部3点、土井4点、信太1点、元木2点、玉川1点、岡元1点、吉野6点、東江3点

欧州遠征第5戦目の相手はシングルソン監督の出身クラブでもあり、アイスランド国内で最も高い人気と実力を兼ね備える伝統のあるクラブの一つである Valur (昨シーズンアイスランドリーグ3位)。

日本のスタートメンバー。オフェンスは両サイドに土井、元木、バックコートプレーヤーに東江、吉野、徳田、ポストに酒井の布陣。ディフェンスは東江をトップDF、笠原をセンターDF、坂井をGKで周りを酒井、元木、土井、徳田で固めた「5-1DF」で前半をスタート。スタート直後、エリア内防御から7MTを獲得され、それを決められて先制点を許してしまう。日本はクイックスタートから元木がサイドで先制点を決め、相手にペースを渡さない。その後、一進一退の攻防が続くも、相手のミスから東江がブレイクスルーで得点を決め、日本1点リードの状況になる。東江の7MT、徳田の速攻、吉野のブレイクスルーで引き離しにかかるも相手GKの好セーブに合い、点差を広げる事が出来ない。9対6の状況で前半15分タイムアウトを請求。これを機に当初の予定通り、メンバーを全員入れ替える。しかし、メンバー交代後、攻撃のリズムがかみ合わず前半21分過ぎには逆転を許してしまう。前半は13対14の1点ビハインドで終了。

ハーフタイムには、ディフェンスとオフェンスについて細部の確認を行い、意思統一を図って後半に臨む。

後半開始、メンバーは前半開始と同じメンバー。まずはコンビネーションプレーから吉野の2連続ゴールで幸先の良いスタートを切る。その後も徳田のディスタンスシュート、元木のパスカットからの速攻、吉野のカットインやディスタンスシュート、土井の速攻、徳田のブレイクスルーなどで逆転、更に相手を引き離す。攻撃の手を緩めない日本は、徳田、吉野らの得点で更に大きなリードを創出する。坂井、岩下の両GKの好セーブもあり、この日チーム全員得点で34対21の勝利。

アイスランド遠征を5戦全勝で締め括った。連戦が続き体力的には厳しい試合の日程となったが、最後まで集中力を切らさず試合中に浮き彫りになった課題を試合の中で克服・解決して5連勝に結び付けられたことは、1月にアジア選手権を控えた今、大変充実感に溢れたアイスランド遠征となった。

#### 所感

最後に、遠征期間中、日本において我々日本代表を応援して下さった皆様、各チームの活動予定を調整していただき選手を快く派遣していただいた所属チームの関係者の皆様、遠征まで様々な場面で日本代表をサポートしていただいたスポンサーの皆様、また、日本代表活動をご支援いただいた関係する全ての皆様にこの誌面をお借りして御礼申し上げます。取り急ぎ甚だ簡単ではありますが、以上今遠征のご報告とさせていただきます。大変お世話になりました。有難うございました。



## 2019男子ナショナルチーム アイスランド遠征帯同メディカル報告

帯同ドクター 沖本信和 帯同トレーナー 飯田純一郎 事柴壮武

男子ナショナルチームは、7/31 ANTC に集合し、ウェイトトレーニングとメンタルトレーニングを行った後、深夜便にてフランクフルト経由でアイスランド・レイキャビクに到着した。ウェイトトレーニングを行うことで、対海外選手へのフィジカル強化は周知のことであるが、航空機利用などの長時間移動を利用したトレーニング後のリカバリーに対しても有効であったと考える。さらに、メンタルトレーニングを定期的に行う意味でも有効な時間活用であった。

移動に関して選手たちは海外慣れをしており、マスクを常用し、海外で必要な物品を各自調達していた。

## 現地での活動日程

- 8/1 レイキャビク到着後、宿舎に移動しリカバリーを行った。
- 8/2,4,5,6 と練習を行った。
- 8/3 アイスランド U19 ナショナルチームとのゲームを行った。
- 8/7,8,9 アイスランドトップリーグ所属チームとの試合を行った。
- 8/10 レイキャビクからバスでアイスランド北部に 6 時間移動、その間にチームビルディング と練習を行った。
- 8/11 ダグル監督元所属のアイスランドトップリーグ・バルーと対戦した。
- 8/12-14 チームビルディングを行った。
- 8/15 アイスランドを出国し、8/16 羽田空港にて解散した。

## アンチドーピング教育と救急処置

チームビルディングの一環として、8/14 にドクターからアンチドーピング教育とメディカルスタッフ全員で現場における頭部外傷、頸椎損傷、心肺停止（AED 使用）に対する救急処置の講習と模擬実践を行った。

アンチドーピングに関して、参加選手 16 名の中でドーピングコントロールの経験がない選手は 1 名であった。

1. ドーピングの概念、権利と義務について概説した。
2. 最も重要であるのは、いかなる薬剤・サプリメントも慎重に摂取すべきで、リスクの分散（必ず、資格を持つ医師や薬剤師に相談すること）が重要であることを強調した。さもなければすべて選手個々の自己責任になってしまうことを伝えた。
3. 医療検査施設で施された注射や薬剤については、選手個々がドーピング対象であることを受診する時に伝えること、その内容を携帯端末にメモしておくことが選手を守るための証拠になること、知り合いからや自己判断で手に入れたサプリメントや薬に関してはすべて自己責任になってしまうリスクが高いこと等を警告した。
4. 内容によっては、風邪薬、のど飴、湿布ですら危険性があることも伝えた。処方される薬剤についても値段が高くなってできるだけ、後発品でなく先発品を使用することを伝えた。
5. 最も重要なのはチームドクターに、頻繁に報告連絡相談することであることを認識していただいた。

代表クラスの選手達は、正確な知識を持っているものの、今後もチームドクターとの気軽な報告連絡相談を心掛けて行きたい。また、東京オリンピックに向けてドーピングコントロールは競技外でも多く行われることが予想されるために、本大会だけでなく今回のような遠征・強化合宿にもドクター帯同が必須であると再認識した。

救急処置の講習と模擬実践は頭部外傷、頸椎損傷、心肺停止（AED 使用）を対象として行った。脳震盪に関しては、意識の有無、仮に意識があってもドクターの許可を得て復帰することの重要性を説明

図 1 ドクターによるアンチドーピング教育

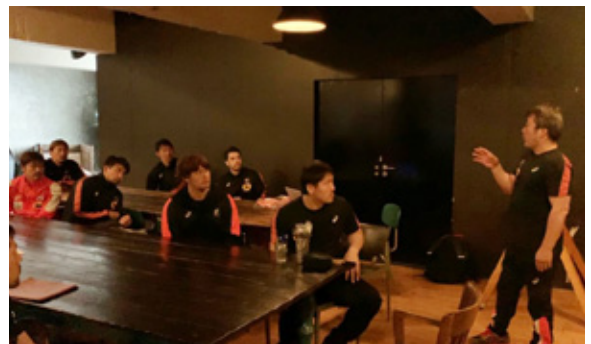


図 2,3,4 飯田トレーナー、事柴トレーナーによる頭頸部外傷に対する処置のデモンストレーション



した。手足のしびれは要注意で頸椎損傷に気を付け、スパインボードの使用について説明し、具体的な頸椎を固定した患者搬送の方法（ログロール）を軽症例と重症例につき実習した。重症例ではAEDと救急車の要請を強調した。

AEDの存在と場所の確認はメディカルスタッフとして極めて重要であり、ハンドボールコートで常に確認しておくことを関係者に強調したい。今後も国内のすべてのハンドボールコートでAED使用の準備に向けて活動を行いたい。

### メディカルチェックと外傷・傷害対策

メディカルチェックは個々の選手に毎日行っているが、8/12にはメディカルスタッフ全員で各選手に行った。今遠征後の個々のコンディショニング調整に具体策を提示し、所属チームやトレーナーならびに主治医に対して報告連絡を確認した。トレーナーからは各チームとの連携をとりつつ、コレクティブなエクササイズを指導し、選手達はより一層意欲的に取り組んだ。また、練習やゲーム時にはテーピングを行い、傷害予防に努めた。ケアを実施し、物理療法を含めコンディショニングを行った。

本遠征中に重篤な外傷疾病は生じなかったことは幸いであった。通常の打撲、捻挫、擦過傷などであった。数名の選手にヒアルロン酸関節内注射や麻酔薬などの関節内注射などの処置を行った。抗生剤、消炎鎮痛剤内服、外用剤の投与が数名であった。生活環境は充実していた。選手個々に所属チームに帰る際に、かかりつけ医療機関やチーム関係者あてに紹介状や、現在かかえている障害に対し今後の治療方針などについて説明や依頼、処置や注射、投薬などを行った。

### チームビルディング

ダグル監督とその家族の心遣いによりウエア・帽子・手袋など準備していただき寒冷対策（日本の猛暑では考えられないが）ができた。遠征先各地でもダグル監督の知名度のおかげか、温かいおもてなしを受けられた。

今回のポイントはチームビルディングであった。部屋割りも若手・中堅・ベテランで割り振られ、チームビルディングにおいても3チームで競合しながら行った。コミュニケーションが充分とれるようになったことは、アイスランドでの5試合すべてを勝利できたことの大きな要因と感じた。特に、後半ひっくり返したゲーム2試合は典型であった。チーム力の底上げができた遠征であった。

練習や試合後に際してはロッカールームの清掃をスタッフ・選手で行った。日本チームのマナーとして今後も継続したい。

### まとめと謝辞

メディカルチーム活動はアンチドーピング、強化だけにとどまらず、安全教育も含めた実践を代表各カテゴリーで継続徹底して行くべきと考える。

毎回のことながら国際大会の様々な手続きにご尽力いただいたNTCの河上さんをはじめとした多くの日本協会関係各位の方々に深謝申し上げます。特に、十分な薬剤準備（いつも迅速正確に対応）していただいているJISS上東様、日本協会床尾様、医事委員会 佐久間先生に深謝申し上げます。

ファミリーとして戦ってきたダグル監督、舍利弗・北林コーチ、一緒に戦った選手達ならびに本遠征に選出されなかったものの過去に未来に代表となるべく選手達、常に支えてくださっているナショナル男子チーム関係各位・選手所属チーム関係各位、田口強化本部長、ハンドボール応援者の方々に深謝申し上げます。

全日本男子ハンドボール代表チームが皆様の期待に応えられる様に、チームとして苦勞を乗り越えて明るい結果と未来を切り開くように精進したいと考えます。



図 5.6 選手間での頭頸部外傷に対する実践練習





# 女子日本代表チーム

## 第3回強化合宿・第2回欧州遠征

| 役職     | 氏名             | ふりがな        | 所属                            |
|--------|----------------|-------------|-------------------------------|
| 監督     | Ulrik Kirkely  | うるりっく きるけりー |                               |
| コーチ    | 櫛田亮介           | くしだ りょうすけ   | (公財)日本ハンドボール協会 三重バイオレットアイリス   |
| GK コーチ | Antoni Parecki | あんとに ぱれつき   | (公財)日本ハンドボール協会                |
| トレーナー  | 高野内俊也          | たかのうち としや   | (公財)日本ハンドボール協会 一般財団法人日本予防医学協会 |
| トレーナー  | 岩谷美菜子          | いわたに みなこ    | (公財)日本ハンドボール協会                |
| 分析     | 嘉数陽介           | かかず ようすけ    | (公財)日本ハンドボール協会                |
| 総務通訳   | 藤田愛            | ふじたあい       | (公財)日本ハンドボール協会                |

| 通し番号 | 名前    | ふりがな     | 所属                    | 生年月日       | 身長  | 出身校      |
|------|-------|----------|-----------------------|------------|-----|----------|
| 1    | 石立真悠子 | いしたて まゆこ | 三重バイオレットアイリス          | 1987.01.18 | 166 | 筑波大学     |
| 2    | 永田しおり | ながた しおり  | オムロン                  | 1987.10.24 | 171 | 福岡女子商業高校 |
| 3    | 塩田沙代  | しおた さよ   | 北國銀行                  | 1989.03.21 | 172 | 高松商業高校   |
| 4    | 勝連智恵  | かつれん ちえ  | オムロン                  | 1989.04.14 | 158 | 宣真高校     |
| 5    | 田邊夕貴  | たなべ ゆき   | 北國銀行                  | 1989.08.25 | 170 | 大阪体育大学   |
| 6    | 河田知美  | かわた ともみ  | 北國銀行                  | 1990.06.30 | 160 | 大阪体育大学   |
| 7    | 横嶋彩   | よこしま あや  | 北國銀行                  | 1990.07.03 | 162 | 環太平洋大学   |
| 8    | 原希美   | はら のぞみ   | 三重バイオレットアイリス          | 1991.03.09 | 170 | 日本体育大学   |
| 9    | 角南唯   | すなみ ゆい   | (公財)日本ハンドボール協会        | 1991.06.07 | 162 | 大阪体育大学   |
| 10   | 多田仁美  | ただ ひとみ   | 三重バイオレットアイリス          | 1991.10.13 | 166 | 日本体育大学   |
| 11   | 宮川裕美  | みやかわ ゆみ  | オムロン                  | 1991.11.02 | 172 | 青森中央高校   |
| 12   | 大山真奈  | おおやま まな  | 北國銀行                  | 1992.12.07 | 165 | 大阪体育大学   |
| 13   | 角南果帆  | すなみ かほ   | ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング | 1993.01.05 | 166 | 大阪体育大学   |
| 14   | 板野陽   | いたの みなみ  | イズミメイプルレッズ            | 1993.02.02 | 174 | 大阪教育大学   |
| 15   | 堀川真奈  | ほりかわ まな  | イズミメイプルレッズ            | 1994.03.04 | 174 | 大阪教育大学   |
| 16   | 永田美香  | ながた みか   | 北國銀行                  | 1994.05.28 | 180 | 四天王寺高校   |
| 17   | 秋山なつみ | あぎやま なつみ | 北國銀行                  | 1994.07.23 | 161 | 大阪体育大学   |
| 18   | 佐々木春乃 | ささき はるの  | 北國銀行                  | 1995.02.26 | 172 | 大阪体育大学   |
| 19   | 渋谷優衣  | しぶや ゆい   | ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング | 1995.11.27 | 178 | 東海大学     |
| 20*  | 中山佳穂  | なかやま かほ  | 大阪体育大学                | 1998.10.23 | 175 | 夙川学院高校   |

※中山佳穂選手は、欧州遠征のみ参加。

# 女子日本代表 活動報告

女子日本代表監督 ウルリック・キルケリー

いつもご支援、ご声援いただき誠にありがとうございます。

女子日本代表・おりひめ JAPAN は 7 月 17 日から 8 月 27 日まで計 42 日間にわたり、第 3 回合宿・第 2 回欧州遠征を行いました。ヨーロッパでのカップ戦などを転戦し、強豪クラブチームと 10 試合を戦い、世界選手権への準備を進めました。内容をご報告いたします。

## ① 7 月 17 日～ 21 日：熊本県

長い遠征に向けてのフィジカルトレーニング、また熊本世界選手権に向けての PR 活動等

## ② 7 月 21 日～ 25 日：東京都

フィジカルトレーニングの継続、ハンドボールの戦術練習

## ③ 7 月 25 日～ 8 月 2 日：デンマーク・ビボー (Viborg)

“Generation Handball” でデンマークのクラブチームと 3 試合

7 月 29 日 日本 21 (11 - 18, 10 - 13) 31 Silkeborg-Voel KFUM

7 月 30 日 日本 27 (15 - 8, 12 - 8) 16 Aarhus United

8 月 1 日 日本 22 (12 - 12, 10 - 14) 26 Randers

## ④ 8 月 2 日～ 12 日：ハンガリー・セーケシュフェヘルパール (Szekesfehervar)

ハンガリーのクラブチームと 3 試合

8 月 7 日 日本 24 (13 - 14, 11 - 8) 22 Mosonmagyaróvár

8 月 9 日 日本 24 (11 - 12, 13 - 14) 26 Alba Fehérvár

8 月 10 日 日本 26 (16 - 18, 10 - 16) 34 Érd

## ⑤ 8 月 12 日～ 18 日：デンマーク・スカーン (Skjern)

“Naturens Rige Cup” でデンマークのクラブチームと 3 試合

8 月 14 日 日本 29 (14 - 15, 15 - 15) 30 Team Esbjerg

8 月 17 日 日本 30 (11 - 10, 19 - 15) 25 Randers

8 月 18 日 日本 27 (15 - 15, 12 - 16) 31 Nykøbing Falster

## ⑥ 8 月 18 日～ 26 日：デンマーク・スベンボー (Svendborg)

地元クラブチームと試合・合同練習

8 月 20 日 日本 28 (14 - 19 14 - 17) 36 Odense

8 月 22 日 GOG と合同練習

8 月 23 日 Odense と合同練習

## ⑦ 8 月 27 日：帰国解散

今回の遠征の大きな狙いは、23 日間で欧州トップリーグチームと 10 試合というマッチメイクにより、世界選手権のレベルや連戦スケジュールを疑似体験することでした。

レベルという意味では、10 試合で合計 14 ヶ国以上 70 名以上の A 代表選手と対戦することができました。その多くが、世界選手権に来る最高峰の選手たちです。世界選手権で勝つための準備には、ヨーロッパのトップレベルの相手との試合を重ねることが絶対に必要です。

またスケジュールの観点では、世界選手権で決勝まで進むと 16 日間で 10 試合になることを鑑み、試合と試合の間隔が短い日程にしました。試合後はデータや映像の振り返りをし、短めの練習で修正点の確認をし、次への準備をするということを繰り返しました。同時に、心身のコンディションを調整するための栄養・休養・フィジカルトレーニングを意識的に確保することも大切にしました。

今回の遠征では、プレーの「安定性 (Stability)」をテーマにパフォーマンスの向上を図りました。遠征を通して安定性は増し、特に最後 4 試合は相手のレベルがさらに上がった試合でしたが、テクニカルミスが減り、得点力も上がり、6 週

間の成長を確実に感じられる内容となりました。最後には欧州チームと合同練習を組み、試合とは違う攻防練習の場で課題修正を図れたことも効果が高かったと思います。

以下、参加選手 20 名全員からのコメントを紹介いたします。

| No. | 氏名     | Position | コメント   |
|-----|--------|----------|--|
| 2   | 永田 美香  | PV       | 今回の遠征では試合をたくさんしましたが、良い時も悪い時も粘り強く戦えたと思います。でもまだまだチームとしても個人としてもパワーアップできると思うので、日々のトレーニングを頑張っていきます！                                     |
| 3   | 角南 果帆  | PV       | 今回の遠征での収穫と課題を元に、残りの3ヶ月で個人力を上げ、世界選手権でメダルを取る為の最大限の準備をします。  |
| 4   | 角南 唯   | RB       | 今回の欧州遠征で、ヨーロッパ相手に少しずつですがチーム、個人としてのスキルがレベルアップしていると感じました。しかし、まだまだ課題は沢山あるので世界選手権までに良い準備をして大会に臨みたいと思います。                               |
| 5   | 塩田 沙代  | LB       | アグレッシブなDFで相手を止めることでチームに勢いをつけられるように、自分の強みを伸ばしていきます。   |
| 6   | 堀川 真奈  | PV       | 世界トップレベルのフィジカルに負けずに当たる感覚を学べ、得意なDFに手応えを感じることができました。   |
| 9   | 横嶋 彩   | CB       | 世界選手権に向けて身体、精神共に良い経験ができました。シュート決定率がチーム・個人共に課題となったので、そこを上げていきたいです。  |
| 12  | 板野 陽   | GK       | 今後はどんな状況でコートの中に入っても安定感のあるプレーが出来るようにしていきたいです。   |
| 13  | 勝連 智恵  | LW       | サイドシュート、フリーシュートの決定率は課題になっています。大きいキーパーに対するシュートの感覚が良くなってきたので、次回の合宿にも活かせるように頑張りたいと思います。   |
| 15  | 多田 仁美  | RB       | 海外で初めて弾丸ステップシュート決めました！もっともっと全ての局面の精度を上げていきます！！   |
| 16  | 宮川 裕美  | GK       | 今回の遠征では海外のトップチームと試合をして、世界選手権を想定することができました。より世界選手権に向けて士気がより高まりました！  |
| 18  | 田邊 夕貴  | LB       | 対ヨーロッパで受けた感覚を忘れず、攻守ともに強さを持ち、残りの日数で更に高めていきます。   |
| 20  | 秋山 なつみ | RW       | 試合に出る機会を多くいただき、たくさん経験できた遠征でした。DFでは接触が甘いと力負けしてプレーされたり罰則になったりするので、一回の接触で相手を止めきる強さをつける必要性を感じました。シュート決定率とDF力を上げて攻守ともに貢献できるように努力していきます。 |
| 22  | 渋谷 優衣  | GK       | 毎日が刺激的でとても良い経験が出来ました。世界と戦えるGKになれるよう、今後もより一層練習に励みます！  |
| 24  | 原 希美   | LB       | 世界選手権を想定してたくさん試合を行い、チーム、個人共に成長できました。大きくて強い相手でも負けないDF力を磨きます！  |
| 25  | 大山 真奈  | CB       | 世界のトップ選手たちと試合や合同練習をする中で、色々な事を経験できました。世界選手権に向けて残りの期間で良い準備をしていきたいです。   |
| 27  | 佐々木 春乃 | LB       | 今後の自分の課題は、海外の選手を1発で仕留められるDF力、そしてカットイン、ロングのシュートの精度を上げることです。   |
| 28  | 永田 しおり | PV       | 今回の遠征では速攻の得点が1試合平均8点で、少しずつ得点が増えてきました。しかし、DFでゲームストップの数が少なく相手の勢いを止められていないので、世界選手権までにDFをさらに強化していきたいです。                                |
| 36  | 中山 佳穂  | RB       | ヨーロッパの強豪チームとの試合や合同練習で、普段では経験できないような高いレベルでのハンドボールができ、とても充実し、自分自身のモチベーションも上がりました。自分の持ち味のロングシュートで一本でも多く得点をし、チームに貢献できるように頑張ります。        |
| 41  | 河田 知美  | LB       | 今回の遠征で自分自身のレベルアップとチーム力向上ができたと思います。世界選手権に向けて最大限の準備をこれからもしていきます。   |
| 81  | 石立 真悠子 | CB       | 速攻を含めた得点力アップや、苦しい時間帯をどう乗り越えていくかに収穫があった遠征でした。次の遠征では、強豪相手に連戦でも勝ちきるチーム力をつけて、世界選手権に繋がりたいです。  |

選手全員、毎日真剣にポジティブに頑張ってくれました。心から誇りに思います。

おりひめ JAPAN は今後、9月末の欧州遠征(ノルウェー)、10月半ばからの強化合宿と欧州遠征、11月の JAPAN CUP(東京)で準備を進め、いよいよ熊本での世界選手権に向かいます。

最後になりましたが、1ヶ月以上の長期遠征にご協力いただきました所属チーム・関係者の皆様へ改めてお礼を申し上げます。

今後とも皆様の力強い応援をよろしく願いいたします。



# 第8回男子ユース世界選手権

開催期間：2019年8月6日～8月18日

開催地：北マケドニア



## スタッフ名簿

| 役職     | 氏名     | フリガナ       | 所属             |            |
|--------|--------|------------|----------------|------------|
| 団長     | 田口 隆   | タグチ タカシ    | (公財)日本ハンドボール協会 |            |
| 監督     | 植松 伸之介 | ウエマツ シンノスケ | (公財)日本ハンドボール協会 | 明星大学       |
| コーチ    | 大房 和雄  | オオフサ カズオ   | (公財)日本ハンドボール協会 | 高岡向陵高等学校   |
| GK コーチ | 吉田 耕平  | ヨシダ コウヘイ   | (公財)日本ハンドボール協会 | 関西大学北陽高等学校 |
| ドクター   | 松村 健一  | マツムラ ケンイチ  | (公財)日本ハンドボール協会 | 多根総合病院     |
| トレーナー  | 渡部 真弘  | ワタナベ マサヒロ  | (公財)日本ハンドボール協会 | さがみが丘整骨院   |
| 分析     | 大杉 憲由  | オオスギ ケンユ   | (公財)日本ハンドボール協会 | 大同大学       |

## 選手名簿

| 背番号 | ポジション | 氏名         | フリガナ        | 所属     | 生年月日       | 身長  | 出身校          |
|-----|-------|------------|-------------|--------|------------|-----|--------------|
| 1   | GK    | 石濱 壘       | イシハマ ルイ     | 同志社大学  | 2000.02.25 | 183 | 愛知高等学校       |
| 2   | CB    | 佐藤 陽太      | サトウ ヨウタ     | 筑波大学   | 2000.08.01 | 171 | 駿台甲府高等学校     |
| 4   | LW    | 可児 大輝      | カニ ダイキ      | 明治大学   | 2000.04.25 | 182 | 中部大学春日丘高等学校  |
| 6   | LB    | 窪田 礼央      | クボタ レオ      | 日本体育大学 | 2000.06.22 | 189 | 氷見高等学校       |
| 7   | CB    | 安平 光佑      | ヤスヒラ コウスケ   | 日本体育大学 | 2000.06.29 | 172 | 氷見高等学校       |
| 8   | LW    | 清水 裕翔      | シミズ ヒロト     | 明治大学   | 2001.02.03 | 179 | 氷見高等学校       |
| 9   | PV    | 吉田 守一      | ヨシダ シュイチ    | 筑波大学   | 2001.03.26 | 190 | 那賀高等学校       |
| 11  | LB    | 藤川 翔大      | フジカワ ショウタ   | 筑波大学   | 2000.02.11 | 180 | 岩国工業高等学校     |
| 12  | LW    | 矢村 裕斗      | ヤムラ ヒロト     | 大阪体育大学 | 2000.10.19 | 184 | 神戸国際大学附属高等学校 |
| 14  | LB    | 山口 直輝      | ヤマグチ ナオキ    | 日本体育大学 | 2000.09.25 | 190 | 高知中央高等学校     |
| 16  | GK    | 高木 アレキサンダー | タカギ アレキサンダー | 法政大学   | 2000.04.19 | 180 | 市川高等学校       |
| 17  | PV    | 朝野 翔一郎     | アサノ ショウイチロウ | 筑波大学   | 2000.02.15 | 185 | 氷見高等学校       |
| 18  | RW    | 梶山 瑞生      | カジヤマ ミズキ    | 大阪体育大学 | 2000.10.31 | 179 | 神戸国際大学附属高等学校 |
| 20  | CB    | 石田 知輝      | イシダ トモキ     | 明治大学   | 2000.12.28 | 178 | 洛北高等学校       |
| 22  | LB    | 白石 竜聖      | シライシ リュウセイ  | 日本体育大学 | 2000.05.21 | 190 | 市川高等学校       |
| 23  | RW    | 治田 大成      | ハルタ タイセイ    | 日本体育大学 | 2000.12.01 | 177 | 北陸高等学校       |
| 24  | RB    | 榎本 悠雅      | エノモト ユウガ    | 筑波大学   | 2000.12.20 | 175 | 藤代紫水高等学校     |
| 25  | RB    | 蔦谷 大雅      | ツタヤ タイガ     | 中央大学   | 2000.04.04 | 180 | 大阪体育大学浪商高等学校 |



第8回男子ユース世界選手権



男子ユースU19 監督 植松 伸之介

## ユース世界選手権を終えて

まず始めに、今大会の参加にあたりご尽力いただいた日本ハンドボール協会スタッフの皆様、ならびに選手の派遣にご協力頂いた所属チーム関係者の皆様に、この場をお借りし感謝の意をお伝えしたいと思います。 本当に有難うございました。

第8回男子ユース世界選手権へ向けてのチームが発足してからの約2年間、一貫してディフェンスの強化に重点を置き、サイズが無いから高く上げるディフェンスではなく、間とタイミングを活かしたハードなコンタクトで相手の勢いを殺し、頭と身体を使ったPVの位置の取り合い、自陣9mエリアの中では相手に自由にさせない『9mエリアの中は戦場』をコンセプトに取り組んできました。

攻撃力の高いタレントが揃い、そこに選手とスタッフの様々なアイデアが融合し、どんどんクリエイティブなプレーが生まれてくる様は、コーチングしながらもワクワクするような楽しさと可能性を感じた反面、守備に関してはディフェンスに対する意識の低さが顕著に現れていました。

先ず我々はヨーロッパの選手が、ズルさも含めどのようなディフェンスをどのくらいの強度でやっているのか、ハードとラフの違いは何かを映像を使いながらの意識付けから始め、遊びの中での身体接触から実戦でのハードコンタクトへと段階的に上げていく事により、「どの程度までやっていいのか」の感覚を習得させることができました。

そして、実際にヨーロッパのハンドボールを経験されてきている選手も多い日本リーグのチームの皆様にもご協力頂き、遠慮なくハードにコンタクト出来るレベルにまで上げることに成功しました。

その結果として9・10位決定のクロアチア戦はこのチームの集大成と言える、最高のディフェンスでゲームをコントロールすることが出来ました。

結果として目標としていた前回大会の8位を超える事は出来ませんでした。現地で観戦していた目の肥えたメディア・観客・他チームのスタッフからも日本チームに対する賛辞を多く耳にする中、とりわけディフェンスに対する評価が高かった事が、このチームが2年間取り組んできた事の成果であると自負しております。

「あの時ああしておけば…」などもっとやるべき事はあったかも知れませんが、このチームにとって必要であった「ディフェンスの楽しさ」を知る事ができ、ヨーロッパの強豪国から2勝をあげた事は選手達にとって大きな自信と可能性を感じたはずです。

殆どの強豪国と言われる国のユース年代の選手達はこれからシニアのチームに属し、リーグ戦カップ戦含め年間50～60試合を行う中で、ジュニア世代までにサイズも経験値も間違いなく大きくアップしてきます。

日本で同じ環境を求める事は不可能ですが、選手各々がこの大会を通して感じ、身に付けた事を維持・レベルアップできるか。ここから2年の時間の使い方がハンドボール選手として将来を左右すると言っても過言ではないのではないかと感じます。

最後に、選手・スタッフともに最高の仲間達と出会い、最高の仕事をする機会を与えて頂いた方々、ご協力頂いた全ての方々にこの場をお借りして感謝の意をお伝えしたいと思います。

有難うございました。

## 男子ユース U19 GK 石濱 壘

## 世界で戦うということ

私は今回の世界選手権をユースチームが始動し始めてからの約2年間の集大成であるため並々ならぬ覚悟と決意を胸にのぞんだ。個人としては、レギュラーとして試合への出場機会を掴み活躍すること、チームとしては前回大会の記録を塗り替えベスト4に入ることを目標としていた。この個人、チームとしての目標を達成するための日本での事前合宿とドイツへの遠征ではキーパーとしての技術面での成長と考え方、チームでの戦術やチームビルディングを行なった。具体的なキーパーの技術としては、大きな面をつくりどれだけゴールを身体で埋められるか、細かい位置どりからじっくり待ちシュートのタイミングでダイナミックな動きをする、また1人で止めるための個の能力を上げていくといった内容であった。これらの課題が日本の事前合宿からドイツ遠征を通じて徐々にできるようになり、自信へと繋がりマケドニアへと現地入りをした。

試合の日が訪れ初戦のデンマークの試合前、監督・コーチに呼ばれた私はベンチメンバーから外れることを告げられ、かなり悔しい想いと不甲斐なさを感じた。他のメンバーが試合に向け気持ちを高めて行くなかで消極的にならないように自分のメンタルを保たなければならないことはかなり難しい。だが、そんな中でも今自分がやれることは何かを常に考えてサポートできることをしたり、自分の出番が回ってきたときのことを想定して日々の練習や活躍できることをイメージし続けた。グループリークが4試合終わり、マケドニア戦で初めて起用されスタートからプレーした。悔しい思いをすべてぶつけることと大房コーチのメンタルトレーニングで教わったセルフトークや表情を作ることを意識し試合にのぞむことができ、冷静に相手のシュートを見極めることができた。グループリークを2位で通過し、アイスランドとの対戦となった。この試合ではディフェンスが上手く機能せず相手との点の取り合いとなってしまう敗北した。この時点で目標であったベスト4を達成することができないことになったが、日本で応援してくれる人や現地のサポーター、さらには2年間共に戦ってくれたスタッフのために最終戦を勝ちに行くことを藤川や朝野と話しクロアチアにのぞんだ。クロアチア戦では前半の途中まではいつもの厚みがあるディフェンスをすることが出来ず苦しい展開となったが声を掛け合い修正を重ねディフェンスが機能し始めると日本のペースで試合を運ぶことができ、7メートルコンテストの末勝利することができた。9位で満足しているわけではないが自分達のハンドボールをし最高の形で世界選手権を終えることができたと思う。

世界選手権を終えて、私自身が主に感じたり考えたことは2つある。1つは、キーパーの重要性である。私自身の考えでは、キーパーはコートプレーヤー7人のうち1番重要なポジションなのではないかと考える。今日本のハンドボールで最も差があると言われているのはキーパーとポストである。世界の強豪国から勝ち切るためにはキーパーの個のレベルを上げなくてはならない。私自身は、サイドシュートでの位置どりと角度の修正、そしてじっくり待ちダイナミックな動きをするということを今後の課題として個で止めることを意識していきたい。2つ目には、海外でプレーをするということだ。やはりまだまだ世界との差はあり、ハンドボールをする上での条件や環境、文化として根付いているかという点では日本は劣っていると感じた。そこで、思い切って世界へ挑戦しそこで学んだハンドボールに対する姿勢や文化、プレースタイル、ハンドボールを通じて得た生き方や考えを日本に帰って来たときに発揮、還元できたら素晴らしいことだと考えた。そのため、私自身は大学生の間に海外へハンドボール留学を挑戦したいと考えている。次の目標としては、ジュニア世代になりまずは、高木や矢村、その他の選手と競い合いアジア選手権でレギュラーとして試合に出場し優勝、その後の世界選手権では次こそはベスト4に入りたい。

## 男子ユース U19 アナリスト 大杉 憲由

北マケドニアで開催された第8回U19男子世界選手権、強化合宿ドイツ遠征にU19日本代表アナリストとして帯同させていただいた。

## 事前準備

監督・GKコーチに試合のハーフタイムの際、ミーティング時に必要な定量的データをお聞きし、定量的データのフォーマットを作成しました。

また、事前に入手した日本と同グループの対戦相手の映像を定性的データとして、サイドラインを用いて映像を編集しました。基本的な提示方法として、DF局面、OF局面などの局面ごとに分けたものを準備し、その他は監督、スタッフ陣、選手に要望を聞き定量的データを作成しました。試合のハーフタイムの際に提示するデータとしては、攻撃成功率、シュート達成率、シュート成功率、DF成功率、GK阻止率、ミス発生率、シュート別の得点と本数を日本と相手チームを数値で比較できるようにしました。試合後の夜には個人別のシュート成功率、ミス本数、アシストなどの個人評価をする定量データを作成しました。

今回の世界選手権でのミーティングの基本的な方法としては、先に選手とアナリストである自分とでミーティングを行い、選手同士で話し合いの場を増やし、各個人意見を持つようにしました。

その後、事前に監督、自分を含めたスタッフで話し合い、ポイントを押さえた動画を抜粋し、全体ミーティングで動画を見ながらポイントを説明、選手とスタッフの意見を出し合い意思統一を行いました。

## 定量的データから見える日本とトップチームの差を分析

今回この報告書の定量的データに関して、自分が作成した分析フォーマットではなく、大会公式記録を元に報告を行う。

| 全体      | 2019年U19世界選手権 |       |       |       |
|---------|---------------|-------|-------|-------|
|         | 日本            | 対戦相手  | TOP8  | TOP3  |
| 攻撃回数    | 59.3          | 59.6  | 64.6  | 64.5  |
| シュート数   | 49.1          | 47.0  | 52.3  | 51.2  |
| 得点      | 30.7          | 29.4  | 33.1  | 34.4  |
| ミス      | 10.3          | 13.6  | 12.2  | 11.5  |
| 攻撃成功率   | 51.8%         | 49.4% | 51.2% | 53.4% |
| シュート成功率 | 62.5%         | 62.6% | 63.3% | 67.3% |
| ミス率     | 17.3%         | 22.8% | 18.8% | 17.8% |
| GK阻止率   | 27.3%         | 26.6% | 28.1% | 33.3% |

\*計8試合の平均データ

上記のデータからは、日本と対戦相手との比較として、攻撃成功率を抑えることが出来ているため、DFの成功率が良かったことがわかる。

またトップチームと比べても攻撃成功率、シュート成功率はさほど変わりがなく、ミスに関しても少なく押さえられおり、数値から見るとトップ8のチームには同等に戦える力があると推測できる。日本とトップ3との差としては、得点数、GK阻止率の差が大きいと思われる。

## 次にシュート専有率・成功率の比較と考察

| 各シュート占有率 | 2019年U19世界選手権 |       |       |       |
|----------|---------------|-------|-------|-------|
|          | 日本            | 対戦相手  | TOP8  | TOP3  |
| 9m       | 36.1%         | 30.2% | 30.6% | 34.0% |
| 6m       | 21.4%         | 9.6%  | 11.2% | 11.8% |
| Wing     | 13.5%         | 17.4% | 12.6% | 11.6% |
| BT       | 7.3%          | 9.7%  | 10.5% | 10.4% |
| 7m       | 5.9%          | 5.6%  | 6.0%  | 6.3%  |
| FB       | 9.2%          | 6.3%  | 7.5%  | 7.8%  |

| 各シュート成功率 | 2019年U21世界選手権 |       |       |       |
|----------|---------------|-------|-------|-------|
|          | 日本            | 対戦相手  | TOP8  | TOP3  |
| 9m       | 46.0%         | 49.0% | 54.5% | 55.6% |
| 6m       | 77.6%         | 64.1% | 75.3% | 71.4% |
| Wing     | 57.5%         | 68.1% | 64.5% | 63.1% |
| BT       | 75.6%         | 67.1% | 70.0% | 78.5% |
| 7m       | 83.9%         | 75.7% | 74.6% | 79.9% |
| FB       | 85.5%         | 61.4% | 72.7% | 71.3% |

上記のデータからは、日本のシュート専有率の9mは36.1%と他に比べ多いにもかかわらずシュート成功率が低いことが数値からわかる。良い数値としてはFBで専有率、成功率が高い。

シュート成功率からは、Wingシュートの成功率が低いことがわかる。

他の考察として、シュート専有率に関してトップ8、トップ3は9mを除きパーセントのバランスが良く、日本はバランスが悪いことが読み取れた。

### GK 阻止率の比較と考察

| GK阻止率 | 2019年U19世界選手権 |       |       |        |
|-------|---------------|-------|-------|--------|
|       | 日本            | 対戦相手  | TOP8  | TOP3   |
| トータル  | 29.7%         | 35.9% | 28.1% | 33.30% |
| 9m    | 42.2%         | 19.5% | 39.6% | 46.5%  |
| 6m    | 7.2%          | 35.4% | 19.6% | 25.0%  |
| Wing  | 24.9%         | 16.1% | 27.8% | 30.9%  |
| BT    | 16.1%         | 22.0% | 24.1% | 49.7%  |
| 7m    | 2.9%          | 16.1% | 18.2% | 22.1%  |
| FB    | 26.4%         | 24.1% | 18.3% | 18.3%  |

GKの阻止率としては6m、BT、7mの阻止率が非常に低いことがわかる。

### まとめ

- ・シュート成功率を上げるためシュート専有率のバランス良くする
- ・9m、Wingシュートの強化（成功率を上げる）
- ・GK：近めのシュート阻止率の強化

**多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。**

大同特殊鋼の素材は、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。  
私たちはこれからも、素材の力で新たな価値創造に貢献していきます。

**DAIDO STEEL GROUP**  
Beyond the Special



外からは見えませんが、骨のある会社です。



## 男子ユース U19 帯同医師 松村 健一

## U19 男子世界選手権帯同ドクター報告 —スポーツ整形外科医として—

第8回 U19 男子世界選手権が北マケドニア共和国に開催されました。今回直前にドイツのライプツィヒに滞在し現地クラブチームとの強化試合が組まれています。

## 事前準備

帯同決定より大会関連の様々な情報を収集します。北マケドニア共和国は近年国名の変更などもあり、政治的な情勢も含めて調査します。外務省などの HP を中心に利用し、首都スコピエでの開催であり危険度も低く大きな問題はないと判断しました。海外滞在であることに十分注意することを徹底しています。選手決定後より選手自身で作成したメディカルチェックシートによる問診から、傷害・外傷を抱える選手へは事前に診察を行い加療が必要な選手へ各所属チーム関係者と連携をとり、治療のアドバイスや実際に治療の紹介を行い集中的な治療を進めました。幸い最終的に怪我によるメンバー変更なく大会に参加できました。治療や疾患によっては必ず必要な期間があり、選手状態の把握は早急にすべき事案であります。事前合宿の際にドーピングコントロールについての講習を行います。昨年アジア大会ではドーピング検査は行われなかったため、選手自身は経験がありません。世界選手権では昨今必ず行われているため、検査の流れも含めてアンチドーピングの理念を講義します。

遠征期間中の体調管理の方法や評価方法とその必要性について各事前合宿にて伝えます。コンディショニングの評価として選手自身での自己管理の指標として、体温・体重・脈拍・睡眠などを日々自身で測定し体調管理に努めます。さらに尿比重計をドクターとトレーナーが持参し朝夕の尿比重を測定し脱水、体調や疲労度の評価を行います。実際の遠征中にこれらの実際の数値化された部分からも練習時間や強度などをスタッフ陣でのミーティングで議論し調整することにも利用します。

また超音波検査機器を今回もチームで持参しています。トレーナーの渡部氏のご厚意により院の機器を持参いただきました。現地での外傷や必要に応じて疼痛の治療などに用いることが可能であります。実際の器質疾患がないことを十分に評価した上でインターベンションとしてハイドロリリースといった手技を中心に行います。生理食塩水の使用のためドーピングにかかることもありません。より良いコンディションで最大限のパフォーマンスを発揮できるようにサポートします。

事前のコンディションチェックにおいて恥骨骨折との診断を受けた選手が2名いましたが、直接診察・確認の上、鼠径部痛症候群の一つである恥骨浮腫の状態でありコンディションの改善によりプレー可能と判断しています。これら選手に対して超音波骨折治療器を当院物品とトレーナー部会の協力により計2個持参しています。1名の選手について遠征前より貸し出し治療を進めました。

## 遠征

始めに離脱や選手変更を余儀無くされる疾患や外傷はありませんでした。ドイツにおいては内科的な感冒症状やかぶれなど皮膚疾患がそれぞれ1名ずつおり、投薬により対応しました。以下投薬など、使用薬剤は全てドクターズバックに含まれている内容になります。特徴的な内科対応としては、マケドニア入り後の消化器症状としての下痢や腹痛があります。5名の対応をしました。食事としてはレパートリーに偏りや種類の多少はあるものの衛生面や摂取量については毎日測定している体重の変化からも問題ありませんでした。要因としてはヨーロッパでの遠征であり、硬水の影響が考えられます。ドイツでの腹部症状はほとんど発生がなく、マケドニア入り後が多かったため、その影響には数日の期間が要されるのかと思われます。遠征先に応じての水分摂取を心がける必要があります。

また数値化できる、指標として尿比重の測定により、自身のコンディション評価を徹底しました。できる限り、即時的に自身の状態が把握できるように提出されてすぐメディカルスタッフで測定し、選手に伝え状態を把握できるようにします。また即座にグラフ化し日々の変化を伝えます。それにより適正値の理解と調整を促しました。選手個人が自身で管理し得る体調把握の指標であったと考えております。以前の帯同からも同様であります。やはり遠征後

半は比重が高値となる傾向は否めません。コンディション維持や最適なパフォーマンス維持には比重の適正値は文献でも確認でき、ある程度把握されています。これを踏まえて、特に育成世代であるアンダーカテゴリーにおいて今後早期から意識的に水分摂取の重要性を訴え続けることが必須であります。同チームに昨年の東アジア選手権において尿検査による比重測定を行なったものと比較すると比重の上昇や改善は昨年と比べると良好な結果であり、継続した介入が必要であります。

外傷の判断はまず、問診・身体所見などが必須であることは大前提ですが、上記の超音波機器が帯同においては必須となるデバイスと考えています。具体例としては、新鮮な外傷による骨折の除外、発生した筋損傷の重症度の把握が挙げられます。これらに対して超音波機器を用い、加えて診察所見により、各々プレー可能と判断できるに足る診断が可能でありました。また昨今整形外科領域においてトピックスでもある超音波機器を用いたインターベンションとして今回は主に生理食塩水を用いた現場での即時効果を求めた加療を行いました。例えば、遠征前発症のいわゆる鼠径部痛症候群において各病態における対策としてこのインターベンションにより、導入した遠征後において導入以前の遠征前よりもパフォーマンスと疼痛が軽減し、一定の効果をえました。また遠征時発症や増悪した、腰痛疾患や腱附着部症においても同様に対応し、実際のゲームへの参加も可能でした。選手のパフォーマンス維持に関与できたと思います。超音波骨折治療機器の使用を遠征時は毎日継続し使用しています。恥骨部分の圧痛は軽減され、プレーに支障が出ることなく対応できました。治療やトレーナーによるケアは状態把握も含め、ドクターにとっても有用であると考え全て同一の部屋で行いました。トレーナーとドクターの評価や治療をリアルタイムにて議論しながらサポートに努めました。

ドーピング検査はグループリーグ後半の1試合で行われました。現地のドーピング委員会において無作為に選ばれた選手が1名試合後に呼ばれ、尿検査にて行います。選手の選び方は不明であります。その後の流れは定型通りで、事前合宿での講習内容通りのため選手もスムーズに検査が行えました。

余談ではありますが、適宜各チームのメディカルスタッフの対応や処置を観察する機会もあり、また実際一部のチームのドクターやトレーナーとコミュニケーションをとる中で、日本のメディカルとしてのサポート体制は群を抜いているものと考えられます。トレーナーによるケア、選手対応、治療機器、まだまだできることは当然あるかと思いますが、様々な関係各所の協力により現状考えうる最善のサポートはさせて頂きました。

### まとめ

メディカルとして内科疾患や全身管理への対応はもちろんのこと、今回特にスポーツ整形外科医としての立場から治療も含めパフォーマンス改善に携わる機会が多くありました。事前よりスタッフやトレーナーとも蜜に連絡をとり、遠征先においても早急かつスムーズに対応できました。

遠征にあたり様々な準備や協力を頂いた日本ハンドボール協会の関係者の皆様、NTCの皆様、長期の不在を快諾頂きましたその間を支えて頂いた病院のスタッフに感謝の意を表します。また最高のチームであり、選手やスタッフが正に一丸となって各々が全力を出して世界で戦えたことを誇りに思います。

**なんだか、家族が楽しい、1日です。**

次はいつ行く？  
ゆめタウン

知らなかった「かわいい」や「おいしい」に出会える1日。家族ってまるで探検隊だ。

株式会社イズミ  検索 <https://www.izumi.co.jp>  
 本社 〒732-8555 広島市東区二葉の里三丁目3番1号 TEL 082-264-3211 (代)



## 予選リーグ

## 日本 23 (11 - 18、12 - 12) 30 デンマーク

世界選手権グループCで戦う日本代表は、デンマーク・マケドニア・アルゼンチン・バーレーン・ナイジェリアと同組。初戦は過去優勝3回を誇るデンマーク。

序盤、デンマークはロングシュートやポストを絡めて攻める。日本は安平の連打、藤川のミドル、朝野の身体を張ったポストで応戦し、10分までは5対5の互角の展開。サイズのあるデンマークDFに対し早いパスワークとワイドポジションで打開をはかると、徐々に捕まるシーンが増える。安平からポストへのノールックパスがカットされ、速攻で失点。果敢にシュートを狙うも、デンマークGKに捌かれ、速攻を許すなど、前半は11対18の7点ビハインドで折り返す。

ハーフタイムでDFでは密集・数的優位状態を作ることとマークマンを明確にすることを確認して後半へ。DF陣が強度のあるファーストコンタクトで簡単にシュートを打たせない粘りを見せると、変わって入ったGK高木がサイドシュートをセーブ。リズムの出た日本は6連続得点で試合の主導権を握り、4点差まで詰め寄った所でデンマークがタイムアウト。デンマークは、丁寧な2対2からロング、ポストで加点。日本は奮戦するものの、23対30でタイムアップとなった。後半は随所に日本の良さが現れ、DF・GK中心に良く戦えた部分があった。

次戦はアジア選手権決勝で敗れた宿敵・バーレーンである。デンマーク戦での経験・課題を糧にして何としてもポイントを勝ち取りたい。

## 予選リーグ

## 日本 27 (14 - 11、13 - 13) 24 バーレーン

蔦谷の先制ゴールでスタートしたバーレーン戦。開始6分3対3と互角の展開から蔦谷の強打で勝ち越した日本は、その後も吉田の速攻、藤川のカットインやミドル、安平から可児へのパスプレーなどで先行を続けた。16分、蔦谷の7mTで9対6とすると、相手退場の隙に連取。吉田へのポストパスプレー、自らのカットインと、いずれも安平の鮮やかな攻め技が日本に主導権をもたらせた。高い位置でフットワークよく動き、容易にシュートまで持ち込ませないDFの集中力も光った。このあと吉田のポストや蔦谷のステップ、可児のサイドなどで、25分までに14対9と優位をキープする。しかし、バーレーンのタイムアウト後に2点を奪われてしまう。前半残り5分あたりからトップを高く上げた相手DFの前に得点ペースが鈍り、終了間際には退場もあり、後半出だしの攻防に不安がのぞいた。

後半開始早々にバーレーンに連打を許し、さらに7mT+退場でピンチが広がる。それでも、この7mTをバーレーンが外すと、左腕・榎本がサイドを決め、前半終盤から10分間沈黙していた重苦しいムードを断ち切る。ここからバーレーンに偏るジャッジで7mTや退場が相次ぐ中、藤川のカットイン、蔦谷のループ、安平の速攻で貴重な得点を積み上げる。2点差内の息詰まる攻防が続いたあと、後半25分23対21から相手退場のチャンスに吉田のポスト、GK高木のファインセーブから山口の速攻で25対21とする。バーレーンもミドル、サイドで必死に粘るが、28分30秒榎本のカットインで勝負あり。最後は、捨て身のプレスDFを仕掛ける相手の間隙を縫って藤川が27点目のゴールを決めて試合終了。

昨年9月のアジアユースで決勝を含む2試合に敗れていたバーレーンに雪辱を果たし、価値ある1勝をものにした。

## 予選リーグ

## 日本 29 (18 - 14、11 - 12) 26 アルゼンチン

サイド可児の連打で好スタートを切った日本は、吉田のポストを絡めて5分まで3対1とリード。このあと安平、藤川、山口らで加点するものの、アルゼンチンに2回の3連続得点を許すなど波に乗れず、19分8対9と先行された。しかし、藤川のカットインで得た7mTを蔦谷が決めて同点にすると、安平のステップ、治田の速攻、さらにはGK矢村のファインセーブが蔦谷の速攻ゴールを呼び、鮮やかな4連打で22分12対9と試合の流れを引き寄せた。このあと得点の応酬となった中、27分過ぎから藤川、清水、安平の3連打などで優位をキープ、18対14と4点リードで前半を折り返した。

後半開始早々、朝野のポストで幸先良いスタートを切った日本が38分23対18と優位をキープしていたが、このあとは決めるべきシュートを相手GKに阻まれて得点ペースが上がらず、ミドル、サイドなどで加点するアルゼンチンの追撃を許し、42分23対21、47分24対22、50分25対23と重苦しい展開が続いた。そんな中で53分、サイド可児からのスカイパスを受けた蔦谷が27点目をゲット、次のプレーでは朝野がポストで退場付きの7mTを奪い、これを安平がきっちりゴール。さらに好DFで相手ミスを誘い、安平の速攻で56分29対23として試合を決定づけた。このあとアル

ゼンチンのプレス DF に追加点を奪えず、3連続失点を喫したのはいただけなかったが、予選ラウンド 2 勝目をマークして 3 戦全勝のデンマークに次ぐ位置に浮上した。

この試合の Men Of the Match (MOM) は、7 得点で日本の攻撃陣をリードした安平が選出された。

## 予選リーグ

日本 35 (18 - 9、17 - 21) 30 ナイジェリア

試合開始早々から一進一退の攻防が続くが、先にリズムを掴んだのは日本。12 分 6 対 6 から清水のスピードプレーで勝ち越すと、吉田のポストで初めて 2 点のリードを奪い、日本の攻守のリズムが良くなった。蔦谷のサイドや清水の 3 連打などで、22 分までに 14 対 8 と一気に混戦を抜け出した。抜群のスピード力を持つナイジェリアだが、時間とともに DF の集中力を欠いたことで退場者が多発、佐藤のステップ、蔦谷の速攻などで得点ペースを上げた日本が、18 対 9 とダブルスコアで前半を折り返した。

後半に入っても日本ペースは変わらず、帰陣の遅い相手を速攻で切り崩し、石田の連打や可児のサイドなどで 38 分 24 対 14 と 10 点差まで水をあけた。しかし、それからはシュートの精度を欠き、DF でも簡単に失点を許す場面が目立ち、19 分までに 29 対 23 とじりじりと差を詰められた。このあと窪田、榎本、治田らで加点、21 分には治田から清水へのスカイプレーによる得点で、流れを引き戻したかに見えたが、終盤はナイジェリアのプレス DF にミスが多発するなどして失点がかさみ、26 分には 33 対 29 と 4 点差まで詰め寄せられた。結局は 35 対 30 でタイムアップ。次戦以降、世界上位をめざす強敵が待ち受けており、一瞬たりとて気の抜けない、厳しく、タフな展開を乗り越えてかなければならない。しっかり切り替えて、次戦の地元北マケドニア戦に臨みたい。

この試合の MOM は速攻、サイドなどで 9 得点をマークした可児が選出された。

## 予選リーグ

日本 31 (15 - 11、16 - 11) 22 北マケドニア

開始早々にキャプテン藤川のカットインで 7mT を奪い、これを安平がきっちり決めて先制点を奪うと、山口の速攻、吉田のポスト、藤川の速攻と続いて開始 4 分までに 4 連取。守っては、高い位置でプレッシャーをかけて正面でアタックする一方、フォロー DF も素晴らしく、相手にシュートまで持ち込ませずに OF ミスを誘った。5 分過ぎには左腕・治田のサイドも決まり、たまらず北マケドニアベンチがタイムアウトを要請する。10 分過ぎには、退場の間に 2 点を失うが、それでも清水、山口の連続速攻で主導権をがっちりとキープ。21 分過ぎ 12 対 6、26 分には 15 対 9 と快調に飛ばした。このまま先行を続けたい日本だったが、北マケドニアにも開催国の意地を見せ、追い上げる。しかし、GK 石濱がノーマークをファインセーブ、15 対 11 で前半を終了する。

後半に入っても、可児のカットイン、吉田のポストで連取、守っては GK 石濱の堅守もあり、絶好の立ち上がりを見せる。その後も左腕エース蔦谷の豪快なロングでさらにリードを広げる。しかし、司令塔の安平にマンツーマンでマークされると、攻撃のリズムに微妙なズレが出た。それでも、藤川のカットイン、可児の速攻、GK 高木の好セーブもあり、後半 17 分には 23 対 16 とこの試合最大の 7 点のリードを奪う。日本は終盤に入っても攻撃の手を緩めず、朝野のポスト、清水の連打、窪田のステップなどで加点し、31 対 22 でタイムアップ、勝利の雄叫びをあげた。MOM は縦横無尽のゲームメイクで攻撃陣をリードした安平が選出された。

## メインラウンド

日本 34 (13 - 16、21 - 23) 39 アイスランド

藤川のカットインで先制した日本は、安平が 7mT を決め、6 分までに 4 対 1 と先手を取る上々の滑り出し。ここで一気にたたみかけたかったが、ゴールインかと思われた藤川、蔦谷のシュートがオフフェンスファールになるなどで得点につながらず、13 分までにアイスランドに 4 点を連取され、1 点を追う展開となった。このあとも長身 GK を擁するアイスランド DF を崩し切れず、サイドハンドからのステップ、クイックなど、鋭いミドルを放つ相手に連続してゴールを許し、18 分まで 4 対 8 と劣勢が続いた。ようやく 19 分に蔦谷の強打や治田のサイドで加点するが、DF が踏ん張れず失点がかさみ、24 分 7 対 13 と 6 点差まで水をあけられた。それでも 28 分過ぎに GK 石濱のファインセーブから清水の速攻で加点すると、吉田のポストや安平の 2 本の 7mT を含む 3 得点で追走、13 対 16 まで詰め寄る粘りを見せ、後半の反撃に

望みをつないだ。

後半に入り、蔦谷のミドル、朝野の速攻で15対17と2点差に迫り、日本の反撃ムードが高まったかに見えた。しかし、このあと得点の取り合いの中、相手CPが4人になるパワープレーのチャンスがありながらも、アイスランドに追いつくことができない。12分過ぎからサイド、ポスト、逆速攻で手痛い3連続失点を喫してしまう。蔦谷が気迫のミドルを連打するも、すぐさまアイスランドに2点を返され、15分には20対27とこの日最大の7点差をつけられてしまう。それでも2大会連続のベストエイト進出を狙う日本は、吉田のポスト、蔦谷のミドル、可児のサイドなどで加点、さらに安平、清水が続き、19分25対30と懸命に追走した。終盤残り10分は両チームの壮絶な打ち合いとなり、藤川、可児、榎本で加点したが、捨て身のプレスDFを突破され、34対39と5点差をつけられての悔しい敗戦となった。

メインラウンド

日本 36 (18 - 15、12 - 15、6 - 5) 35 クロアチア

9位決定戦は、立ち上がりクロアチアに3点を先行された日本は、シュートがゴールを割れずに重苦しいスタート。ようやく4分に左腕・梶山がサイド上がりからミドルを打ち込んで得点、クロアチアの大型ポストを軸としたプレーに失点を喫するも、蔦谷の鋭いミドルに加え、司令塔の安平からPV吉田、LB藤川へのパスプレーが連続して決まり、追撃態勢を固めた。14分8対10で1人退場のピンチをGK石濱の好守で凌ぐと、吉田のポスト、蔦谷・藤川のミドルなどで14対14の同点に追いつくと、安平のカットイン、ミドルで連取して逆転に成功する。安平のプレーにペースを崩したのかクロアチアにミスが目立ち、前半終了間際に可児、蔦谷で連取した日本が18対15と3点リードして折り返した。

後半に入っても、蔦谷・藤川のミドル、清水、治田のサイドで加点すると、守ってはGK石濱の堅守もあり、9分まで24対20と優位をキープする。しかし、クロアチアもカットインやサイドなどでジリジリと差を詰め、蔦谷、藤川のミドルが単発に決まるだけの日本は次第に守勢に追い込まれていく。27分には29対29の同点の場面から、日本は安平がミドルを決めれば、クロアチアもカットインでゴールを奪い、互いに一歩も譲らない。残り2分からの息詰まる攻防は両者とも得点を許さず、30対30の同点で60分が終わり、大会規定により7mTコンテストにもつれ込んだ。

先行の日本、後攻のクロアチアとも1本ずつ外して6投目からはサドンデスに。クロアチアがゴールを決めれば、日本も安平が冷静に左隅に打ち込む。そして7投目、クロアチアのゴール外へのミスショットの後、蔦谷がGKの右脇下を撃ち抜き、熱戦に終止符を打ち、9位となった。



最終順位

- 優勝：エジプト 2位：ドイツ 3位：デンマーク 4位：ポルトガル 5位：ハンガリー 6位：フランス  
 7位：スペイン 8位：アイスランド 9位：日本 10位：クロアチア 11位：スウェーデン  
 12位：ノルウェー 13位：北マケドニア 14位：アルゼンチン 15位：スロベニア 16位：チュニジア  
 17位：バーレーン 18位：チャイニーズタイペイ 19位：セルビア 20位：サウジアラビア  
 21位：ブラジル 22位：チリ 23位：ナイジェリア 24位：カナダ

男子世界ユース選手権 過去の結果

| 回数 | 開催年月日 | 開催地    | 参加国数 | 日本順位 | 優勝             | 2位     | 3位     | 4位     | 5位     | 6位     | 7位     | 8位     | 9位    | 10位    | 11位    | 12位   | 13位    | 14位    | 15位   | 16位     | 17位    | 18位        | 19位   | 20位      | 21位    | 22位   | 23位    | 24位  |  |
|----|-------|--------|------|------|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|--------|------------|-------|----------|--------|-------|--------|------|--|
| 1  | 2005  | カタール   | 10   | ×    | セルビア<br>モントネゴロ | 韓国     | クロアチア  | デンマーク  | カタール   | エジプト   | アルゼンチン | イラン    | チュニジア | モロッコ   |        |       |        |        |       |         |        |            |       |          |        |       |        |      |  |
| 2  | 2007  | バーレーン  | 16   | ×    | デンマーク          | クロアチア  | スウェーデン | アルゼンチン | エジプト   | ポーランド  | スペイン   | バーレーン  | ブラジル  | カタール   | 韓国     | イラン   | チュニジア  | アルジェリア | モロッコ  | オーストラリア |        |            |       |          |        |       |        |      |  |
| 3  | 2009  | チュニジア  | 20   | ×    | クロアチア          | アイスランド | スウェーデン | チュニジア  | デンマーク  | スペイン   | ドイツ    | ノルウェー  | フランス  | イラン    | アルゼンチン | エジプト  | カタール   | アルジェリア | ブラジル  | リビア     | プエルトリコ | ベネズエラ      | クエート  | モロッコ     |        |       |        |      |  |
| 4  | 2011  | アルジェリア | 20   | ×    | デンマーク          | スペイン   | スウェーデン | フランス   | エジプト   | スイス    | ドイツ    | クロアチア  | スロベニア | アルゼンチン | 韓国     | ブラジル  | ロシア    | セルビア   | カタール  | チリ      | バーレーン  | チュニジア      | ガボン   | ニュージーランド |        |       |        |      |  |
| 5  | 2013  | ハンガリー  | 24   | 17位  | デンマーク          | クロアチア  | ドイツ    | スペイン   | ノルウェー  | スウェーデン | セルビア   | スロベニア  | ブラジル  | ハンガリー  | ルーマニア  | ベラルーシ | フランス   | エジプト   | カタール  | オーストラリア | 日本     | アルゼンチン     | チュニジア | ベネズエラ    | 韓国     | アンゴラ  | ガボン    | チリ   |  |
| 6  | 2015  | ロシア    | 24   | 20位  | フランス           | スロベニア  | アイスランド | スペイン   | スウェーデン | ノルウェー  | デンマーク  | ブラジル   | スイス   | ハンガリー  | ロシア    | セルビア  | 韓国     | クロアチア  | エジプト  | チュニジア   | ドイツ    | カタール       | ポーランド | 日本       | アルゼンチン | ベネズエラ | アルジェリア | チリ   |  |
| 7  | 2017  | ジョージア  | 24   | 8位   | フランス           | スペイン   | デンマーク  | クロアチア  | スウェーデン | ロシア    | ポルトガル  | 日本     | ドイツ   | アイスランド | チュニジア  | 韓国    | スロベニア  | エジプト   | ポーランド | チリ      | ノルウェー  | セルビア       | ブラジル  | ジョージア    | アルゼンチン | バーレーン | アルジェリア | メキシコ |  |
| 8  | 2019  | 北マケドニア | 24   | 9位   | エジプト           | ドイツ    | デンマーク  | ポルトガル  | ハンガリー  | フランス   | スペイン   | アイスランド | 日本    | クロアチア  | スウェーデン | ノルウェー | 北マケドニア | アルゼンチン | スロベニア | チュニジア   | バーレーン  | チャイニーズタイペイ | セルビア  | サウジアラビア  | ブラジル   | チリ    | ナイジェリア | カナダ  |  |



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)



# 第8回 女子ユース アジア選手権

開催期間：2019年8月21日～8月30日

開催地：インド・ジャイプル



## ■最終順位

- 優勝：韓国
- 2位：中国
- 3位：日本
- 4位：カザフスタン
- 5位：ウズベキスタン
- 6位：チャイニーズタイペイ
- 7位：インド
- 8位：ネパール
- 9位：バングラデシュ
- 10位：モンゴル

## ■選手団名簿

| 役職    | 氏名    | フリガナ    | 所属                      |
|-------|-------|---------|-------------------------|
| 団長    | 田口隆   | タグチタカシ  | (公財) 日本ハンドボール協会         |
| 監督    | 古橋幹夫  | フルハシミキオ | (公財) 日本ハンドボール協会         |
| コーチ   | 小川至門  | オガワシモン  | (公財) 日本ハンドボール協会 花巻南高等学校 |
| ドクター  | 貝沼圭吾  | カイヌマケイゴ | (公財) 日本ハンドボール協会         |
| トレーナー | 二神沙知子 | フタガミサチコ | (公財) 日本ハンドボール協会         |
| アナリスト | 田口真夕  | タグチマユ   | (公財) 日本ハンドボール協会 東海大学    |

| 番号 | ポジション | 氏名    | フリガナ    | 所属            | 生年月日       | 身長  | 出身校        |
|----|-------|-------|---------|---------------|------------|-----|------------|
| 1  | GK    | 加藤愛望  | カトウアイミ  | 四日市商業高等学校     | 2002.11.02 | 167 | 四日市市立朝明中学校 |
| 2  | PV    | 中嶋紗央  | ナカジマサオ  | 大同大学大同高校      | 2002.01.16 | 166 | 蒲郡市立大塚中学校  |
| 4  | CB    | 松浦未南  | マツウラミナミ | 華陵高等学校        | 2002.01.26 | 158 | 周南市立住吉中学校  |
| 5  | LW    | 掛本梓乃  | カケモトシノ  | 日川高等学校        | 2002.02.15 | 163 | 甲州市立塩山中学校  |
| 6  | LW    | 木村萌雅  | キムラモエカ  | 今治東中等教育学校     | 2002.02.22 | 166 | 今治東中等教育学校  |
| 7  | CB    | 福井すみれ | フクイスミレ  | 名古屋経済大学市邨高等学校 | 2002.04.14 | 170 | 知立市立滝北中学校  |
| 8  | RW    | 鶴田文乃  | ツルダフミノ  | 日川高等学校        | 2002.05.15 | 166 | 甲州市立塩山中学校  |
| 9  | LB    | 藤原ひなた | フジワラヒナタ | 不来方高等学校       | 2002.05.27 | 173 | 花巻市立花巻中学校  |
| 10 | LB    | 西田瑞歩  | ニシダミズホ  | コザ高等学校        | 2002.09.17 | 160 | 沖縄市立美東中学校  |
| 11 | RB    | 布施蓮   | フセレン    | 白梅学園高等学校      | 2002.10.11 | 160 | 東久留米市立西中学校 |
| 12 | GK    | 中村理乃  | ナカムラリノ  | 高津高等学校        | 2003.03.19 | 166 | 横浜市立山内中学校  |
| 13 | RW    | 萩尾ほのか | ハギオホノカ  | 大分高等学校        | 2002.10.26 | 170 | 大分市立原川中学校  |
| 14 | RB    | 石川空   | イシカワソラ  | 大分鶴崎高等学校      | 2002.12.20 | 168 | 大分市立原川中学校  |
| 15 | PV    | 伊藤結衣  | イトウユイ   | 白梅学園高等学校      | 2003.03.24 | 166 | 東久留米市立西中学校 |
| 16 | GK    | 比嘉楓   | ヒガカエデ   | 那覇西高等学校       | 2003.08.27 | 168 | 沖縄市立美東中学校  |
| 17 | LW    | 坪井詩   | ツボイウタ   | 佼成学園女子高等学校    | 2003.03.31 | 162 | 倉敷市立東中学校   |
| 18 | LB    | 升澤結菜  | マスザワユウナ | 佼成学園女子高等学校    | 2002.10.23 | 170 | 福井市光陽中学校   |



## 第8回女子ユースアジア選手権を終えて

団長 田口 隆

この大会は、2020年第8回女子ユース世界選手権が中国で開催される関係で、中国を除く上位4カ国に出場権が与えられるというアジア予選を兼ねた大会でした。

日本は予選ラウンドで、ウズベキスタン・チャイニーズタイペイ・バングラデシュ・韓国と同組で4試合を行いました。日本と韓国が抜き出ており、3戦終了時点で、日本と韓国がグループAの予選ラウンド2位以上が決まり、世界選手権の出場権獲得となりました。予選ラウンド最終戦での日韓対決は、日本が先制したものの、韓国に先行を許す展開で試合が進みました。後半に入り、ジリジリと日本が追い上げて、残り5分で2点差まで肉薄しましたが、韓国に逃げ切られて勝利とはなりませんでした。この結果、日本は準決勝で中国と対戦することが決まりました。中国は大型選手を擁し、フィジカルでは大会No.1チームであったことは誰の目からしても明らかでありました。日本はその中国に対して、一步も怯むこともなく、ディフェンスでは果敢にコンタクトを挑み、攻撃リズムを崩すことに成功し、日本の3点リードで前半を折り返しました。後半に入っても、オフェンスでも緩急をつけたプレーで多くのノーマークシュートを創出しました。しかし、そのノーマークシュートが決まらず、優位を維持できず、後半中盤に追いつかれ逆転を許し、終盤は追いかける展開となりました。残り1分に1点差としましたが、中国に逃げ切られて悔しい敗戦となりました。大会最終戦は、決勝という舞台で韓国との再戦とはならず、3位決定戦でカザフスタンとの対戦となりました。日本は、準決勝での敗戦を引きずることなく、果敢なディフェンスから速攻を繰り出し、大差で勝利して銅メダルを獲得しました。世界選手権の出場権は上位4チームの中に中国が入ったということで、5位決定戦も出場権獲得がかかった試合となりました。ウズベキスタンとチャイニーズタイペイで争われることとなりました。予選ラウンドでは接戦を制したチャイニーズタイペイが勝利しましたが、5位決定戦でも予選ラウンド同様にチャイニーズタイペイが優位に試合を進めました。しかし、ウズベキスタンが驚異的な粘りで逆転に成功し、勝利を収め初めて世界選手権出場権を獲得することとなりました。

さて、私からは団長という立場で大会の様子を報告させていただきたいと思います。チームが滞在したホテルは、ジャイプールにある5つ星クラスにランクされていると言われていたところでした。水回りも清潔であり、食事も食べ慣れているものではなかったものの、バランスの良いものが提供されました。しかし、欲を言うと肉料理のバリエーションの変化があって、日本人が食べ易いものであれば良かったと思いました。チームでミーティングが出来る部屋も準備されており、試合に向けての準備に必要な環境が整っていました。ホテルから試合会場へは、バスでの送迎サービスがあり、時間にも正確で移動に関するストレスを感じることはなかったように思います。試合会場は時々、電力供給がストップすることがあり、空調が効いていない時があったものの、通常は効き過ぎ？ぐらいで、試合観戦時には上着一枚必要な感じでした。練習会場は、事前情報では試合開催日は、1時間ほど離れた会場を利用するというものでした。参加チームからは、「往復で2時間以上もかけトレーニングに出かけることは現実的ではない。」と要望をあげましたが、近場では試合会場以外に会場がなくチームからの要望は聞き入れられず、ホテル内でのトレーニングに切り替えるチームが多くありました。試合が設定されていない時間帯で、試合会場を解放することとなりましたが、全チームに割り当てられることはなく、早い者勝ち的な受付となり、不公平感は否めませんでした。大会序盤はTV放映がありませんでしたが、数日経過した時点から開始されました。AHFの指導が十分でなく、大会運営に不備がある点は所々で見受けられましたが、インド協会やボランティアの方々は大変親切な接し方をしていただき、不思議にストレスを感じることはありませんでした。また、チャイニーズタイペイやウズベキスタンといったチームは、トレーニング・試合・試合観戦等において大変勤勉な姿勢を示しました。日本チームもそれを目の当たりにして、日本人の長所も勤勉さだということを再確認できたのではないかと思います。

最高の成績で大会を終えられなかった点を考えれば、反省材料はあることは当たり前ではありますが、日常とは違う環境であったにも拘らず、大きくコンディションを崩すことなく大会を終えたこと、準決勝での敗戦で流した涙、そこから素早く立ち直り、銅メダル獲得へつなげた姿勢など、世界に羽ばたく資質を持った日本の選手たちが、来年の女子ユース世界選手権で世界を相手に果敢にチャレンジすることを期待したいと思います。

最後に、第8回女子ユースアジア選手権出場に際し、スタッフ及び選手派遣にご理解・ご協力を賜りました関係各位に、またご支援賜りました全ての方々に心より御礼申し上げ、大会報告とさせていただきます。

## 女子U-18 監督 古橋 幹夫

今回の女子ユースアジア選手権大会に出場に際しまして、日本ハンドボール協会、各選手の所属チーム関係者の方々、選手の保護者の皆様、その他様々な方面からご協力をいただきました多くの方々にご心より御礼申し上げます。

我々のチームは来年度の世界ユース選手権の出場権獲得と打倒韓国を目指し、4回の合宿を経てアジア選手権大会に臨みました。

## ◆第1回強化合宿 5月13日～17日(4泊5日) NTC

この合宿ではまず個人の技術、体力の確認とこのチームでやりたいディフェンスのシステムを提示し、そのトレーニングに時間をかけました。

まずはトレーナーによるメディカルチェック。そしてハンドボールベーシックセブンとプラスによるストップ動作のトレーニング。ストップ動作のトレーニングはすべての合宿のアップと試合のアップに取り入れました。ストップ動作が習熟していくうちに、激しいプレーの中でも動作の安定と怪我に対する安心感があり、結果的にも全活動を通して練習や試合を休むような怪我はありませんでした。

ディフェンス練習は、数的不利な状況で『クロスアタックに行くかどうか』の判断を中心にコンタクトの練習も含めて行いました。

オフェンス練習は、まず松ヤニでのミスが起きないように各種のパス練習に時間を割き、シュートもステップシュートから数多く打たせました。

知的スキルは栄養講習とスポーツインテグリティについて学びました。

## ◆第2回強化合宿 6月23日～27日(4泊5日) NTC

この合宿では、ある程度選手のポジションを決め、2チーム編成で6対6や紅白戦を行い、オフェンスのコンビネーション、ディフェンスのコミュニケーションを選手同士で話し合わせました。また、オフェンスのきっかけを数種類決め、映像で共有しました。

知的スキルでは栄養講習に加え、帯同していただく貝沼ドクターによるアンチドーピング研修とインド滞在時の留意点を学び、あらためて体調管理の重要性を認識しました。

## ◆第3回強化合宿 7月9日～12日(3泊4日) NTC

この合宿では大学チームと合同練習とショートゲームを行い、体格差のある選手を守るシミュレーションができました。ボールに対して2人で守ることが徹底され始め、機動力が不可欠なディフェンスになってきました。

オフェンスではそれぞれの個人だけでは解決できない場面でコンビネーションやきっかけを使えるようにトレーニングしました。

知的スキルは栄養講習に加え、メンタルマネジメントを学びました。11日の夜は元オリンピック竹下佳江さんの講演を聞く機会もあり、自分たちの立場を自覚できました。

この合宿後は、インターハイを挟み約1か月後の直前合宿まで練習できないので、インボディ測定を実施し体調管理をするよう促し、プレーについては各自イメージトレーニングをするように要請し、解散しました。

## ◆第4回強化合宿 8月15日～17日(3泊3日) NTC

大会出発直前となる最後の合宿は、台風の影響で全員そろったのは16日午後となりました。インボディ測定では体脂肪率などで改善が見られました。しかし、ストップ動作があやふやになっている選手も見られ、基本の動作から丁寧にトレーニングを行いました。練習内容はオフェンス、ディフェンスのシステムの確認、速攻のパスや動きの確認、GKトレーニングと焦る気持ちを抑えながら大会の準備をしました。

## ◆本大会

8月18日夜、ホテルに到着し、翌日から2日間、調整とトレーニングに入りました。練習会場は大会会場で、時間は45分と定められていて効率の良い練習計画が必要でした。

21日からいよいよ試合が始まりました。第1戦は初見のチャイニーズタイペイ。試合開始から10分で観察を終え、ディフェンスの調整をしようという作戦でスタート。立ち上がりは9連続得点で試合を決めたかに見えましたが、相手の7

人攻撃に翻弄され失点が増えてしまいました。韓国チームが見ているのでオフェンスは個人技を中心にさせたため、リズムも悪く前半は19対12の7点差で折り返しました。後半は全員メンバーを入れ替え18対10。合計37対22で初戦に勝利できました。

翌日、第2戦も初見のウズベキスタン。間をゴリゴリ割ってくるオフェンスに、最初はねじ込まれましたが、徐々に相手にも審判にも慣れ、点差を広げ20対13で前半を折り返しました。後半も20対9とし、合計40対22で終わりました。この試合はヨーロッパ系のハンドボールを初めて体験した試合で、フリースローをとれた数が前半9本、後半は17本と前半のディフェンスが機能していなかったということが明らかになりました。

続く第3戦はバングラデシュ。45対9と勝利し、ほぼベスト4入りが確定しました。来年の世界選手権が中国開催ということでアジア代表は中国以外で4チームということであったのでこの時点で世界選手権の出場権が獲得できました。

2日空けていよいよ韓国戦。立ち上がりは互角に戦えましたが8分から16分で6点差をつけられました。後半、ディフェンスを修正し、互角以上のプレーができ、23分には28対30と2点差に追いつきました。しかし、韓国が7人攻撃を仕掛けたところで退場・7mTを取られたことにより、瞬く間に流れを失い、29対35で敗れました。この試合のシュート決定率は韓国が35/47(75%)、日本29/45(64%)であり、GKを含むディフェンスに大きな課題が残りました。

決勝トーナメントに入り準決勝は中国戦。互角の立ち上がりから前半終盤に速攻などで3点差をつけて折り返せました。後半はスローペースの中国チームにディフェンスで仕掛け、速攻を繰り出しましたが最終場面の決定力に欠け得点が伸びませんでした。最後は追いついていきましたが1点差で逃げ切られました。この試合のシュート決定率は、中国25/37(68%)、日本24/48(50%)であり、シュート決定率に課題が残りました。

相手GKが長身であること、シュートのタイミングが同じこと、角度を稼ぐために自らバランスを崩していること等いろんな原因がありましたが、試合中に修正できなかった監督の責任を痛感しています。

気持ちを入れ替えて臨んだ3位決定戦。カザフスタンは欧州勢に近いフィジカルを持っていることから、来年の世界大会に繋げる大事な試合になりました。ディフェンスはとにかくボールを持っている選手を2人で止めることを課題とし、フィジカルに対抗しました。後半、カザフスタンの動きが重くなったことで全員得点、20点差の試合で終了することができました。この試合のシュート決定率はカザフスタン21/36(58%)、日本41/56(73%)でした。

大会結果は3位とけっして納得のいく結果ではありませんでしたが選手たちの来年への意欲は高く、これから1年間の成長を誓ってくれました。

この大会を通して団長の田口専務理事からは、この選手たちの将来を考えたいろんなアドバイスを受けました。私たちもこの大会だけ、このカテゴリーだけではなく、選手たちの成長に寄与することが使命だと改めて感じました。

最後に、快く選手を派遣していただいた所属チーム関係者の方々、保護者の方々、大会派遣全般に支援をいただきました日本ハンドボール協会に厚く御礼申し上げ、来年の世界大会に向けて万全の準備をしていくことを誓います。ありがとうございました。





## 女子U-18キャプテン 松浦 未南

はじめに、U-18 女子日本代表の活動に多くのご支援とご声援をいただき、ありがとうございました。

結果は予選リーグ2位で決勝トーナメントに進みましたが、準決勝で中国に敗れました。3位決定戦でカザフスタンと戦い、勝利し、10か国中3位で大会を終えました。そして、来年の世界選手権の出場権を獲得することができました。大会を迎えるにあたっての最終宿は8月15日から始まりました。しかし、台風の影響で全員が集まることができず、チーム全体での練習は予定より遅れてのスタートとなりました。大会までの限られた少ない時間で、より早くチームをひとつにまとめることが必要でした。そのため、私たちはより多くのコミュニケーションをとることを心がけました。

大会に入り、最初はプレーでもプレー以外でもあまりまとまりがなく、DFとOF共に個人プレーが多かったです。しかし、試合を重ねるごとにチームがひとつにまとまり、みんなで戦うチームへと変化していったと実感することができました。準決勝の中国戦では、シュートミスの改善が試合中にできず、負けてしまいました。中国戦を終えて、試合中に自分達で流れを変えることのできる強さが必要だと思いました。また、海外の選手と実際に試合を行ってみて、フィジカルの強さも世界と戦う上では大切だと思いました。

この大会ではいろいろなことを学ぶことができました。その中でも一番心に残っていることは、「日の丸を背負って戦える選手は限られているから、覚悟をもって、世界の舞台で活躍し勝ちたいという強い気持ちをもつ」という言葉です。大舞台で活躍できることに感謝し、日の丸を背負って世界と戦えることに誇りをもつことで日本に貢献できるのだと思いました。そして、アンダーカテゴリーでも、日本代表として責任と自覚をしっかりとって戦うことが大切だと思いました。

大会は3位で終わりましたが、世界選手権ではみんながいろいろな場面でもっと強くなるのが大切だと思います。世界選手権はアジアだけでなくヨーロッパの選手と戦うこととなります。そんな中、日本はどんなプレーができるのか、どれだけ通用するのか、とても楽しみです。いい結果が残せるよう、各自でこれからも日々の練習やトレーニングに精進してほしいです。

最後にチームから派遣して下さった自チームの監督、保護者の皆様、また、ご指導、ご尽力して下さったスタッフの皆様、ご支援して下さった関係者の方々に深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました。



## アナリスト 田口 真夕 (東海大学)

私にとって3回目となる女子ユースチームの帯同でした。今回も貴重な経験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

予選グループは日本、韓国、ウズベキスタン、台湾、バングラディシュの5ヶ国であり、予選最終戦で韓国と試合を行いました。韓国には29-35と敗れましたが、2点差まで追い上げることができた試合でした。予選2位通過した為、決勝戦で韓国と再び戦うために分析を進めていました。しかし、準決勝で中国に1点差で敗れ、決勝の舞台を逃しました。韓国戦に焦点を当てすぎてしまい、中国戦の分析が疎かになってしまったことを反省しています。最終結果としては3位で大会を終え、来年開催される世界選手権の出場権を獲得することができました。

今大会、アナリストとしての分析業務は、①試合をビデオカメラで撮りながら、XPS Tags\* を用いて、リアルタイムでプレーのタグ付けを行う。②試合の映像を Air Drop\* や VLC\* を用いてスタッフと選手に共有をする。③GKに相手のシュートシーンのクリップを全て渡す。④ミーティング用の映像準備。以上の4つを主に行いました。試合後の作業を効率よく進めるために、試合と同時進行でタグ付けを行っていましたが、ハーフタイムでタグ付けした映像をベンチと共有することも可能だったと思います。しかし、大会の映像配信が5日目からであり、独自での映像取得と分析業務を両立させなければならなかった為、今大会では実行に移すことが出来ませんでした。来年の世界選手権ではインターネットでのライブストリーミングの環境が整っているでしょうから、実行に移すことが可能だと思います。監督、コーチとコミュニケーションを取り、必要な場合は実行していきたいと思います。映像の共有は夕食後のミーティングで Air Drop をする時間を設けて頂きました。韓国戦を終えてからは、ケア等で選手が出入りしていた部屋のテレビに試合の映像を流し、映像をみることを習慣化しました。GKには相手のシュートシーンを種類ごとに分類し、編集した映像を渡すようにしていました。ミーティングは対戦相手の試合の映像をフルでみる形式だった為、ミーティング用の作業はほとんど行いませんでした。韓国戦のみ監督からオーダーを頂いていた為、準備を進めていました。その他に、ミーティング用ではなく、選手が試合後に自チームのプレーを個人でフィードバック出来るような取り組みをすることは可能だったと考えます。

来年の世界選手権では、日本がヨーロッパに勝つための力になりたいと思っています。相手のDF、OFの特徴を明らかにし、また、個人で特徴を持つ選手もピックアップして、少しでもチームに貢献出来ればと思っています。そして、チームに必要とされるアナリストを目指し、ヨーロッパに勝ち、良い結果を残すことを目標にあげたいと思います。

最後に、関係者の皆様、スタッフの皆様、大学生である私にこのような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。まだまだ未熟ですが、今後、日本のハンドボール界に貢献できるように日々努力をしていきたいと思っています。

\* XPS Tags Sideline Sports という分析ソフトのiOSバージョン

\* VLC 動画ファイルなどのメディアファイルを再生、表示することができるフリーソフトウェア

\* AirDrop Appleによって、iOSに導入されたWiFiアドホックサービス

Apple製デバイスと、写真、ビデオ、書類などをすばやく共有できる

※ XPS Tags と VLC は Apple Store からダウンロードしたアプリケーション / AirDrop は iPhone に備わっている機能

## 帯同ドクター 貝沼 圭吾 (国立病院機構三重病院)

2019年8月17日から8月31日まで、インド・ジャイプールで開催されました第8回女子ユース(U17)アジア選手権に帯同させていただきましたので、事前準備を含め取り組んだ環境対策、選手個々への医学的対策、アンチドーピング対策の3点を中心に報告します。

まず、環境対策については、4年前にインドで開催された本大会への帯同経験をもとに、『暑熱、食事衛生、感染症』の3点について取り組みました。40度近い気温、また“Welcome shower”と呼ばれるインド訪問者に必発の下痢、さらにマラリア、 Dengue 熱などの感染症を媒介する蚊、狂犬病の恐れのあるイヌといった点について情報収集し、講じうる対策を取りましたので、以下に簡単に示します。

- 暑熱対策は、いうまでもなく適切な水分・塩分補給です。試合や練習の際はもちろんのこと、移動中なども常にペットボトルと塩タブレットを携帯させ、自発的な飲水を指導しました。一方で、高気温に対して室内などでは冷房がかなり強く、外気温の変化への対策も必要でした。
- 食事衛生対策は、感染よりは『水・油・香辛料』等の生活環境によるものが大きいと考えられました。食事に関しては日本食を大量に持ち込みましたが、さすがに限界があり、ホテルの食事を摂取する必要があります。予防として、生活的側面では、歯磨きなどの生活に必要な水もペットボトルのものを用いる、食事では使用食器にラップをかける、乳酸菌飲料を購入し定期的に服用させる等の対策を講じました。医学的側面では、消化酵素、整腸剤、制酸剤を症状早期から内服させました。これらの対策の効果かどうかはわかりませんが、それでも結果は選手スタッフ併せて23名中下痢を発症したものは半数程度であり、前回大会に比べ、非常に改善された結果となりました。選手たちには『下痢になること自体が悪いことではない、下痢になったことを伝えないほうがよくない』と話をし、下痢によるさらなるコンディション低下が起こらないように食事内容、水分摂取の対策をとりました。
- 感染症対策は、入国前に大使館 Web サイトでの感染症発生動向を確認するとともに、滞在期間中、長袖を適宜使用すること、練習前に虫よけスプレーを使用することを徹底しました。

次に、選手個々への対応についてです。事前合宿に参加した際に、二神トレーナーからの事前情報を基に、選手個々と面談させていただき、これまでの外傷、既往症等の把握に努めました。ユース世代でもすでに膝等の手術歴のある選手も存在しました。練習前後のケアを徹底するとともに、セルフケアの重要性を指導いただき、期間を通じて重症化する選手が少なかったことは、二神トレーナーの尽力の賜物と感謝しております。また、内科的疾患としては、花粉症・喘息・食物アレルギー等のアレルギー疾患や消化器疾患の慢性疾患を有する選手がおり、持参薬の中にこれらの疾患に対する薬剤を加えました。特にアレルギー疾患は有症率が年々高まっており、海外では食事のアレルゲン表示などもされていないことから、頻度は稀ですがアナフィラキシーと呼ばれる重篤な状態に陥る可能性もあります。事前の情報収集により事前準備の必要性を再認識しました。大会期間中は、前述したような冷房による外気温変化が激しく、その結果体調不良を訴える選手を認めました。まだ海外遠征に不慣れなユース選手ということもあり、こうした点へのセルフケアについて、より入念な事前伝達が必要です。

最後に、アンチドーピング対策としては、5月の事前合宿において JADA 資料を基にアンチドーピング啓発講習を実施しました。また、それ以降の大会前までに医学的対応が必要になる場合には、LINE 等の連絡ツールを用いて、トレーナーと私とで共有を行い、助言等を行えるようにしました。大会期間中のドーピング検査は、本大会では実施をされませんでした。大会期間中に選手らからは、今回検査はあるんでしょうかといった、アンチドーピングに対する意識も芽生えており、取り組んだ成果を感じたところです。

大会を振り返って、最終結果は、韓国、中国に次ぐ3位として、来年開催予定の世界ユースへの出場権を確保しました。選手の近くから見ても、中国戦の敗戦からしっかりと気持ちを切り替え、3位決定戦に全員得点で勝利できたことは、彼女らの今後に大きな経験として繋がっていくものと思います。また、審判団に日本の古川・村田ペアが初めてのアジア大会にノミネートされ参加されていました。私も審判をしており、旧知の間柄でしたので、大会中コミュニケーションをとれたことは非常に心強かったです。改めて御礼申し上げるとともに、今後の世界での活躍を祈念いたします。

私自身、女子ユースチームに帯同するのは2年ぶりとなり、スタッフもがらりと変わりました。田口団長からは若い選手だけでなく私自身にも日本代表として心構えを熱くご指導いただきました。また、古橋監督の豊富な経験と情報収集に基づく心に残る言葉、小川コーチの的確なハンドボールへの目線と温かい人柄、二神トレーナーの心身両面への手厚いケア、田口アナリストの“選手たちのお姉ちゃん”のような心をつかむサポートと共に、本大会にスタッフとして参加できたことを深謝申し上げます。本当にありがとうございました。選手の皆さんの今後の成長と活躍を心から願い、また、別の舞台で一緒できることを楽しみにしています。

## ■戦評

2019/8/21 (水) : 予選ラウンド

## 日本 37 (19 - 12、18 - 10) 22 チャイニーズタイペイ

本大会初戦のチャイニーズタイペイ戦は、日本のスローオフで始まった。程よい緊張感のもと、RW 萩尾の鋭いサイドシュートを皮切りに4連取する。ここで早くもチャイニーズタイペイがチームタイムアウトを請求、7人攻撃での立て直しを図ろうとするものの、日本の勢いは止まることなく、一気に9対0までリードを広げる。ようやくチャイニーズタイペイが初得点を挙げるが、その後もCB松浦の安定したゲームメイクが光り、19対12とリードして前半を終了する。

後半もチャイニーズタイペイにゲームの流れを渡すことなく終始、日本のリズムでゲームが展開され、重要な初戦を勝利で飾った。組織的に先取りするDFが機能し、加藤、中村、比嘉のGKトリオの活躍が光った内容であった。その一方で、PVによるOFファウルについて、国内の判定基準との違いに戸惑う場面も見られた。次戦のウズベキスタン戦では、さらに相手とジャッジの笛の基準を冷静に観察し、クレバーに対応していくゲームをしていきたい。

2019/8/22 (木) : 予選ラウンド

## 日本 40 (20 - 13、20 - 9) 22 ウズベキスタン

予選Aリーグ第2戦はウズベキスタン戦。日本は開始直後から藤原のロング、萩尾の速攻などが高確率で決まり、順調に得点を重ねていく。ウズベキスタンも粘り強く1対1を仕掛けてくるが、相手の特徴をよく観察して徐々に対応していった。11対5と日本がリードを広げたところでウズベキスタンがチームタイムアウトを請求するが、その後も本日絶好調のGK加藤の堅守を中心に、DFを固めた日本がリードを7点に広げて前半を終了する。

ハーフタイムではジャッジの基準に対応すること、カットインを攻撃の中心におくこと、強いアタックでDFを行うことの3点を確認した。後半に入っても立ち上がりから終始日本ペースでゲームをコントロール、40対22で勝利を飾った。

明日の予選リーグ3戦目はバングラデシュとの一戦。このゲームに勝利すれば来年の世界選手権の出場権を獲得する。リードを広げた時こそ一人ひとりが強く前を狙う姿勢をもち、確実に切符をものにしていきたい。



2019/8/23 (金) : 予選ラウンド

## 日本 45 (29 - 5、16 - 4) 9 バングラデシュ

予選Aリーグ第3戦の相手はバングラデシュ。西田のスチールから中嶋に渡る速攻で先制した日本は、その後も布施の速攻を中心に順調に得点を重ねる。日本のリードが15対3となったところでバングラデシュがタイムアウトを請求するも、日本の攻撃は続き、29対5と大量リードを奪い、前半を終了する。

ハーフタイムではDFのスタンス、バックチェック、速攻での早いポジションニングを確認した。後半も常にベンチからDFの確認をしながら、丁寧にゲームを展開し、45対9で勝利した。

この勝利により、前回大会に引き続き、世界選手権出場権を獲得した。今後はアジア女王に向けての戦いになる。選手は栄養対策等について大会前から入念に調整しており、良いコンディショニングを維持している。この後は2日のレストを挟み、予選リーグ最終戦となる韓国戦に臨む。次戦に備え十分な準備をし、リーグ1位で準決勝に進出したい。

2019/8/26 (月) : 予選ラウンド

## 韓国 35 (19 - 13、16 - 16) 29 日本

予選Aリーグ最終戦の相手は前回女王の韓国。ミーティングを重ねて臨んだ大一番は、LB藤原の豪快なロングで幕を開けた。その後も今大会初スタメンのRB西田やCB松浦の個人技で韓国DFをこじ開けていくものの、前半17分に6点のリードを許してしまい、その点差のまま前半を終了する。

ハーフタイムではDFではボールに対して複数で早く反応すること、クイックスタートの走り出しを高い位置で止めに行くことを確認した。後半は、DFではコンパクトに全体を組織し、積極的に1vs1を守る姿勢を作り出し、その積極さからの速攻を中心に日本ペースでゲームを動かしていく。韓国もサイズに勝るポストや高確率のサイドで対抗するも、徐々

に点差が縮まっていく。後半 25 分、28 対 30 と 2 点差に追いつけたところで韓国がタイムアウトを請求し、その後 7 人攻撃により 7mT を獲得して加点。さらに 1 人退場した日本に対して韓国が連取し、35 対 29 でタイムアップとなった。

2019/8/28 (水) : 準決勝

中国 25 (11 - 14、14 - 10) 24 日本

準決勝は今大会最も大きなサイズを持つ中国との対戦となった。ゲーム前のミーティングで、DF では大型選手に対して体幹を合わせたコンタクトを行うこと、OF ではステップシュートフェイントからの展開を多くしていくことを確認した。RB 西田の先取点でゲームが始まる。中国の遠い間合いになかなか対応できずにいたが、GK 比嘉のエリア際のシュートのセーブが続き、19 分に 9-8 と日本がリードを奪う。ここで中国がタイムアウトを請求するが、その後も LB 藤原の豪快なロングなどで日本が得点を重ね、14 対 11 で前半を終了する。



ハーフタイムでは速攻でクイックスタートを仕掛けること、DF では高い位置で 1 対 1 を仕掛けることを確認した。後半スタートに中国に 2 連取される。その後は一進一退の展開が続くが、中国がロングで連続得点を重ねたことに加え、高く大きい DF と GK に日本のシュートが阻止されはじめ、後半 24 分には 20 対 24 とリードを広げられる。その後、LW 掛本の速攻などで猛追するも 24 対 25 でタイムアップとなった。

この結果により日本は 30 日の 3 位決定戦をカザフスタンと戦うこととなった。

2019/8/30 (金) : 3 位決定戦

日本 41 (16 - 13、25 - 8) 21 カザフスタン

大会最終日の 3 位決定戦は、大型ポストを擁するカザフスタンとの対戦となった。エリア際で押し込まれないように DF することを確認してゲームに臨んだ。カザフスタンに連取を許す展開でゲームが始まる。序盤はボールを持ち、しつこく強く押し込んでくるプレーとポストの揺さぶりによって DF が孤立する状況が多く見られた。しかし、この攻撃に対して、高い位置でのアタックと二人で挟む DF が機能し始め、徐々に日本ペースとなる。15 分に日本が 7 対 6 とリードしたところでカザフスタンがタイムアウトを請求する。その後も日本は粘り強く守り、攻めでは CB 松浦の小気味いいステップシュートなどで確実に加点し、16 対 13 で前半を終了する。

ハーフタイムでは、前半の DF を継続することと速攻で短いパスを使うことを確認した。後半は LW 木村のサイドシュートで始まる。これで落ち着いた日本は、掛本のドリブルカットや藤原のポストパスへのカットなどを確実に得点につなげるなど、怒涛の 9 連続得点。10 分過ぎには 22 対 13 とリードを広げる。その後も、守って速攻を繰り返して、相手に連続得点を許さず、41 対 21 で勝利、銅メダルを獲得した。全員の活躍と出場 CP の全員得点で大会最終戦を締めくくった。

女子ユースアジア選手権 過去の結果

| 回 | 会期   | 会場           | 備考    | 1位 | 2位 | 3位             | 4位             | 5位      | 6位             | 7位     | 8位   | 9位      | 10位  |
|---|------|--------------|-------|----|----|----------------|----------------|---------|----------------|--------|------|---------|------|
| 1 | 2005 | タイ・バンコク      | 5 개국  | 韓国 | 日本 | タイ             | チャイニーズ<br>タイペイ | インド     |                |        |      |         |      |
| 2 | 2007 | タイペイ         | 5 개국  | 韓国 | 日本 | チャイニーズ<br>タイペイ | 香港             | カタール    |                |        |      |         |      |
| 3 | 2009 | ヨルダン・アンマン    | 5 개국  | 韓国 | 日本 | カザフスタン         | タイ             | ヨルダン    |                |        |      |         |      |
| 4 | 2011 | 日本・山鹿        | 5 개국  | 韓国 | 日本 | カザフスタン         | イラン            | カタール    |                |        |      |         |      |
| 5 | 2013 | タイ・バンコク      | 7 개국  | 韓国 | 日本 | カザフスタン         | ウズベキスタン        | 中国      | タイ             | イラン    |      |         |      |
| 6 | 2015 | インド・ニューデリー   | 7 개국  | 韓国 | 日本 | 中国             | カザフスタン         | ウズベキスタン | チャイニーズ<br>タイペイ | インド    |      |         |      |
| 7 | 2017 | インドネシア・ジャカルタ | 7 개국  | 韓国 | 日本 | 中国             | カザフスタン         | ウズベキスタン | 香港             | インドネシア |      |         |      |
| 8 | 2019 | インド・ジャイプル    | 10 개국 | 韓国 | 中国 | 日本             | カザフスタン         | ウズベキスタン | チャイニーズ<br>タイペイ | インド    | ネパール | バングラデシュ | モンゴル |

さらに  
**軽く。**  
※当社、従来品(TFH543)との比較



FLYTEFOAMを搭載し、軽量性も追求したスタビリティモデル

# BLAST FF

1071A002 / SIZE: 25.0~29.0・30.0cm 本体価格: ¥12,800+税



001  
BLACK/SHOCKING ORANGE



412  
ILLUSION BLUE/HAZARD GREEN



600  
SAMBA/BLACK



### 最終順位

#### 【男子】

- 優勝：名古屋市立扇台中学校（愛知県）
- 準優勝：高松市立香川第一中学校（香川県）
- 3位：大阪体育大学浪商中学校（大阪府）  
氷見市立北部中学校（富山県）

#### 【女子】

- 優勝：小松市立芦城中学校（石川県）
- 準優勝：能美市立寺井中学校（石川県）
- 3位：高松市立香川第一中学校（香川県）  
横浜市立岩崎中学校（神奈川県）

# 第48回全国中学校大会

開催期間：2019年8月20日～8月23日

開催地：兵庫県・神戸市

会場：神戸ワールド記念ホール、グリーンアリーナ神戸



## 大会を振り返り

### 第48回全国中学校ハンドボール大会 神戸市実行委員会実行委員長 市川 眞也

「君の夢 かなえる場所が 近畿（ここ）にある」の大会スローガンのもと「令和元年度全国中学校体育大会第48回全国中学校ハンドボール大会」を8月20日～23日の4日間にわたり、兵庫県神戸市のワールド記念ホール・グリーンアリーナ神戸にて開催しました。

本会場では、各ブロックの厳しい予選を勝ち抜いてきた代表チームが集まるなか、激戦が繰り広げられ、男子では、東海ブロック代表の名古屋市立扇台中学校が、女子では、昨年度この大会で準優勝し、春の全国中学生ハンドボール選手権大会を圧倒的な強さで制した石川県小松市立芦城中学校が、栄冠を手に入れる結果となりました。また、開催地である神戸市は2校出場し、男子神戸市立井吹台中学校、女子神戸市立本庄中学校が出場し、健闘したものの井吹台中学校は1回戦敗退、女子本庄中学校は2回戦敗退という結果に終わりました。全国大会で勝ち上がっていく難しさを実感しました。しかし、どちらのチームも持てる力を精一杯発揮できたと感じます。

本県での全国中学校ハンドボール大会の開催は、第13回大会以来、私たちの1つ下の後輩たちが選手で頑張っていたのがよみがえってきます。そのため全国大会を運営していた先生方もご退職なさり、すべてが手探りの状態での準備スタートとなりました。2年前の開催県沖縄県那覇市・豊見城市、先催県の山口県周南市の運営を視察させて頂きましたが、大会会場の大きさや役員の多さに圧倒されっぱなしでした。神戸でできる最高の「おもてなし」をしよう。まず1つめは競技場です。今回競技場として使われたワールド記念ホールはコンサート会場としてとても有名です。神戸市開催が決まった四年前から予約を入れ準備しないと取れないほど人気の会場です。また、この会場の床にはタラフレックスというスポーツフロアが採用されており、アスリートから子供までけがをしにくい構造になっています。そこを開会式、1日目・2日目で使用し、訪れた人に感じていただきたかったです。そして、おそらく、今後中学生大会に使用することは難しい場所です。また、今までハンドボール競技自体をこの会場で行ったことは一度もありませんでした。今回初めてで運営も大変でした。

次に地元の生徒役員がいきいきと誇りを持ってのおもてなし、また、ハンドボール部員ではないですが市内の放送部の生徒、吹奏楽部の生徒達も一つになってのおもてなしができれば、きっと神戸に訪れていただいた出場選手・役員、保護者の方々にも最高のおもてなしになるに違いないと思い、大会・大会運営を心がけました。

今年は、年号も変わり、また、参加チーム数も男女40チームから46チームと増えた大会でした。実行委員会も幾度となく行われ、当初考えていた開会式では選手は行進なしで座った状態からの式典を考えていたのですが、前回大会の山口県でハツラツと誇らしく行進する選手を目の当たりにし、神戸でも各地区の予選を勝ち抜き堂々とした選手達に行進をしてもらい、地元ハンドボーラーに見せ、すごい選手はプレーだけでなく、行動、雰囲気も言動も素晴らしいというのを肌で感じてもらいたく、急遽変更しました。

大会後生徒役員たちからもどのチームも格好良く、スターのように見えたと言っていました。各校のハンドボール指導者からも声が寄せられ、次は自分たちもこの大会に出たいという目標が、選手、指導者に芽生えさせられました。

また、そういう開会式をみたおかげで改めて、生徒役員たちも誇りを持ち、献身的に動けたと感じます。神戸市・兵庫県内の中学生ハンドボール部員に感謝致します。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご尽力いただきました(公財)日本中学校体育連盟、(公財)日本ハンドボール協会、兵庫県、神戸市、兵庫県ハンドボール協会、兵庫県中学校体育連盟、神戸市中学校体育連盟、そして各協賛各位に改めて厚く御礼申し上げますとともに、次年度開催である岐阜県大会の成功を祈念して、今大会のお礼のあいさつとさせていただきます。





## 男子優勝：名古屋市立扇台中学校（愛知県）

### 名古屋市立扇台中学校監督 鳥本 岳志

この度、第48回全国中学校ハンドボール大会において優勝することができ、大変うれしく思っております。このような素晴らしい経験を積ませていただいた大会の開催にあたり、準備・運営にご尽力いただいた今井先生、市川先生はじめ、実行委員会の皆様、関係各位の皆様に心よりお礼申し上げます。

今回のチームは、ハンドボール経験者だけでなく、野球・サッカー・バスケットボール・バレーボールなどの経験者が集まりました。ハンドボール経験者も未経験者も一から「球技の基本とは何か?」「ハンドボールの基本とは何か?」を問いながら一步一步進んできました。部員達は、なかなか思うようにプレーできず、苦労したことも多かったのではないかと思います。いつも前向きに練習に取り組む姿がありました。春中で氷見北部中学校と対戦して敗戦、夏の名古屋市大会で植田中との決勝戦で敗戦と、悔しい思いをすることで、自分を振り返り、克服すべき部分を見つけることができたのではないかと思います。

まだまだ未熟な部分もありますが、今大会で優勝することができたのは、本人たちの頑張りはもちろんですが、一発勝負のトーナメントにおいて、運が味方した場面も多かったのではないかと考えています。特に、準決勝の浪商中学校との試合は流れがほんの少し変わってれば、結果も変わっていただろうと思います。そのため、選手たちには今回の結果に決して奢ることなく、常に考え、自分で解決していく力をつけるべく、さらに努力を続けて欲しいと願っています。

今回、役員としてご一緒させていただいた本谷先生は、自分が中学生時代、東陵中学校の主将として全国優勝させていただいた時の恩師です。今年度をもってご退職される先生の最後の夏の全国大会において、34年前と同じように胴上げが



できたことは非常に感慨深いものがありました。先生の指導は当時も今も変わらず、大切にされるのは、選手本人が「なぜそのように判断し、プレーを選択したのか？」という点です。今は部活動、スポーツを取り巻く環境が大きく変化していますが、原点を忘れず、先生を手本にこれからも指導していきたいと思っています。

最後になりましたが、これまでチームを支えてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



### 名古屋市立扇台中学校主将 竹内 克

僕達、扇台中学校ハンドボール部は第48回大会において優勝することができました。

大会を運営して頂いた大会関係者の皆様、オフィシャルやコート整備をして頂いた地元の中学生の皆様、見たこともないような素晴らしい会場を用意していただき、思い切りプレーすることができました。本当にありがとうございました。

僕たちのチームはチームスタートから全国大会で優勝することを目標としました。一人一人が優勝するにはどうしたらよいかを自分なりに考え、毎日の練習をより意味のあるものにしよう選手全員で頑張ってきました。

その中で春中出場という結果を得ることができ、自分たちの力を試すチャンスが来ましたが、力を出し切れず3回戦で敗退し、全国の壁の高さを知り、悔しい思いをしました。

夏こそは優勝するという気持ちを新たに、日々難しくなっていく先生の要求に必死にこたえようと努力をしました。鳥本先生の要求は当たり前のことだけれど、それをやり続けるのは難しいこと。でも、それができれば結果が出ると信じて練習しました。

いよいよ夏の大会、市の決勝戦で植田中学校に初めて負けてしまいました。いつも言われていた「敵は相手じゃない、自分たち」という言葉の意味がよくわかり、普段の練習から自分たちの意識を見つめ直すことができました。

全国大会では、共に努力してきた女子が負けてしまい、女子の分まで絶対に勝つと団結して試合に臨みました。どの相手も強く、少し流れが変われば勝敗も変わると思い、リードしていても気を抜かないプレーを心掛けました。準決勝でなかなか勝てなかった浪商中学校に勝て、決勝に進めたのはとてもうれしかったです。決勝は「皆で楽しんでやろう」と臨み、この試合も接戦でしたが、先生に「今までやってきたことを出してこい！」と言われ、流れをつかむことができました。

最後に、今までいろいろなお話を教えてくださった先生方やコーチの方々、そして声が枯れるまで応援してくださった保護者の方々、今まで本当にありがとうございました。

あなたの元気を未来につなぐ  
**Wakunaga**

**元気、やる気、  
笑顔、湧く。**



キョーレオピン  
KYOLEOPIN  
LIQUID

《販売名》  
キョーレオピンw

**滋養強壯  
虚弱体質**

第3類医薬品



レオピン  
LEOPIN

《販売名》  
レオピンファイブw





**湧永製薬株式会社**  
http://www.wakunaga.co.jp/

お取扱店のお問い合わせ **0120-39-0971**  
(通話料無料) 受付時間 9:00~12:00・13:00~17:00 (土日祝日を除く)



## 女子優勝：小松市立芦城中学校（石川県）

石川県小松市立芦城中学校監督 中出 早彩

### 夢への挑戦

「日本一になりたい」これは3年生8名が入部したときからの夢でした。上級生とともに毎年全国大会を経験し、さまざまな場面で喜びや苦しさを経験してきました。新チームとなり、彼女たちは「笑顔！」を合言葉に練習や試合を積み重ねてきました。どんなときでも笑顔を絶やさずに、前向きに解決策を話し合うこと、仲間のプレーをみんなで喜び雰囲気を盛り上げることを大切にしてきました。

春の全国中学生ハンドボール選手権大会では先輩、保護者、ハンドボール関係者の方々の熱い応援もあり、優勝することができました。そして、彼女たちはすぐに「春夏連覇」という新たな夢を掲げました。

全国大会という最高の舞台で「日本一になる」という夢が叶い、本当にうれしく思っています。今までの芦城中女子ハンドボール部の先輩の思いを背負いながら、また励みにしながらプレーできたと思います。何かひとつのことを追求めることの素晴らしさ、自分たちだけでなく仲間や支えてくださる方々のおかげでここまでくることができたという姿を全国大会の舞台で表現できたのではないかと思います。

このように生徒たちが成長できたのは、温かく見守ってくださる保護者、本校職員の応援や励まし、多大な支援、地域住民からの応援があります。そして、いつも厳しくも温かい指導をしてくださった埴田部活動指導員のおかげです。先生には技術面だけでなく、精神面でも強さを教えてくださいました。いつも生徒のこと、ハンドボールのことを熱心と考えてくださいました。本当に感謝しています。

最後になりますが、第48回全国中学校体育大会の開催にご尽力いただきました兵庫県ハンドボール専門部の皆様をはじめ、関係機関、関係各位に心から感謝申し上げます。「夢への挑戦」にはたくさんの支えがあったことを生徒とともに胸にとめ、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

石川県小松市立芦城中学校主将 中川 舞香

### 先輩方の思いをつないで

私たちは、先輩方が達成できなかった全国制覇を実現したいという思いをもち、日々練習に取り組んできました。3月に行われた春の全国大会では先輩方の熱い応援もあり、優勝することができました。そして、私たちにはすぐに新たな目標ができました。それは春夏二冠です。「追われる身」となりプレッシャーもありましたが、高校生の方々と練習させていただいたり他県への遠征に行ったりして自分たちがどこまで通用するかを試す機会をもちました。コンビネーションプレ



一は何度も試行錯誤を重ね、相手に突破されないプレスディフェンスに磨きをかけました。

いよいよ迎えた全国大会。全国大会ではどの試合もシュートをはずしたり、相手を守り切れなかったりとなかなか自分たちのペースにもちこめない場面がありました。しかし、みんなで声をかけ修正し勝ち進むことができました。特に、準決勝の岩崎戦がとても苦しかったです。後半二人が退場している場面があり、点差が一気に縮まりました。試合中は仲間と言い合いになることもありました。しかし、全員で何をすべきかを確認し、励まし合うことで試合を立て直すことができました。

決勝戦は対寺井中学校となり、石川対決となりました。寺井中学校は頻りに合同練習をしているチームであり、私たちのことを一番よく知っているチームです。だからこそ、いつものコンビネーションだけでなく、その裏をかくようなプレーを心がけました。声をかけ合いながら試合をし、優勝することができました。

ハンドボールを通して、仲間の大切さを実感しました。良きライバルであり、良きチームメイトだと思っています。苦しいときに声をかけ合うことでここまで来られたと思います。また、1、2年生にも感謝の気持ちでいっぱいです。いつも私たちのためにサポートしてくれました。芦城中女子ハンドボール部で、このメンバー、先生方、保護者の方々とともに二冠できたことが心から嬉しいです。迷惑をかけたこともありましたが、たくさんの方々を支えていただきました。今までの芦城中学校の女子ハンドボール部の先輩方の思いをつなぎ、優勝という最高の報告ができてうれしかったです。本当にありがとうございました。



好評発売中

ハンドボールスキルアップシリーズ

## 目からウロコのDF戦術

スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著

B5判 188ページ 1,800円+税 発行元 グローバル教育出版

バックプレーヤー、サイドプレーヤー、ポストプレーヤー。ポジションごとに求められるものは大きく変わります。コートプレーヤーの3ポジションについて、本書ではそれぞれの役割、求められる能力などをわかりやすく解説しています。

既刊



目からウロコのDF戦術  
1,800円+税

株式会社スポーツイベント TEL:03-3253-5941 ご注文はオンラインショップから→<http://sportsevent.shop-pro.jp/>

戦評  
(男子)

準決勝

## 扇台 22 (9-10、13-8) 18 大体大浪商

浪商ボールで試合開始。立ち上がり、扇台は退場者を出すも得点を許さない。3分、浪商2番が先制点をあげる。7分、扇台8番がチーム初得点をあげる。両チームとも守備が固く、序盤は互いに流れを掴めない展開が続く。一進一退の攻防が続く14分過ぎ、扇台は8番を中心とする攻撃から3連続得点をあげ、この試合初リードを奪う。しかし、浪商もすぐに反撃を行い、僅か1分でリードを奪い返す。拮抗した展開は終盤まで続き、10対9浪商リードで前半は終了する。

後半は扇台ボールで開始。29秒、扇台8番がミドルシュートを決め、同点とする。2分、浪商は5番が得点をあげ、後半初得点。6分過ぎ、扇台は2連続得点をあげてリードを奪い、序盤の流れを掴む。対する浪商も7人攻撃から、扇台を追いかける。11分、浪商の7人攻撃を防いだ扇台は、GK1番が超ロングシュートを決め、会場を湧かせる。中盤、扇台はGKを中心に粘り強く守り、主導権を浪商に渡さない。終盤、4点差を追いかける浪商は7人攻撃で扇台に迫る。しかし23分、扇台8番の勝負を決定づけるシュートがネットに突き刺さる。白熱した試合は、22対18で扇台が勝利をおさめ、決勝へ駒を進めた。

戦評  
(男子)

準決勝

## 香川第一 27 (16-11、11-15) 26 氷見北部

決勝進出をかけた氷見北部と香川第一の準決勝。開始直後、先制点は第一が決める。開始9分頃、氷見北部の2回目の7mTを6番が決め氷見3対5第一となる。このシュートを皮切りに流れはやや氷見に傾き同点まで追い上げる。一進一退の点の取り合いが続くが、第一の3番の巧みなポストパスや、2番の高い打点からのシュートが決まり点差が開き始め、氷見11対16第一で前半が終わった。

後半開始2分、今度は氷見北部が先制点を決める。両者譲らず点の取り合いが続く中、氷見の7番が狭い角度からのポストシュートを決めるなど、点差は2点にまで縮まる。15分半ごろ香川第一の3番が2分間退場となり、氷見北部の6番が7mTを決める。ここから猛追を見せる氷見北部、ついに点差を1点差までもっていく。この辺りから氷見のセンターへのマンツーマンDFが始まり、さらに香川第一へとプレッシャーをかける。後半残り5分、点差は再び2点で氷見北部のタイムアウトが取られる。残り3分、氷見北部の4番が上からのシュートで2点連取し、同点、勢いは氷見北部に。ここで香川第一のタイムアウトが取られ試合は再開。すぐに香川第一が1点を取り、さらに氷見のボールをカットし速攻し氷見25対27第一。必死の追い上げ惜しくも香川第一キーパのナイスセーブが続く。膠着状態になるも残り10秒、氷見北部がシュートを決め、会場の大声援とともに氷見26対27第一の接戦で準決勝の幕が閉じられた。

戦評  
(男子)

決勝

## 扇台 23 (10-8、13-6) 14 香川第一

全国の頂点を決める決勝戦、香川第一のスローオフで始まる。声援と熱気に包まれた会場で最初に得点を決めたのは扇台15番。序盤から退場者が出ながらも果敢に攻める両者。やや扇台がリードしていたが、香川の3番が纏うようなカットインをし、シュートを決める。20分を過ぎたあたりで同点を迎える。果敢な攻めと堅実な守りで両者引かず。均衡を破ったのは扇台15番、固いDFを崩し点を獲得した。前半終了の合図とともにフリースローが取られたため、相手チームのDFが並び高く隙間のない人垣を前に、扇台の8番がサイドへ倒れこみながらシュートを決め大いに会場を湧かせた。

後半開始18秒、すぐに扇台が先制点を決める。香川第一が高いDFラインで扇台にプレッシャーをかけるも、勢いに乗った扇台は点を連取していく。7分51秒、16対10と扇台6点リードとなったところで、香川第一がタイムアウトにて立て直しを図る。12分27秒、香川第一が後半初得点を決め、チームの勝利への執念を見せる。香川第一は速攻を決め、さらに一点を獲得する。その後も香川第一は果敢に攻め追いかけるも、扇台は逃げ切り全国一位の栄冠を手に入れた。

戦評  
(女子)

準決勝

## 寺井 19 (10-9、9-9) 18 香川第一

前半1分、香川第一中7番のロングシュートで先制。寺井中はスピードを生かした動きから2番のロングシュートを中心に攻めていく場面が多く見られた。前半14分に香川第一中が相手のパスミスから速攻に持ち込み得点すると、その後も2番のサイドシュートで得点。前半16分には2点差に。しかし負けじと寺井中も2番のロングシュートと、ポストを絡めた攻撃などで得点。前半ラスト5秒で香川第一中8番のサイドシュートで10対9。寺井中学校リードで前半戦を折り返した。

後半は寺井中6番のロングシュートから、勢いに乗ったのかポストシュートで連続得点。16分過ぎ寺井中がファウル2番、13番と連続退場。その間に香川第一中が8番のサイドシュート等で反撃し同点に。最後に香川第一中もカットインで1点差まで追いつけたが、最後は寺井中2番のロングシュートが決め手となり19対18で寺井中が決勝戦進出を決めた。

戦評  
(女子)

準決勝

## 芦城 22 (12-7、10-11) 18 岩崎

石川県・芦城中と神奈川県・岩崎中との決勝進出をかけた一戦。先制点は、岩崎中4番による得点。しかし、すぐに芦城中5番がルーズボールを拾って得点し同点。その後芦城中は相手のミスからの速攻を確実に決め、4連続得点。反撃したい岩崎中は芦城中の3-2-1DFにクロスプレーで攻めるもミスが続き、逆に相手の速攻で得点を奪われ、徐々にリードを広げられていく。芦城中のノーマークシュートに岩崎中1番GKが好セーブし、岩崎中4番のロングシュートで巻き返しをはかるが、12対7の芦城中が5点リードで前半を終えた。

後半もいい流れを見せたのは芦城中。岩崎ディフェンスの強いプレスに対しても動じないパスさばきで得点につなげる。しかし岩崎中も意地を見せる。後半4分に岩崎中一人が退場し数的不利な状況であったが、岩崎中6番、9番が得点しチャンスを与えさせない。後半12分芦城中二人が退場し、岩崎中にとって最大のチャンスに岩崎中4番、2番がしっかりと決めて18対13の5点差に追いついた。その後もまた芦城中一人が退場し、流れが岩崎中に傾きかけたが、22対18で芦城中が粘る岩崎中を振り切って決勝に進出した。

戦評  
(女子)

決勝

## 芦城 25 (12-8、13-7) 15 寺井

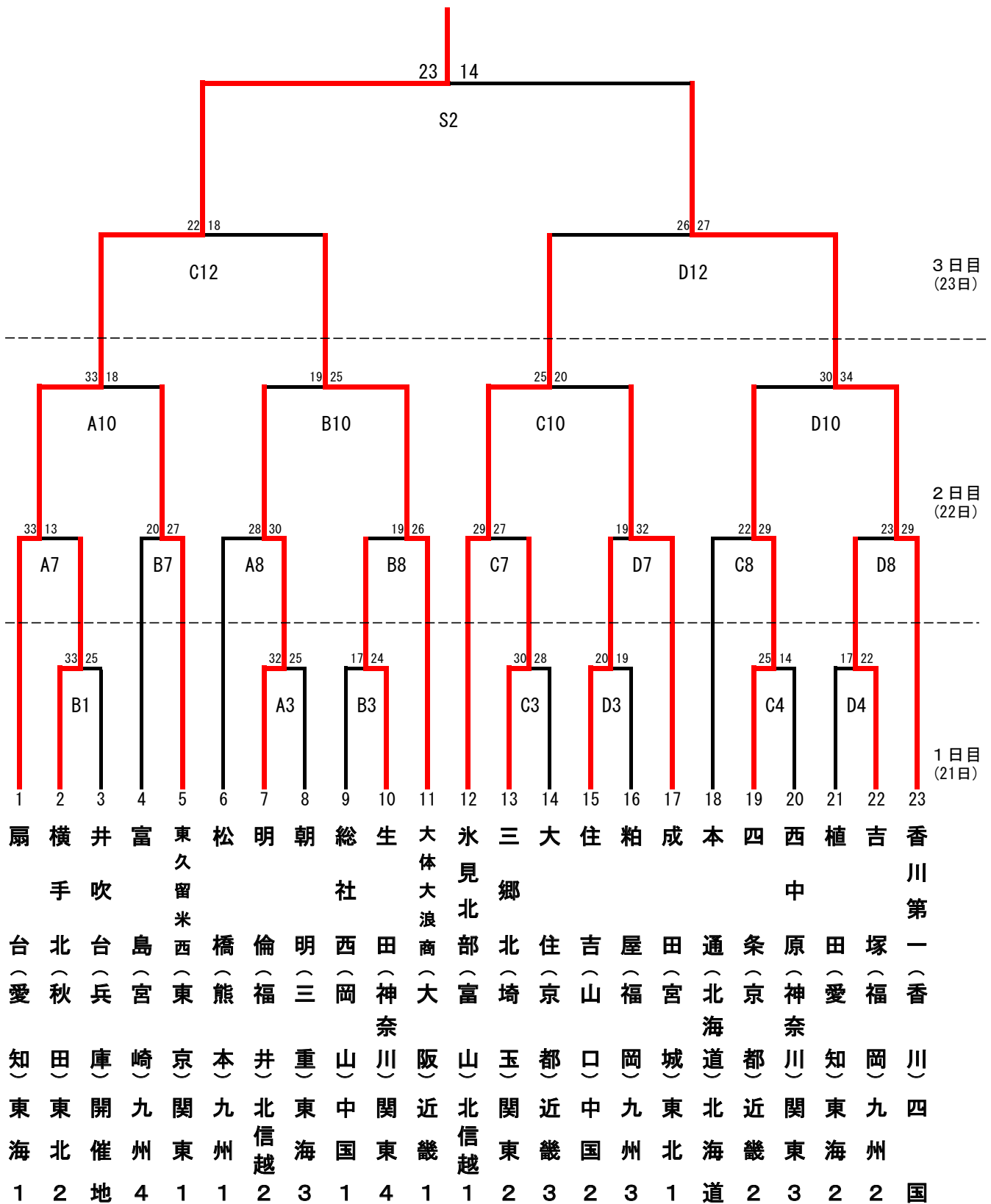
石川県同士の対決となった女子決勝は、芦城中2番の先制でスタート。芦城中は厳しいディフェンスからパスをカットし、4番が連続で得点を決める。対する寺井中は芦城中4番が退場となり数的優位な状況で2番を中心としたコンビネーションプレーで必死に食らいつく。芦城中は5番が3連続でシュートを決め勢いに乗るかと思われたが、寺井中も多彩な攻撃で全く譲らない。19分を過ぎてからは互いに激しいディフェンスで膠着状態が続いたが、終了間際に芦城中3番がシュートを決め、差を4点に広げて前半終了。

後半、芦城中は高い位置でプレッシャーをかけ続けたり、寺井中のエース2番にマンツーマンをつけたりするなどディフェンスをシステムチェンジし、相手のミスを誘い6番の連続ゴールなどで確実に得点を積み重ねる。寺井中はGK12番が好セーブを連発し、流れを掴みたいところだが、なかなか得点をあげることができず、17分にタイムアウトを請求。その後も芦城中の勢いを止めることができず、最後まで粘り強く戦ったが芦城中が見事に優勝を果たした。

【男子の部】

優勝：名古屋市立扇台中学校

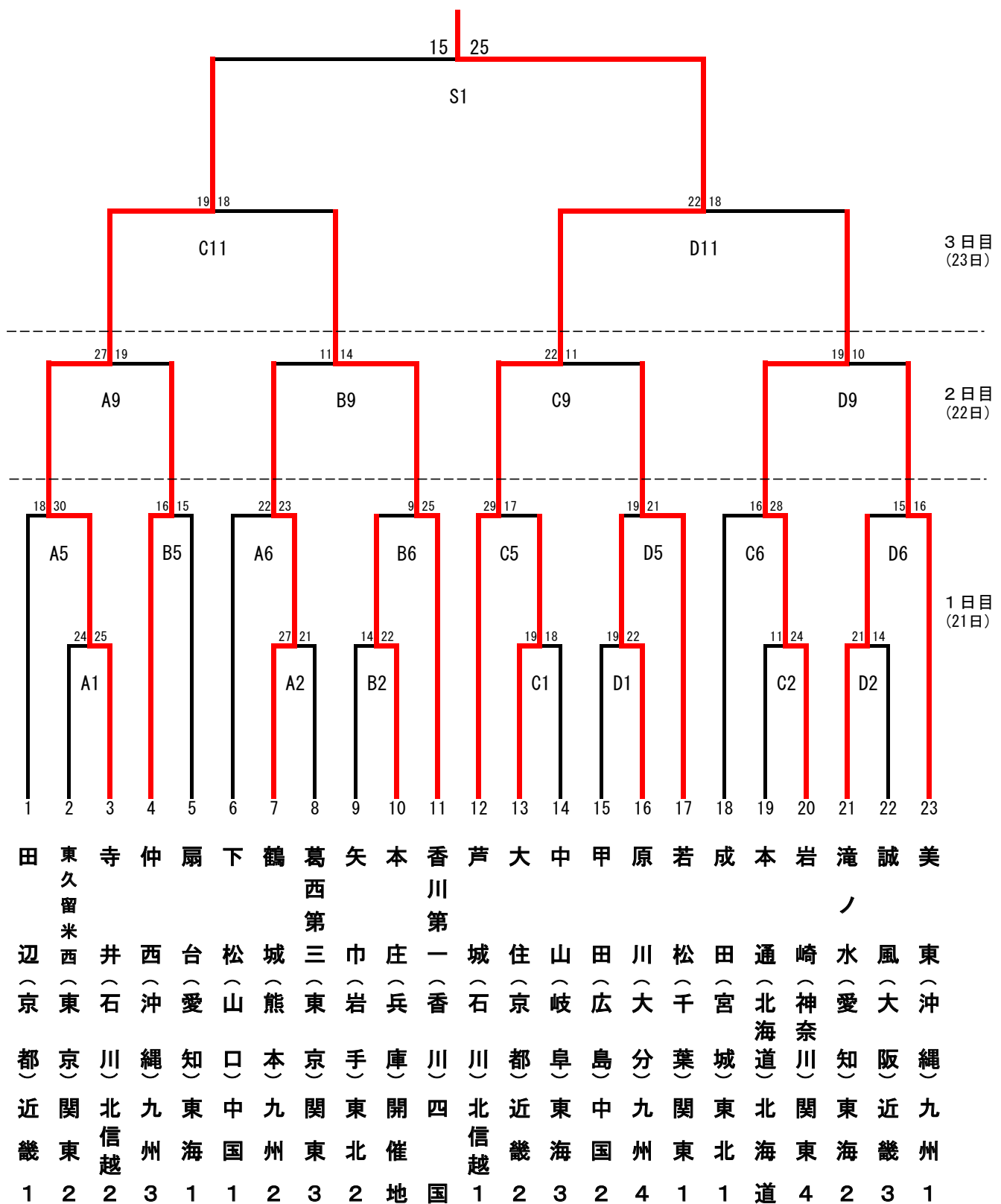
愛知県



【女子の部】

優勝：小松市立芦城中学校

石川県





# 第32回 全国小学生大会

開催期間：2019年8月1日～8月5日

開催地：京都府・京田辺市

会場：京田辺市田辺中央体育館・同志社大学デヴィス記念館

最終  
順位

## 【男子】

優勝：桃園ハンドボールクラブ(京都府)

準優勝：窪スポーツ少年団ハンドボール部(富山県)

3位：霧島ジュニアハンドボールクラブ(鹿児島県)  
松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ(開催地)

## 【女子】

優勝：薪小学校ハンドボールクラブ(京都府)

準優勝：松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ(開催地)

3位：リトル Sun's ハンドボールクラブ(沖縄県)  
比美乃江ハンドボールクラブ(富山県)



## 大会を振り返って

(公財)日本ハンドボール協会小学生専門委員会中央委員  
全国小学生ハンドボール大会事務局

### 石田 真由美

連日猛暑が続いた8/1～8/5に京都府京田辺市において、過去最大チーム数となる男女85チームを迎え、第32回全国小学生大会が盛大に開催されました。毎年参加県が増える中、ほぼ全県の参加となり全国中学生大会やインターハイと同じように47都道府県全県の参加を期待したいと思います。

代表者会議では、小学生専門委員会より「ボール検討」「指導者資格」について日本全国の小学生関係者に伝達させていただきました。

また今年度より、プログラムに、指導者資格を掲載させていただきました。全チーム指導者資格を保持している指導者がチームを引率し参加して頂いていることに、とても喜ばしく思いました。選手を指導する上で、指導者は常に学び続けなくてはなりません。学ぶ事を忘れてしまうと体罰問題やパワハラ問題が起こるのだと思います。私たち指導者は、責任を持って選手と向き合い指導に携わるには、学習し学び続けながら選手育成を心がけていかななくてはなりません。

クイックハンドボールゲーム様式は、全国のチームにしっかり浸透され、得点後の素早いボール展開や幅広い攻撃、積極的なDFを身に付けたチームが増えてきました。

男子決勝の桃園 VS 窪は、非常にスピード感あふれるゲーム展開で試合終了間際まで一進一退のゲーム展開を繰り広げました。女子決勝の薪 VS 松井ヶ丘では積極的な当たりDFからの視野の広い速攻展開に持ち込む試合展開は素晴らしいものでした。

2年前から導入した「WER中継公開フリー抽選」においては、1回戦からの近隣県チーム対戦を避ける為に参加チーム全体を東西に分けて抽選を行いました。また、田辺中央体育館、同志社体育館両会場には例年以上に仮設空調設備の設置工夫をしながら熱中症対策を整えました。交流戦も試合数を増やし、本戦以外でも交流できる場を設けました。

毎年参加されたチームからのアンケートを受け止め、育成年代のハンドボール環境に関わる大人、すなわち指導者、審判、大会形成、保護者が力を合わせて様々な問題点にも、子どもたちにとって何が一番良いのか、という観点で判断し、今後も大会事務局としてもより良い大会を続けられるように努力をしていきたいと考えます。

最後になりましたが、大会をサポート・運営して頂いた京田辺市、京田辺市教育委員会、京田辺市社会体育協会ならびに京都府ハンドボール協会をはじめとする、地元関係者の皆様には大変ご苦労が多い中、献身的にご尽力いただいたことに改めて感謝し、心からお礼申し上げます。さらに皆様から愛される大会を目指して頑張りたいと思います。



## 男子優勝：桃園ハンドボールクラブ（京都府）

桃園ハンドボールクラブ監督 七里 教証

### 2年ぶりの全国大会優勝

現中学3年生が本大会で「準優勝」、次の年は「初優勝」、そして昨年は「3位」という桃園HBCを築いた先輩の素晴らしい功績が重くのしかかった本大会。目標にしていた2度目の全国制覇を果たすことができました。応援して下さった全ての皆さまに心より深く御礼申し上げます。有難う御座いました。

桃園HBCは、昨年度まで女子チームが試合に参戦しましたが、人数の減少によりチームを結成することができず男子のみの活動になりました。日々の練習は14名そろふことが難しく、少数での練習が全国大会を終えた現在も続いています。しかし、困難な状況でも、日頃よりサポートして下さるチームの方々や先輩方の応援のお陰で実戦に繋がる練習が実現できました。新チームが発足してから、久保田仁太キャプテンを中心に「一つひとつが日本一のプレーを心掛けよう。」と声掛けをしながら練習に取り組みました。

決勝戦は富山県代表の窪ハンドボール少年団。早い速攻と正確なパス回しが印象的で、凄まじい得点力と強固なディフェンスで決勝戦まで勝ち上がってこられました。「速攻が速いから速く戻ってディフェンスをする。」ということも大切ですが、特に意識させたことは、『相手が速いのなら、それ以上の速さで速攻をしよう。』という考えでした。更に、DFは3-2-1の変則、攻撃の展開に合わせて4-1-1の形態をとることで、素晴らしいロングシュートと一対一、ポストへのパスに対応させました。一方OFは、前半は左半面の攻撃を徹底しました。ポストの間瀬颯大のポストアップから、エースの山下竜之介へのパス。そしてサイドへ回り、角度のないところからもシュートを打つようにしました。本当に我慢と地道な作業でした。時にはセンターの久保田仁太を左サイドに置き、山下と徹底的に2対2の平行で攻撃もさせました。そのねらいは、低めの3-2-1DFでとても運動量の多い、鍛えられたDFを打破するためでした。「一人30cm左によってくれば、6人で1m80cm左に位置取りを寄せることができる。」

その後、単に逆で攻撃を展開するのではなく、ダブルポストにして、エースの山下を逆フローターにすることで、DFの意識は大きく右半面に行く。実際の事実とは異なりますが、単純計算で1m80cm左によった前半の位置取りからエースを守るための右への位置の取り直しにより起きる位置取りのずれを期待しました。その後、左エースのポジションからキャプテン久保田が飛び込み、シュートを狙いに行く。「必ず、山下にふられて、位置取りをし直した時には、切り込めるスペースがある。」という自信を持たせたことが実際とは異なりますが、気持ちの上で強く攻撃できる材料となりました。カ



ットインだけでなく、シュートフェイント、球持ちを粘ったプレーなど、ハーフタイムの時にフィニッシュの案を出しましたが、見事に点数に結び付けてくれました。

この大会を通じて、サイドを守る間瀬颯大の速攻の速さとその後の一対一のフェイントに磨きが増したこと。右サイドの林虎樹が強烈で正確なブロンジョンシュートを決めて、試合の流れを作る場面が随所に見られたこと。右フローターと左サイドの2つのポジションをこなす、仲泰世と大鍛治遼のプレーの精度があがったこと。最後にキーパーの中村優佑が基本の位置取りと自ら考えながら位置取りからのキーピングを粘り強く行えたことも優勝への大きな原動力となりました。

コート上でコミュニケーションを取り合う姿が多く見られたのもこのチームの素晴らしさ。100点満点です。これからの更なる成長に期待したいと思っています。感謝の気持ちを表現しながら、大きな山を大切に下りたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

## 桃園ハンドボールクラブキャプテン 久保田 仁太

### 全国大会を終えて

僕たちは、全国大会優勝という目標を成し遂げることができました。

4月、“一人一人が考えてプレーできるチームにしよう”“ハンドボールを楽しもう”と目標をたて、練習に取り組みはじめました。それは、思った以上に難しいことでした。

チームの課題とそれぞれの課題の中で、考え方の違いや気持ちの差が出てきました。

5月、勝てない試合が続ぎ、静かな練習が続ぎました。そんな僕たちに監督は「仲良くなれ！」と言いつけてくれました。意味がよくわからなくて、とりあえず一緒にいる時間をつくりました。色んなことを話しました。初めてぶつかり合い、初めて仲間の涙をみました。

そして全国大会優勝しよう！それぞれのポジションで一番になろう！とみんなで目標を一つにして宣言しあいました。6月、市大会府大会優勝。僕たちは目標への一歩を踏み出しました。7月、何種類もあるディフェンスのフォーメーションの練習では、先輩方が来てくださり、たくさんのアドバイスをいただきました。おかげで色んなことに気づくこともできました。暑い中の長時間練習では、保護者の方々にお世話になりました。出来たての昼食や冷たいおしぼりなど用意してくださいました。合同練習では、最後の追い込みがあり諦めそうになりましたが、声を掛け合い、背中をたたき合い、同じ目標に向かって頑張っているチームを見て乗り越えることができました。8月、全国大会、朝早くから集まってくださったコーチの方々。僕たちは、安心して出発することができました。強豪チームとの一戦一戦は、とてもしんどかったけど、監督の戦術が入り、それを実践でき、今までやってきたことの大切さがわかり、勝てたということが自信につながりました。対戦したチームからの応援、応援席からの大きな声援、ベンチから聞こえる嬉しい掛け声が支えとなり、チームでも個人でも100%以上のプレーができました。これから全国優勝チームとして先輩方が築いてくださった土台を大切に、関わってくださっているチームの方々への感謝の気持ちを忘れずに全国の仲間とこれからもハンドボールを楽しみ一緒に成長していきたいです。



## 女子優勝: 薪小学校ハンドボールクラブ(京都府)

薪小学校ハンドボールクラブ監督 乙村 直人

「はじめは昨年の全国大会から…オモイダマ」

昨年度の第31回全国小学生ハンドボール大会…女子の部準決勝で薪小HBCは、東京都代表東久留米HBCに、前半リードしながら、後半に逆転されてしまい、3位で全国大会を終えました。試合後のミーティングでは、自分たちになが足りなかったのかを話し合いながら、「今の5年生が、来年必ずリベンジしてくれる。」…そう話したのを今でも覚えています。

その後、薪小HBC男子の「日本一」を目の当たりにしてから、私たち指導者と子どもたちの『日本一への挑戦』が始まりました。しっかりと足腰をつくるための体幹トレーニングや体力づくりに始まり、不器用な選手が多かったので、基礎的なボールスキルトレーニングを中心に練習を積み重ねました。ゲーム形式の練習では、いつも1学年上の先輩と練習し、スピードや技術のレベルの高さを身をもって学ぶことができました。

「3歩進んで2歩下がる」という言葉がよく似合う彼女たち…やっと壁を乗り越えたかと思えば、また新たな壁にぶつかる繰り返しの日々でした。

先輩たちが卒業し、新年度を迎え、関ジャニ∞さんの『オモイダマ』という曲になぞらえて、今年度のチームテーマとしました。8人の6年生が無限大の力を発揮してくれることを願いながら、選手・先輩・指導者・保護者のオモイを乗せて羽ばたいてほしいと思ったからです。

6月に迎えた京都府予選、薪小HBCは男子チームが予選で敗退してしまいました。

女子チームは、1日目の予選で思わぬ敗戦…文字通り「崖っぷち」に立たされてしまいました。分析と対策、保護者の協力を得ながら、万全の状態決勝トーナメントを迎えました。準決勝・決勝では、こちらが伝えたことを選手がコート上でしっかり表現し、積み上げたことをしっかり発揮して優勝することができました。

昨年度と比べると爆発力はあるが安定感のないチーム、「このままでは全国大会を勝ち抜けない」と思い、課題を修正しながらチームをもう一段階成長させようと練習に取り組みました。

夏休みに入り、同じ京都府から全国大会に出場する桃園HBC男子、松井ヶ丘小HBC男女と一緒に練習する機会が多くなりました。いろいろな指導者の目線から選手を見ることで、その子の良さを引き延ばすこともあると思います。京都府予選まではお互いライバルでしたが、全国大会に向けて『京都府選手団』として全国大会に臨みました。

全国大会では、薪小学校の卒業生やその保護者、同じ京田辺市の他チームの方たちなど、地元ならではの大声援が選手を後押ししてくださいました。初戦は緊張のためか足が動いていませんでしたが、それも昨年度の経験を活かして乗り越えることができました。試合を重ねる度にリラックスし、自分たちの長所であるDFから流れをつくり、最終日まで駒を進めることができました。

いよいよ迎えた準決勝、朝から中学1年生が練習相手に来てくれていました。3年前、同じように準決勝で対戦した沖縄県のチームにも敗退し、悔し涙を飲みました。薪小学校女子チームにとっては、何年も乗り越えられていなかった『準決勝』『沖縄県代表』という2つの鬼門を迎えることになりました。京都府予選と同じように「分析と対策」を入念にし、選手がコート上で表現してくれました。「連携のとれたDFがうちの基本、守り続けていれば、必ずうちに流れがやってくる」そう子どもたちに声をかけ、子どもたちはプレーで応えてくれました。



いよいよ駆け上がった全国大会決勝戦の舞台、しかも対戦相手は一緒に切磋琢磨してきた同じ京都府の松井ヶ丘小HBC。大会前に「京都同士で決勝を」と話していたのが、現実になりました。「全国大会の決勝戦でも練習してきたことをするだけ」、そう子どもたちに声をかけるとここまで勝ち上がってきた自信が見て取れました。あんなに頼りなかった子どもたちが、全国大会の決勝戦で生き生きと笑顔でプレーしている姿に感動を覚えました。

「日本一」言葉にするのは簡単ですが、この1年間、そのために頑張ってきた子どもたちの力は「無限大」とであると改めて感じました。昨年、日本一をとった男子と惜しくも日本一を逃した女子、この2チームがあったからこそ、今年度の女子の日本一を成し得たのだと思います。今年度、「チーム京都」として全国大会前、練習に取り組むことでお互いに成長することができました。同じ京都府から日本一を目指した桃園HBC七里監督、松井ヶ丘小HBC尾崎監督をはじめ、京田辺市の指導者の方々、いつも薪小HBCを快く受け入れていただいている他府県の指導者の方々、いろいろな大会や練習試合で鍛えていただいたライバルチーム、チームに関わっていただいた多くの方々に変感謝しております。

昨年度に引き続き、連日続いた猛暑の中、給水タイム等のご配慮をいただき、選手ファーストで行われた素晴らしい全国大会でした。最後に大会運営に関わっていただいた方々に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

## 薪小学校ハンドボールクラブ女子キャプテン 木村 珠希

私は1年前の全国大会、準決勝で惜しくも敗れて以降、入部当時から目指していた「日本一」への決意をさらに固めました。

新チームがスタートし、出場した大会や練習試合ではなかなか思うように勝てず、厳しい練習を積み重ねました。京都府大会の予選では、危うい展開が続いたものの、決勝トーナメントでは今まで練習したことを発揮し、優勝することができました。全国大会への出場が決まり、スタートラインに立つことができました。京都府予選以降も、さまざまな壁にぶつかりながら、話し合いや練習を重ね、支え合いながら成長することができました。

そして迎えた全国大会…、乙村先生から「全国大会への入り方が大事」と言われていた中、初戦の石川県代表小松ジュニア戦の前半では、思うようなプレーが出来ず4対6と相手にリードを許してしまいました。しかし、後半は声をかけ合ってリラックスし、徐々に点数を重ねて逆転することができました。大阪府代表UP-BEAT戦ではサインプレーや速攻など、いつも通りのプレーをすることができました。今回ベンチ入りしていた4年生を含め、チーム全員が出場することができました。準々決勝、熊本県代表花園HBC戦では練習してきたことをしっかり意識して試合に臨みました。前半に5点差がついたことで気が緩んでしまい、1点差まで詰め寄られてしまいました。気を引き締め直しました。試合終了のブザーが鳴るまで、一瞬も油断できないということを学びました。準決勝のリトルSun's HBC戦ではDFのシステムをいつもと変えることで、相手のOFに対応して守ることができました。DFから流れをつくり、リズム良く攻めることで、勝ちきることができました。

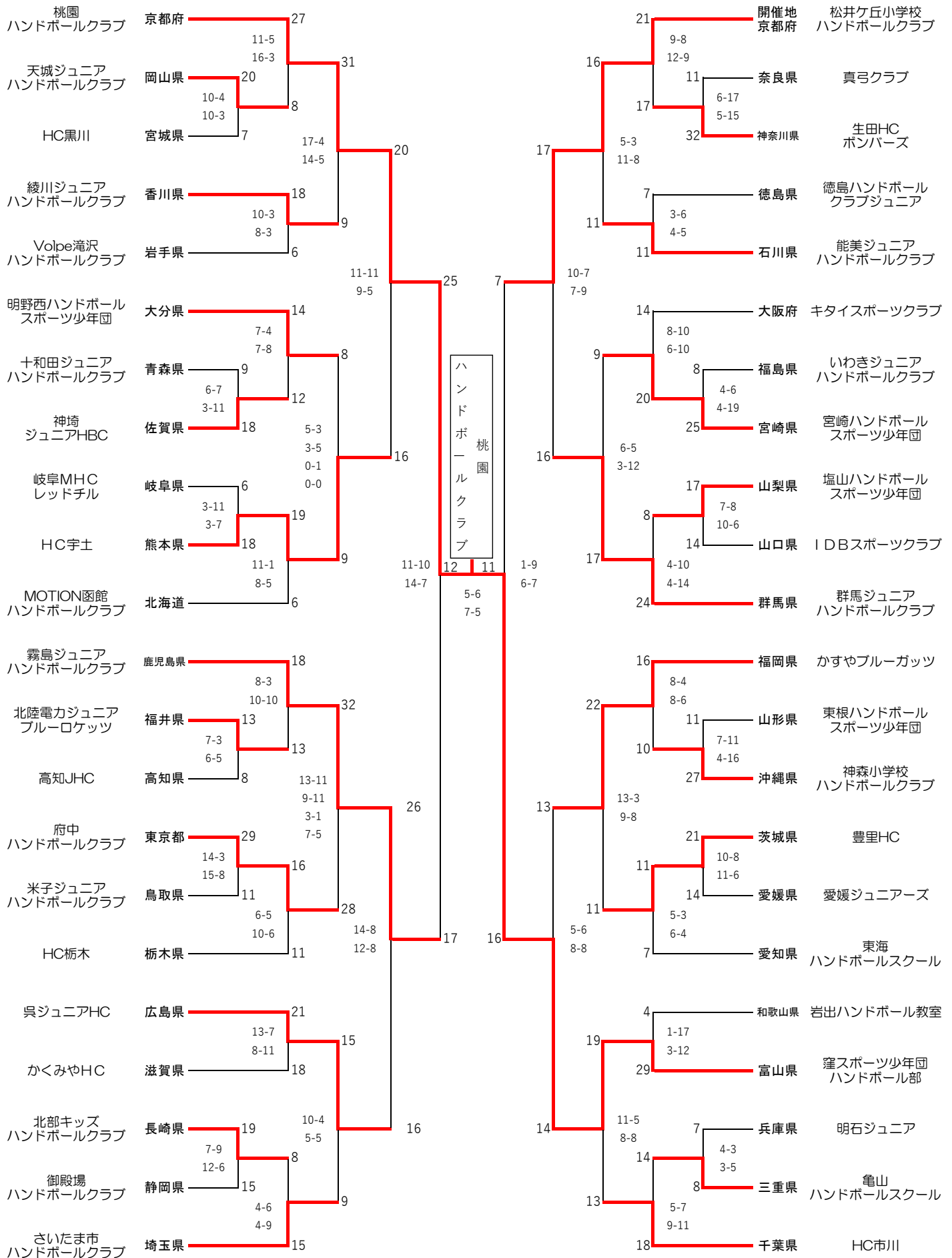
決勝戦は同じ京都府の松井ヶ丘小学校、全国大会前から一緒に練習し、お互いを知り合っている仲。正々堂々、持てる力を発揮して戦いました。前半は2点差で折り返し、まだまだ勝敗はわかりませんでした。地元の大応援団に支えられながら、笑顔でハーフタイム中に話すことができました。後半に入っても、今まで積み重ねてきたDFから流れをつくり、速攻で点数を積み重ねることができました。そして迎えた試合終了のブザー、昨年度、観客席から男子の日本一を観ていた私たちがとうとう「日本一」を手にすることができました。

私たちが日本一になれたのは、いつもご指導くださる先生方や一緒に練習してくれた先輩方、応援してくださる保護者の方々のおかげだと思います。沢山の方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。

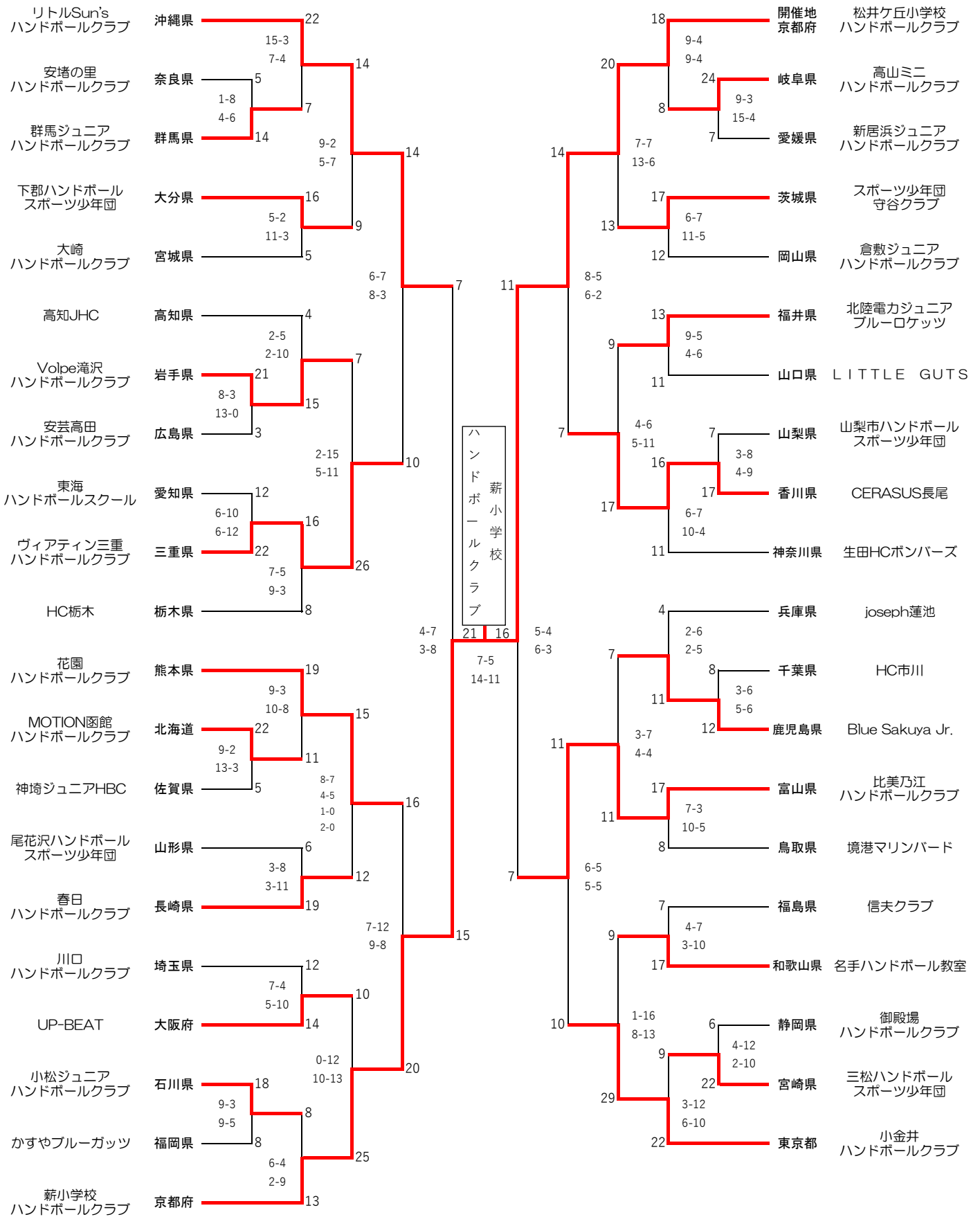
私は、これからも大好きなハンドボールを楽しみながら、中学校や高校でも「日本一」を目指したいと思います。

そして、この夏、ともに頂点を目指した全国各地の仲間たちとまたそこで出会いたいです。

第32回全国小学生ハンドボール大会トーナメント表 男子



第32回全国小学生ハンドボール大会トーナメント表 女子



# 第46回全国高等専門学校選手権大会

開催期間：2019年8月23日～8月25日  
開催地：山口県・周南市  
会場：麒麟ビレッジ周南総合スポーツセンター

**最終  
順位** 優勝：徳山工業高等専門学校（開催校）  
準優勝：高知工業高等専門学校（四国地区）  
3位：国際高等専門学校（北陸地区）  
秋田工業高等専門学校（東北地区）



## 大会を振り返り

### 徳山高専ハンドボール部顧問 池田 光優

第54回全国高等専門学校体育大会第46回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、中国地区徳山工業高等専門学校が担当校として8月24日・25日の2日間を通して実施しました。山口県ハンドボール協会、中国ハンドボール協会の多大なるご支援・ご協力の元、麒麟ビレッジ周南総合スポーツセンターにて、無事開催することができました。

8月23日には、試合に先立ち開会式が行われ、開催校である徳山高専谷本貴哉主将による「全ての関係者の方々に感謝し、正々最後まで堂々諦めずプレーすることを誓います。」という選手宣誓があり、熱戦の火蓋が切れて落とされました。

24日は予選リーグが行われました。今年は実力が拮抗しているチームが多く参加しているようで、5点差以内で終了となる試合が多かったことが印象に残っています。これらの試合も決して低レベルの試合であったという訳ではなく、高専ハンドのレベルもかなり高くなっていると感じました。そんな中で、各リーグを勝ち上がったのは、第1ブロックが国際高専、第2ブロックが徳山高専、第3ブロックが高知高専、第4ブロックが秋田高専となりました。どのチームも予選リーグからハイレベルな試合を展開しており、翌日の決勝トーナメントが楽しみになりました。予選リーグ終了後、高専OB会による、OBオールスターゲームも開催されました。本大会の試合と違って、和気藹々とした雰囲気の中で、各校のOBの方々がプレーしていました。こういったイベントが今後も続けばと強く思いました。

25日は決勝トーナメントが行われました。準決勝は国際高専 vs. 徳山高専、高知高専 vs. 秋田高専の組み合わせで行われました。国際高専は今大会を最後に休部が決まっており、最後に一花咲かせようと頑張ってきたと聞いています。また、秋田高専は39年ぶりの決勝トーナメント進出ということで、張り切って準決勝に望んでいました。両校とも、最後点差はそこそこついたものの、そこまでの実力差はなかったと思います。

決勝は、地元優勝を目指す徳山高専と20年ぶりの優勝を目指す高知高専の一戦となりました。試合前には選手紹介があり、いい意味での緊張感が高まっていました。試合は序盤から徳山高専優勢で進み、前半終了時には6点差がついていましたが、後半5分ぐらいから、徳山高専に疲れが見え始め、高知高専の反撃にあい23分過ぎには1点差まで詰め寄る大接戦になりました。最後は徳山高専が踏ん張り、19対17で地元優勝を勝ち取りました。

最後に、本大会の開催にあたり、日本ハンドボール協会、佐倉弘之甫会長、加藤晃理事長をはじめとする山口県ハンドボール協会の関係者の皆様、ならびにオフィシャル・コート係などでお世話になった、徳山高等学校・南洋工業高等学校・徳山商工高等学校の各ハンドボール部の皆様に厚く御礼を申し上げて、大会の報告といたします。





## 優勝：徳山工業高等専門学校

徳山高専監督 池田 光優

まず、最近頻発している様々な災害を被災されている方に対し、心よりお見舞い申し上げます。この原稿を書いている時も台風15号が関東に接近しており、大変な思いをされていると思います。どうか気持ちを強く持って過ごしていただければと思います。

さて、私は、今大会については大会運営担当とチームの監督と2つの役割を持つことになりました。大会運営については、山口県ハンドボール協会の超強力なバックアップがあると信じていましたので、それほどきつい思いもせず運営が行えたと思っています（加藤先生、色々無理を言ってすみませんでした！）。もう一つの役割である、チーム監督としては、昨年準決勝で涙を飲んだとうこともあり、選手共々「今年は（地元で）是非優勝を！！」という思いが強い1年間でした。私の思いが強すぎ、部員達との間に溝を作ってしまったこともありました。しかし、最後に選手のみんがあれほど嬉しそうに優勝を噛みしめている姿を目の当たりにすると、この1年間の自分の行動は間違っていなかったのかな、と少しホッとしました。自分は以前、2011年から四年連続でこの大会を優勝することができましたが、地元で優勝するというこの大変さを今回知ることができました。卒業生の一人である、宇佐川コーチがいなければ、まず無理だったと思っています。宇佐川コーチ、本当に助かりました。

最後に、本大会の運営にご協力いただきました、関係者の全ての皆様に対して、深い感謝の意を表し、コメントとさせていただきます。ありがとうございました。

徳山高専主将 谷本 貴哉

去年の夏、私達は大きな挫折を味わいました。沖縄で開かれた全国高専大会。順調に予選リーグを勝ち進み、決勝リーグへと駒を進めました。そして準決勝、なかなか点差を広げることができず、チーム内に嫌な雰囲気が漂い始めました。同点のまま試合は終了し、延長戦へともつれ込む大接戦でしたが、結局1点差で負けてしまいました。あと一步届かず、勝ちきれなかったのが本当にもどかしく、悔しい思いをしました。それと同時に、来年は絶対に優勝してやろうと強く決心した出来事になりました。

それからの1年は様々な出来事が起こりました。シーソーゲームを制することが出来ず勝てる試合を落としたり、主力選手のケガでの離脱、試合が無い月のモチベーションの低下、先生の期待に応えられず見限られたことも、チームとして同じ方向を向けずバラバラになりかけたこともありました。キャプテンとして上手くチームをまと

めることができず、悩む日々の連続でした。そんな時コーチや同級生がチームを支えてくれ、最悪の状況から脱することが出来ました。目的意識・やるべき事の確認を練習や試合で行うことで徐々に軌道修正していきました。そして中国高専大会は、難なく勝利を重ね一位通過し、とても良い状態で全国高専大会への切符を手にすることが出来ました。日々の練習はほとんどが外で行われていましたが、夏季休業中は体育館での練習・練習試合にシフトチェンジし、より実践に近い形での確認・合わせを行い、試合に向けての調整をしました。

迎えた全国高専大会の予選リーグでは、1試合目から優勝候補との対戦でした。相手のディフェンスの穴はどこなのか、得点源をどうやって封じ込めるかなど対戦校の試合の動画や前日練習を見てミーティングをチーム全員で行い、勝利をものにしなんとか決勝トーナメントへ進むことが出来ました。このまま決勝へいけるかと思った矢先、準決勝でエースが怪我をし、まさかのエース不在で決勝を戦わなければならなくなりました。去年までの私達ならここで嫌な雰囲気やプレッシャーを漂わせていたでしょう。しかし、この1年間嫌という程困難を乗り越えてきた私達は一緒にプレーできないエースの分まで全力でやろうと、これまでになく最高の集中力で試合に臨みました。試合終了間際には追われる形となりましたがなんとか勝ち切り優勝することが出来ました。

今大会で優勝できたのは、去年の敗戦から多くのことを学び、チーム全員で改善できたからだと思えます。ただ努力するのではなく、目的をもって努力すること。これがどれだけ大切なのかを身をもって体感することが出来ました。愛を持って接し技術面だけでなく、人間性も成長させてくれた監督・コーチ、心強い同級生、頼もしい後輩。この素晴らしいメンバーに出会えたこと、一緒にプレー出来たことに感謝しています。たくさんの応援本当にありがとうございました。

## 戦 評

### 準決勝：徳山高専 23 (9-7、14-6) 13 国際高専

準決勝 A コートは、東海北陸地区国際高専対中国地区徳山高専の対戦となった。スローオフは、徳山高専からのスタート。試合開始後 1 分 40 秒、徳山高専の 2 番が初得点を挙げた。その後、5 分に国際高専の 12 番がすぐに得点を決め、その後は一進一退の攻防が繰り返された。前半は互いに譲らず、7 対 9 で徳山高専の 2 点リードで前半を終える。

後半に入って、1 分 30 秒に徳山高専の 4 番が得点し、国際高専の 6 番がすぐに得点を上げるもその後、地力に勝る徳山高専が徐々に差を広げ、終わってみれば、13 対 23 の 10 点差で徳山高専が勝利した。

### 準決勝：高知高専 27 (14-9、13-9) 18 秋田高専

準決勝 B コートは、四国地区高知高専対東北地区秋田高専の対戦となった。スローオフは、高知高専からのスタート。試合開始後 36 秒、高知高専の 3 番が初得点を挙げた。その後は一進一退の攻防が繰り返された。高知高専は秋田高専のシュートミスや攻撃中のミスからカウンターアタックをかけ、14 番や 3 番の得点で点差を広げていく。前半は 14 対 9 で高知高専の 5 点リードで前半を終える。

後半に入って、1 分に高知高専の 14 番や 3 番が得点でリードを広げる。秋田高専の 4 番や 2 番が得点するものの、高知高専の固いディフェンスの前に届かず、27 対 18 で高知高専が勝利した。

### 決勝戦：徳山高専 19 (11-5、8-12) 17 高知高専

決勝戦は、地元中国地区徳山高専 対 四国地区高知高専の対戦となった。高知高専のスローオフでスタートし、試合開始後 1 分、徳山高専の 3 番が初得点を挙げた。その後、高知高専は 14 分 14 番と 7 番が 3 連続得点するものの、徳山高専は速攻やセットオフenseで 4 名の選手が連続得点し着実にリードを広げ、11 対 5 で前半が終了した。

後半は、高知高専が 7 番、14 番を中心に得点を重ね、疲れから足が止まった徳山高専に対し、逆速攻を仕掛け、2 回の 4 連続得点などで 22 分に 1 点差まで迫ったが、徳山高専の 11 番が 24 分すぎに得点し、19 対 17 で徳山高専が勝利し、5 年ぶり 6 度目の優勝を手にした。

# 第24回ジャパンオープントーナメント 「燃ゆる感動かごしま国体」国体リハーサル大会

開催期間：令和元年8月10日(土)～13日(火)

開催地：鹿児島県・霧島市

会場：霧島市満辺体育館、霧島市横川体育館、霧島市隼人体育館、霧島市立国分中央高等学校精華アリーナ

## 大会を振り返って

鹿児島県ハンドボール協会事務局 海江田 貴嗣

はじめに、開催市である霧島市は、本大会の前週には南部九州全国高校総体フェンシング競技、本大会後には柔剣道の国体リハーサル大会を運営する霧島市実行委員会の皆様の大変さ、そして41年ぶりに全国大会を迎える本県協会にとり、日本協会の皆様に支えられて大会を進めることができましたことを改めて実感しました。重ねて御礼申し上げます。

また、8月お盆時期での鹿児島空港発着便は、お盆料金など参加される各ブロック代表チームの経費負担など、厳しい環境の中、予定通り、男子32チーム、女子16チームが鹿児島県霧島市へ集結できたことを喜ばしく思います。台風銀座と呼ばれる本県において開催期間中、台風接近のニュースが流れる中、大会運営に支障をきたすことなく無事終了できたことが何よりでした。さらに大会期間中、空調については、リースでの対応で各会場15台ずつ朝6時ごろから運転していただき、朝7時からの打合せ時でも快適に過ごすことができました。

本県協会が本大会を迎える準備は、非常に遅くなりました。理由は、組織づくりの未整備でありました。前年度の茨城県ジャパンオープントーナメント大会にも視察なしという状況でした。

本年4月より事務局を任せられ、早速、総務委員会を立ち上げ、8月までに約10回の打合せ会をしました。中でも、2月には高校生補助員となる県内男女計20校のハンドボール部設置校への説明を現事務局と霧島市実行委員会で巡回する中、文頭でも述べたように南部九州高校総体開催の翌年に国体開催という異例の年度にあたり、学校現場では厳しい声も出てきました。そこで、本年度5月に九州一般・女子クラブ選手権が本県で開催するのを機に、九州協会理事長の児玉浩三郎氏のご協力を賜り、忌憚のないアドバイスを詳細にわたり頂戴することができ、何とか乗り切ることができました。本当にありがとうございました。

さて、競技に目を向けますと、女子の部で優勝された香川銀行THは13連覇を達成され、2位には来年度日本ハンドボールリーグへ参戦するザ・テラスホテルズ(沖縄県)が初出場ながら勝ち上がりました。3位には3年後に栃木国体を控えるオレンジクラブ、4位には昨年度福井国体成年女子出場チームのJJGANGが入り、アフター国体の継続した取り組みが見られました。

男子の部は、2年後に三重国体を控え、さらに強化に弾みがついたHONDA。2位には関東の雄でもあり本国体では千葉県代表としてベスト4に入るなど力のあるFOGが決勝の舞台に上がりました。3位には、来年のかごしま国体へ向けた成年男子の強化チームであるVarious鹿児島が元日本リーグトヨタ車体所属の藤田聖史選手、元湧永製薬所属の今井昭仁選手(鹿児島県体協)らが守備において軸となり、第二延長の末でも決着がつかずに7mスローコンテンツにもつれこみ、接戦をものにしました。4位には和歌山国体後も着実にチーム力を維持し続けているHC和歌山が、古家雅之のプレイングマネージャーを軸に常に上位に進出しました。JHLチャレンジディビジョン2にも参戦するなど国体後の成年男子の強化の道しるべ的な活動は今後も本県での強化策を考えるときにモデル的なチームであります。



### 最終順位

- 【男子】** 優勝：HONDA（三重県）  
準優勝：FOG（千葉県）  
3位：Various 鹿児島（鹿児島県）  
4位：HC 和歌山（和歌山県）
- 【女子】** 優勝：香川銀行T・H（香川県）  
準優勝：ザ・テラスホテルズ（沖縄県）  
3位：オレンジクラブ（栃木県）  
4位：JJGANG（福井県）



## 男子優勝：HONDA（三重県）

### HONDA ハンドボール部監督 伊藤 征四郎

はじめに、第24回ジャパンオープンハンドボールトーナメントの開催に際し、ご支援、ご協力賜りました関係団体、関係各社、大会運営をいただきました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。お陰様を持ちましてHONDAハンドボール部は8年ぶりに優勝をすることができ、チーム一同大変嬉しく思っております。

大会を振り返ると1回戦のHC秋田戦はDFが機能し速攻を重ね得点を量産し勝利することができ、2回戦のSFIDA山口戦はポストを使った攻撃に前半は苦戦しましたが、後半に修正し失点を抑え勝利しました。準々決勝の相手は強豪の長崎社中。個人スキルが非常に高く失点を如何に抑えるかが課題の試合でしたが、ダブルスコアで前半を終え、試合を優位に進めることが出来ました。準決勝は今大会1番の山場と踏んでいたHC和歌山戦。今年の1月熊本で開催された日本選手権でHC和歌山に敗れてから選手のハンドボールに取り組む姿勢が大きく変わり、この試合に臨む選手からは非常に熱いものを感じました。試合は前半20分までシーソーゲームでしたが、リスタートや速攻で走り続け、前半は8点差で折り返しました。後半に入っても試合を優位に進めることができ勝利しました。決勝は社会人の名門FOG。早いボール回しから強い1対1、変則DFから速攻が武器の非常にスピードのあるチームです。立ち上がりこそ失点を重ねましたが、徐々に修正し前半で14点差をつけることができました。後半に入っても運動量の落ちないFOGでしたが、持てる力を十二分に発揮した結果8年ぶりの優勝を掴み取ることが出来ました。

最後まで戦い抜き優勝を掴み取った選手全員と、いつも自分を支えてくれているコーチ陣、トレーナー、スタッフには心から感謝しています。平均年齢が22歳と非常に若いチームですが、この若い力で2021年に三重県で開催される、三重とこわか国体成年男子ハンドボール競技でベスト4以上を目指します。日本リーグ勢の壁は高く、厚いですが、強い気持ちを持ってチャレンジしていきます。

最後になりますが、日頃よりHONDAハンドボール部の活動にご支援、ご声援頂いている皆様、選手のご家族に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。



## 女子優勝：香川銀行T・H（香川県）

香川銀行T・H 重信 あかね

### ジャパンオーオープン 13 連覇達成

13連覇のかかったジャパンオープントーナメントは、優勝を勝ち取ることに、応援して下さる方々へ結果で恩返しをすることを目標に日々練習に取り組んできました。今大会は、日本リーグ加盟を目指して強化されているザ・テラスホテルズ（沖縄県）が参加しているということもあり、ディフェンディングチャンピオンとしてより一層プレッシャーを感じていました。大会前日のミーティングで亀井監督から、「毎年選手の引退・加入があり、チームはもちろん対戦相手も変わっていく中で13連覇ではなく13回目の初優勝をしよう。」と言われ、チーム全体の士気が上がり試合に臨めました。

初戦からチームの持ち味である「DFから速攻」で大量得点を重ね、相手チームを寄せつけないゲーム展開にすることができました。決勝のザ・テラスホテルズ（沖縄県）戦も波に乗った試合運びをしたかったのですが、前半終了スコア9対6と、自分たちの描いていた展開通りにはいかず、後半5分で10対10と追いつかれました。しかし、約束事を確認・徹底し、「全員で守って走れたら大丈夫」というチームの信頼感のもと、まずはDFでリズムを整え、コートの中でしっかりとコミュニケーションを取っていくことで「DFから速攻」でザ・テラスホテルズとの点差を広げていくことができ、13年連続13回目の優勝という結果に繋げることができました。

これも、遠方にもかかわらず会場まで足を運んで下さった香川銀行関係者、保護者、OGのほか、地元鹿児島県の方々の熱い応援、さらには香川県から応援してくださっていた方々のおかげだと感謝しており、優勝したことにホッとしています。

これからも「結果で恩返し」という思いを持ち続け、次の目標に向かってチーム一丸となって日々努力していきますので、成長し続ける香川銀行チームハンドを宜しくお願い致します。

■男子準決勝■

HONDA (三重県) 27 (15 - 7、12 - 9) 16 HC 和歌山 (和歌山県)

3年前の決勝と同カード。先制したのはHONDAが得た7mTを原田が確実に決める。和歌山も湯川が得点し応戦する。前半22分選手層の厚いHONDAが粘り強いDFから速攻までつなげて15対7とリードを広げて前半を終了する。

後半もHONDAの勢いは、和歌山のミスを誘い、逆速攻で加点し、さらに点差を広げる。和歌山は保坂、宮本のカットインなどで粘りを見せるが11点差を付けて3年前のリベンジをHONDAが果たすことになった。

FOG (千葉県) 25 (16 - 13、9 - 6) 19 Various 鹿児島 (鹿児島県)

昨年度のベスト8の壁を破り、初のベスト4進出でさらに地元の利を生かし、大勢の応援客が見守る中、クラブチーム強豪のFOGとの対戦。鹿児島は、主将でもある米満で先制する。前半10分、FOGは固いDFから藤本、宇田が速攻に持込み6対5とリードする。さらにDFからの速攻で積みかけ、前半20分には12対8の4点差になった所で鹿児島はタイムアウトを請求。DFシステムを変更し、久長、今井のシュートが決まり12対13と鹿児島が1点差まで詰め寄る。後半に入っても、GKを軸にDFからの速攻で加点したFOGが最後まで運動量を落とさずに25対19の6点差で決勝進出を果たした。

■男子3位決定戦■

Various鹿児島 29(5-7、12-10、第1延長4-4、第2延長4-4、7mTC4-3)28 HC和歌山

大会最終日、3日で4試合を戦い抜いてきた両者。前回2位のHC和歌山の終始落ち着いた試合運びで試合は進んでいく。試合は前半7対5とロースコアで和歌山2点差で折り返す。

後半開始5分、和歌山が13対8と5点差に広げた所で鹿児島がタイムアウトを請求。その後鹿児島は森、内田、藤田らの3連続得点により詰め寄る。しかし、和歌山も立て直しを図り、本田のサイドシュートなどで鹿児島を引き離しかかるが、ここから鹿児島が森、今井らで後半22分には15対15の同点に追いついた。

その後は互いに譲らず17対17の同点のまま延長戦へ突入。第1、第2延長でも決着がつかず、7mTCへ。鹿児島のGK平山が2本連続で和歌山をシャットアウトし、大接戦を制したVarious鹿児島が初のメダルを獲得した。



■男子決勝戦■

HONDA (三重県) 42 (24 - 10、18 - 16) 26 FOG (千葉県)

対戦カードはいずれも優勝経験があるチーム同士の戦いである。FOGは5年ぶり、HONDAは8年ぶりの優勝を狙う。さらに、オープニングでは、日本リーグでもおなじみの地元霧島市の小学生にエスコートされながらのコート入場等、決勝戦にふさわしい幕開けで決勝戦が行われました。先制したのは、FOG藤本、HONDAは井上のミドルなど5連続得点で対抗し8対4とリードをする。その後もHONDAのGK青木を軸にDFが固く、立て続けに速攻を決め、24対10でHONDAが大量リードで前半を終了する。

後半に入ると、層の厚いHONDAはメンバーを入れ替えるが攻撃の勢いは衰えず、8年ぶりの優勝を果たした。最後まで戦い抜いたFOGにも健闘を讃えたい。

■女子準決勝■

香川銀行 TH 42 (24 - 9、18 - 9) 18 オレンジクラブ (栃木県)

試合が動いたのは香川 4 番石川の速攻からである。立て続けに香川の山下も速攻に走り加点し太田のロングシュートで連続得点を重ね終始、香川のリードで試合が運ばれる。対するオレンジクラブも元飛騨高山ブラックブルズ所属の陣野のポストシュートで応戦する。さらに接戦に持ち込みたいオレンジクラブだが、香川の GK 森村の好セーブに合い、さらに攻撃の手を緩めない香川に点差を広げられていく展開となった。

後半に入ると、オレンジクラブは陣野、小館らがカットインシュートで対抗するも、決定機をなかなか作らせない香川の DF が固く、相手のミス誘い、着実に加点していった香川に軍配があがった。

ザ・テラスホテルズ (沖縄県) 24 (15 - 8、9 - 14) 22 JJGANG (福井県)

先制したのはテラスホテルズ塩田のポストシュート。その後、JJGANG も固い DF でなかなかテラスホテルズに攻撃させない両者の立ち上がり。テラスホテルズは、元飛騨高山ブラックブルズの GK 田口を軸に、DF でリズムを取り戻し、速攻で内藤、比嘉が加点し、終盤には 15 対 8 とテラスホテルズがリードする展開になった。

後半に入り、JJGANG は佐々木のみドルシュート、林の速攻で応戦するが、テラスホテルズ比嘉のカットインなどで序盤は 21 対 11 と 10 点差を付ける場面があったが、JJGANG の GK 重久の好セーブと田中の連続得点などで徐々に点差を詰め、21 対 24 と 3 点差まで来たが、テラスホテルズは冷静な試合運びで、24 対 22 で逃げ切り、初の決勝進出を果たした。

■女子 3 位決定戦■

オレンジクラブ (栃木県) 21 (9 - 12、12 - 6) 18 JJGANG (福井県)

オレンジクラブ福澤のみドルシュートで先制、さらに小館も速攻、みドルで得点し序盤の主導権を握るかに見えたが、JJGANG も佐々木、片山らの速攻で一進一退の攻防戦が続くが 12 対 9、JJGANG リードで前半が終了。

後半はオレンジ GK 本田の好セーブから小館のみドル、加倉田の速攻で同点に追いつく。JJGANG は園部のみドルシュート、西浦のカットインなどで得点するが、お互いが堅守速攻を仕掛けるが、決定機をものにしたオレンジクラブに軍配があがり、JJGANG は、大会での連続メダル獲得には届かなかった。



■女子決勝戦■

香川銀行 TH 24 (9 - 6、15 - 9) 15 ザ・テラスホテルズ (沖縄県)

13 年連続で決勝のステージに立つ香川と初出場での決勝戦進出のテラスホテルズとの対戦となった。先制したのは香川・太田のディスタンスシュート、さらに山下のサイドからのカットイン、荒木の 7mT、國方の速攻により主導権を握る。対するテラスホテルズは相手 DF を崩すことができず、苦しい立ち上がりとなった。しかし、中盤に入り坂本のみドルシュートで反撃を開始すると江島のサイドシュート、坂本の速攻で加点し、固い DF の香川に対して果敢に攻め 1 点差まで追い上げる展開になるが、前半は 9 対 6 の 3 点差、香川リードで折り返す。

後半、テラスホテルズはポストを多用した攻撃を仕掛け、香川 DF から退場者を出すなど崩しにかかり、後半 6 分過ぎに同点に追いつく。しかし、香川は JHL サマーキャンプなど着実に力をつけて大会に臨んでいるだけあって、重信のみドルシュート、速攻や多彩な攻撃でテラスホテルズの追撃を抑え、点差を広げていく。香川は最後まで固い DF からの速攻で追加点を奪い、13 年連続優勝を勝ち取った。



# 第10回全国中学生クラブチームカップ

開催期間：2019年8月12日～8月15日

開催地：大阪府・堺市

会場：家原大池体育館、堺市金岡公園体育館

## 最終順位

### 男子

優勝：山梨市ハンドボールクラブ（山梨県）  
大阪RSC（大阪府）  
HC福間（福岡県）  
ヴァルト岐阜（岐阜県）

### 女子

優勝：HC千葉ジュニア（千葉県）  
大阪ジュニアクラブ（大阪府）  
3位：霧島クラブ（鹿児島県）  
とびうめジュニア（福岡県）

台風により、最終日が中止になり、男子は準決勝、決勝、女子は決勝を行えなかった。よって、男子優勝4チーム、女子優勝2チーム、女子3位2チームとする。

### 男子

#### 【優秀選手】

- ◆金子真虎（山梨市ハンドボールクラブ）
- ◆近藤秀太（大阪RSC）
- ◆山中隆聖（大阪RSC）
- ◆青木悠一郎（HC福間）
- ◆酒井優希（HC福間）
- ◆池田智貴（ヴァルト岐阜）
- ◆堀洸志郎（ヴァルト岐阜）

#### 【インパル賞】

- ◆小ヶ倉直哉（諫早ハンドボールクラブ）

### 女子

#### 【優秀選手】

- ◆齋田あやめ（HC千葉Jr）
- ◆野口彩花（HC千葉Jr）
- ◆植田希海（大阪ジュニアクラブ）
- ◆庄野瑞希（大阪ジュニアクラブ）
- ◆東瑚華（大阪ジュニアクラブ）
- ◆福留愛音（霧島クラブ）
- ◆小宮彩蒼（とびうめジュニア）

#### 【インパル賞】

- ◆春重蒼衣（貝塚バーディーズ）

※男女ともに決勝戦が行われなかった為に、MVPの選出は控えました。普及型の敢闘賞は、普及チームを敗者戦の中に入れ込んだということになりましたので、選出しないということになりました。

## 第10回全国中学生クラブチームカップを振り返って

### 大会副総務委員長 酒巻 博美

記念すべき第10回大会開催におきましては、大阪・堺市ハンドボール協会様、審判団、普及育成部の皆様、大阪ジュニアクラブやヴァルト岐阜、岐阜7beatの保護者様のご指導ご尽力のお陰によりましたこと、深く感謝と御礼を申し上げます。

第1回～第7回大会までは有志で作りに上げてきたプライベートカップでした。第8回大会から日本ハンドボール協会主催となり認知度もチーム数も飛躍的に増加し、第9回大会からは女子の試合は1号球を使用するという改革も行いました。その間一貫して競技型と普及型（7人未満チームの救済措置として小学6年生の参加を認める）の2本立てで運営してきたことは、クラブチームらしさの象徴でもありました。

そうしてやっと迎えた第10回大会でした。今大会を一つの大きな区切りとして次に繋げるために、新たに大会実務委員会を組織化し役割分担を明確にして準備をまいりました。

今年は参加チーム数も更に増加し、男子は26チーム（内普及型2）、女子は16チーム（内普及型1）でした。その為開催日も昨年より1日増え4日間となりました。開会式では、全選手が自チームアピールを表現豊かに行き、また熊本世界選手権のPRも兼ねてくまモンが会場を盛り上げて来てくれました。開会式後は全チームで夕食会場をともにしたりと、記憶に残る工夫が随所に見られた記念イベントとなりました。

待ちに待った試合初日となるはずでしたが…自然には敵わず台風10号大阪直撃の予報を受けることになりました。『災害対策委員会』を立ち上げて刻々と変わる台風情報を注視しながら、委員会では検討を重ね続けました。

「安全第一。全選手・全チームが無事に地元に着いてはじめて大会が終了する。」

「選手はこの大会を目標に頑張ってきた。最後まで試合をさせてあげたい。」

二つの思いが交差し、誰もが台風が逸れてくれることを祈っての2日目でした。

しかし、3日目に女子の準決勝戦を終了した時点で、堺市から「安全のため市内の体育施設は翌日は9時以降閉館する」という連絡が入りました。それに伴い、今大会も中止とならざるを得ませんでした。男子は準決勝戦を控えた4チームが同時優勝（山梨市ハンドボールクラブ・大阪RSC・HC福間・ヴァルト岐阜）、女子は決勝戦を控えた2チーム（HC千葉jr・大阪ジュニアクラブ）が同時優勝となりました。選手にとっては大変残念であり、それを見守る指導者や保護者・全ての関係者が様々な感情に見舞われました。しかし、実はこういう不測の事態の時こそ選手に何を伝えどう生かしていくか、最も大きいチャンスでもあると思います。誰もが安全で命があってこそ、次にまた対戦できます。自チームの勝利追及だけでなく、「他」の存在をリスペクトできて初めて真のスポーツマンであり、クラブチームの選手である。そのことを最も感じることはできたのは中止決定から4日後の18日です。最後のチームがやっと無事帰着したことを確認し、全チームが本部からの『大会終了宣言』を受け「みなさん、お疲れさまでした！」とねぎらい合った時でした。

また同日、閉会式を迎えられなかった全大会関係者に向けて、三輪一義指導普及本部長から、「閉会の辞」が送られて参りました。拝読し、多くの選手・指導者が胸につかえていたものが取れたのではないかと感じる有難いお言葉でした。

色々な意味で忘れることのできない10回大会となりました。課題も増えました。

第11回大会が今回の経験を経て一層成長したものとなるように、皆様に改めて御礼申し上げますとともに、今後ご指導ご鞭撻下さいませよう、お願い致します。



男子優勝

## 山梨市ハンドボールクラブ (山梨県)

山梨市ハンドボールクラブ主将 窪田 晴天

## ハンドボールの思い出

僕は6歳の時に友達のお兄さんに誘われてハンドボールというスポーツを始めました。最初は何も分からなかったけど、チームプレーが楽しくて夢中になりました。そこで出会ったのが今のチームの仲間たちです。

そして僕たちは中学に入学しましたが、その学校にはハンドボール部はありませんでした。そこでハンドボールをやりたい人達を集めて平塚秀コーチに山梨市ハンドボールクラブ作ってもらいました。当時は予算も何もなかったですが、OBの方達が寄付金を集めてくれてチーム作りの準備をしてくれました。

そして中学校3年生になり山梨県で1位をとることができました。

そのおかげで春の全国中学生大会に出場することができました。全国大会では横断幕が必要でした。山梨市ハンドボールクラブには横断幕がありませんでしたが、OBの方達が作ってくれました。そのことがチームの一体感を強め、チームとして誇らしく思ったことが言葉では言い表せないくらい感謝です。

春の全国大会では初戦で香川県に負けてしまったけど自分達の力を出せたのでよかったです。

次に山梨市ハンドボールクラブとして最後のクラブチームの全国大会に出場しました。第1試合、第2試合、第3試合と勝ち進み優勝することができました。まさかそんなことがあるはずがないと思っていた全国制覇を達成することができました。平塚コーチ、保護者の方々には本当に感謝しています。僕たちのハンドボール人生はまだまだこれからです。これからもハンドボールを続けて頑張っていきたいと思います。



男子優勝

## 大阪 RSC (大阪府)

大阪 RSC 主将 近藤 秀太

僕たちは、第10回という記念すべき年に出場しました。チームの中でも「第10回やチームが多い」という会話がが増えて良い緊張感になってとても良かったです。開会式で他のチームや対戦相手を見てとてもワクワクしてきました。

僕たちの1試合目はHC山形ユースでした。その試合はそこまで苦しい試合ではなく、みんなが試合に出れて点数がとれて良かったです。

第2試合は福井県の永平寺ブルーロケッツでした。このチームには以前の公式試合で負けていたチームでした。チームの中でも「ここが勝負

や、絶対に勝つぞ」と、みんなが熱気にあふれていました。試合の前に監督から「台風が来てる、今日の試合が最後になるかも知れない」と言われていました。なので、自分も円陣を組んだ時に「楽しんでいくぞ」とみんなに言いました。結果として、8点差と大差で勝つことができとてもうれしかったです。そして、明日も頑張って優勝しようという話をした後に「4チーム優勝」という連絡がきてうれしい気持ちがありましたが、それ以上にもっと試合が良かったという悔しい気持ちがありました。

帰りの車の中で「決勝に行って1チーム優勝したかったな。」と話しました。ですが、チームとしては優勝出来て良かったです。最高の思い出となりました。来年も後輩たちに優勝を目指して頑張ってもらいたいです。



## 男子優勝

## HC福間 (福岡県)

## HC福間主将 金子 凜人

僕達は新チームになってから春の中学生選手権大会優勝・全国中学生クラブチームカップ優勝を目標に選手・指導者・保護者一丸となって日々の練習に取り組んできました。最初は声も出さずにディフェンスをしていて怒られたりもしました。でも練習を重ねる毎にお互いに考えることも分かるようになり、連携が取れるようになってきました。しかし、春中優勝には届きませんでした。でも、その悔しさを糧により一層チームとしてまとまることが出来ました。そして改めてクラブチームカップ優勝に向かって気持ちを切り替えて練習に取り組んできました。たくさんの県外遠征や合宿を行い、互いにぶつかり合い、慰め合い、チームとして強くなって行きました。

そしてとうとう待ちに待ったクラブ選手権が近づいてくるにつれてみんなの気持ちやモチベーションも高まっていき、たくさんのチームの協力を得て最後の調整や確認などを行い、最高のコンディションで大会に挑むことができました。昨年先輩達が果たせなかった全国優勝を果たすべく大会に挑みました。危ない場面もありましたが、まだ絶対に引退はしないぞ！という強い気持ちで進み続けました。

結果としては4チームの優勝ではありましたが、優勝は優勝。みんなで目指してきた結果だと僕は思います。最高のメンバーと最高のチームで挑めたこと、全国大会で優勝を果たすことができたことを誇りに思います。この経験を次のカテゴリーでも活かして行きたいです。



## 男子優勝

## ヴァルト岐阜 (岐阜県)

## ヴァルト岐阜主将 宮村 泰知

はじめに、第10回中学生クラブチームカップに参加するにあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様に大変感謝しております。有難うございました。僕たちクラブチームは、夏の全国中学校ハンドボール大会の代わりに全国クラブチームカップがあります。春の全国中学生選手権大会が終わってからは、クラブチームカップで優勝することを目標にして練習をしてきました。ヴァルト岐阜のユニホームを着て下級生と一緒に試合することが、最後の大会となります。

日々の練習では、走ることがきつと思うこともありましたが「絶対に優勝したい！」という気持ちを強くもち、どんな時も一緒にいてくれたり指導したりしてくださる鳥澤代表や松浪監督に「優勝をして恩返しをしたい」そんなことを考えながら練習に励んできました。下級生もまた、3年生と同じチームで試合をするのは最後だという気持ちをもって練習を頑張ってきました。

クラブチームカップでは、ヴァルト岐阜のチームテーマでもある「Enjoy handball」を胸に、一戦一戦楽しく盛り上げて試合をすることができました。チームメイトが点を決めた時、キーパーがシュートを止めた時、ナイスプレーをした時、監督も選手もみんな喜びあい、とても楽しい試合ができたと思います。そして「優勝する」という気持ちや意気込みはどこのチームにも劣らなかったと思います。

残念ながら、台風の影響がひどく「絶対勝つ！」とワクワクしながら楽しみにしていた準決勝、決勝をすることができないと聞いた時は、正直残念な気持ちを通り越して、悔しい気持ちでいっぱいでした。去年の先輩たちみたいに、このチームで最後の舞台に立ちたい、延期してでも試合をしたいと思いました。しかし、結果は4チーム優勝です。優勝と言われても、あまり実感がなかったのが正直なところですが、結果は結果として素直に受け止め、みんなで優勝を喜びました。僕たちは、クラブチームをこれで引退することになりますが、クラブチームカップで大好きなハンドボールを代表、監督、仲間と共にすることができ嬉しく思っています。来年も下級生たちには頑張ってもらい「クラブチームカップ日本一」を勝ち取ってほしいと思います。



## 女子優勝

## HC千葉ジュニア (千葉県)

## HC千葉ジュニア女子監督 長沢 亮

HC千葉ジュニア女子は、小学生チームの成田デルフィンと佐原ハンドボールクラブの二つの卒部生を中心に、先に活動をしていた男子チームに合流する形でスタートしました。

活動当初は練習場所の確保に苦労し、人数が少ない為に満足する練習や活動はできませんでした。転機となったのは1年目冬に参加した1年生大会で優勝したことです。選手達が自信を持ったこともあります。上の大会を目指して活動したいと選手の意識が変わりました。1年先輩の男子チームが春中



代表決定戦の決勝戦に進出したことで、クラブチームの活動が県内、県外に少しずつ理解して頂き中体連の学校と練習試合や交流が劇的に増えました。沢山の方にご支援、応援頂き感謝申し上げます。

第10回大会の決勝戦に進めたことは選手にとっては財産になりました。優勝したことも勿論ですが同じ境遇の仲間と戦えるこの全国クラブカップに参加できたことを嬉しく思います。これから先もこの全国クラブカップ大会が益々発展することを願っています。

## 女子優勝

## 大阪ジュニアクラブ (大阪府)

## 大阪ジュニアクラブ監督 神並 弘枝

## 『どうパフォーマンスするか。内容が大切と臨んだ大会』

クラブチームカップを始め、10年という月日が経ちました。第10回の記念大会が、台風で行政からの指導が入り、最終日の開催が出来ないという事になり、とても残念でしたが、仕方のないことだと考えています。

2チームが優勝というのもクラブチームらしいかなと思います。



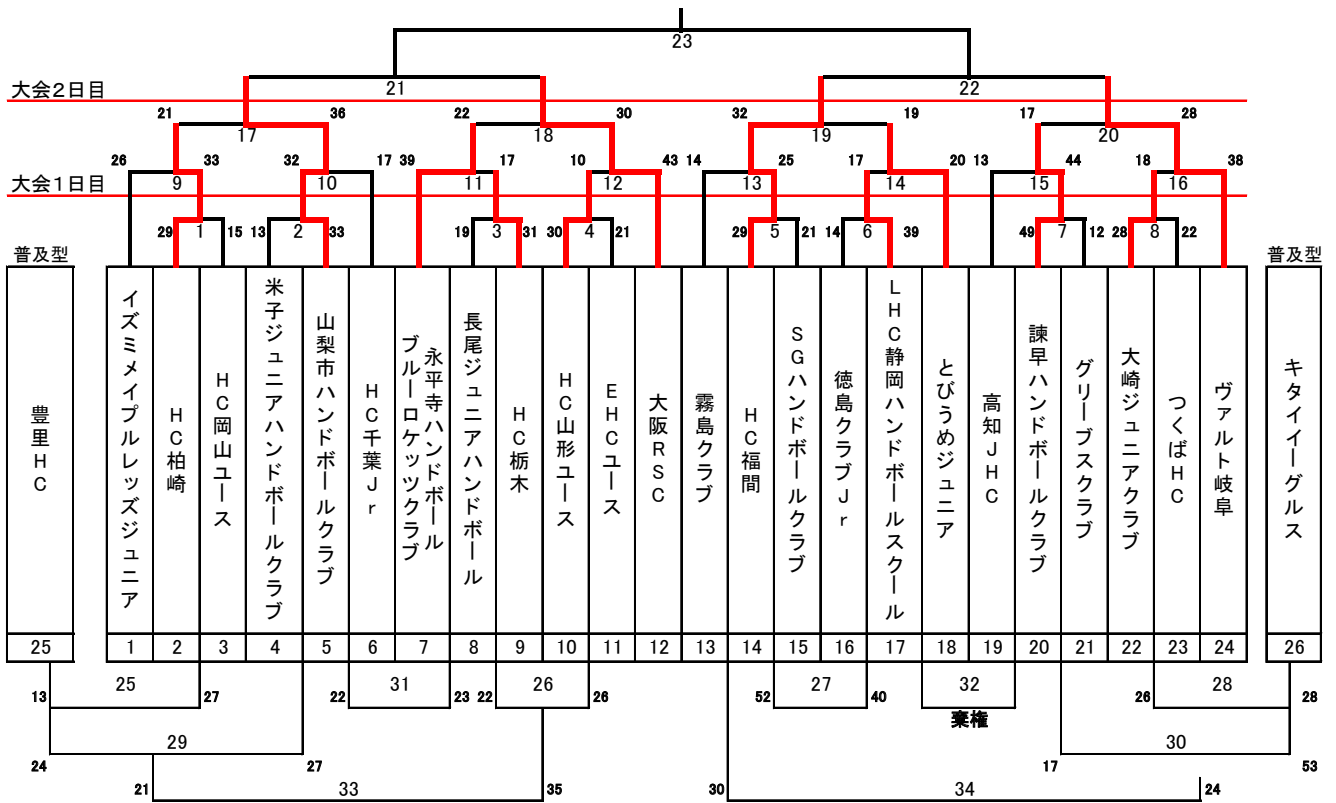
今大会は苦しい場面でどう動くか。考えるか。という事を意識して臨んだ大会でした。当日、大会運営でチームの様子が見られないので、いかに自分たちで考えて動き、身体を作るか。普段から自主的に動けるようにトレーニングをしたお陰で、良い状態で試合に臨めたと思います。

今年は21人という大所帯ですが、試合ごとにメンバーを変えたので全員ユニフォームを着る事が出来ました。そこも、私たちにとっては大切な取り組みです。

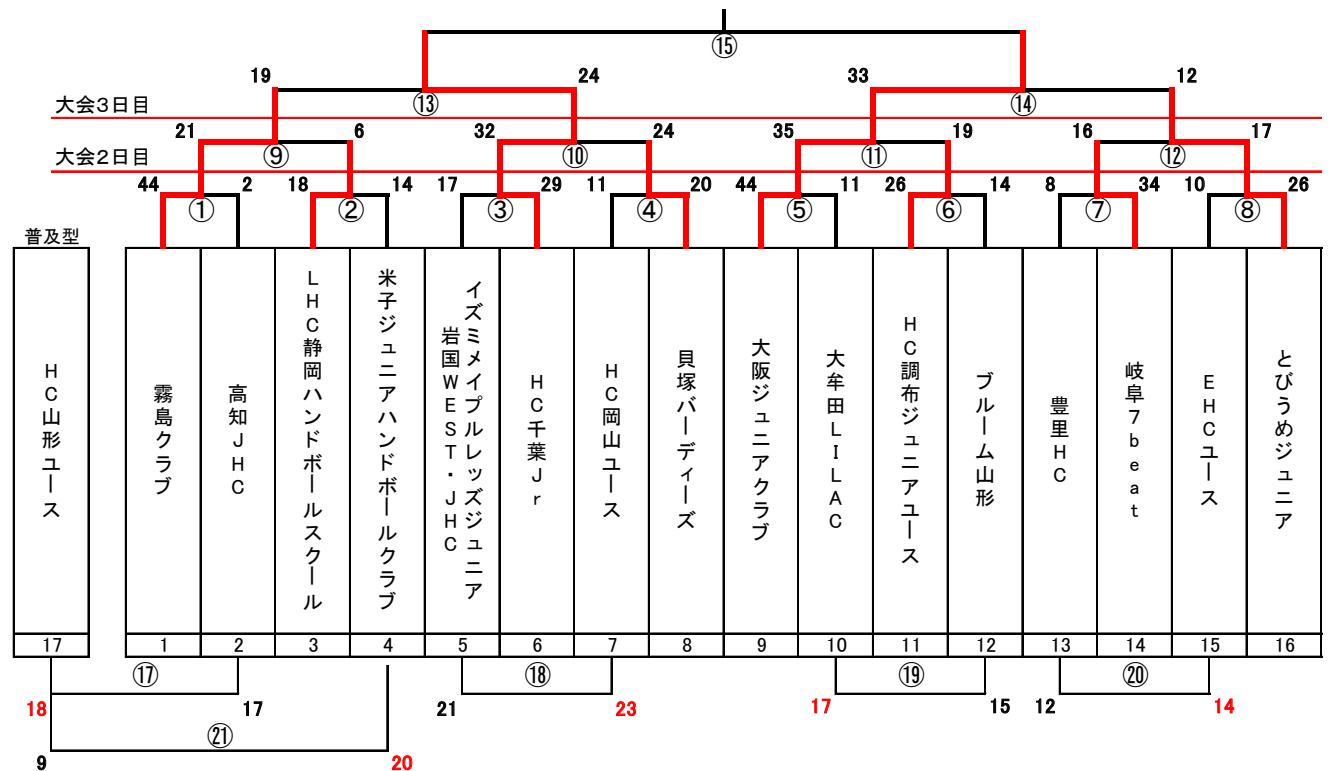
「今」だけではなく、将来を見据え、自分たちで考え行動できる選手を育てる。その取り組みが「優勝」というご褒美を頂けたのだと思っています。

これからも、自分たちの目標に向かって頑張っていきたいと思います。たくさんの方に、応援、ご支援頂いていますので、皆様にご恩返しができるように努力していきたいです。ありがとうございました。

【男子結果】



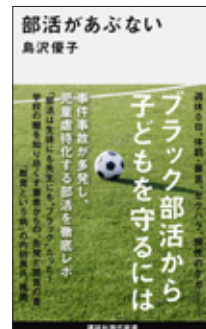
【女子結果】



# 改めて、今、部活動を考える その1

## 島沢 優子

ジャーナリスト。筑波大卒。元日刊スポーツ新聞記者。  
『部活があぶない』（講談社現代新書）など著書多数。



このテーマで2回に分けての掲載にあたり、初回は「生徒を抑圧する指導」についてお伝えする。この「抑圧する」とは、どういうことか。

昨秋、愛知県名古屋市の私立高校野球部で、元プロ野球選手だった監督（当時47）による部員への暴力が判明。殴る蹴るの動画が何度もテレビで流された。監督が暴力に及んだ理由は、試合でエラーしたとか、練習で気合が入ってないという野球にかかわるものではない。登校時に携帯電話を一時的に回収し下校時に返却するのが「野球部ルール」だったが、回収率が低かったという。

生徒に手をあげていた人の多くがこう弁明する。

「生活面がだらしなかったり、規範に背いたときに殴る。決してスポーツの指導ではない」

規範に背いた罰として殴る、体罰で抑圧して規範に背かないよう導くというわけだ。これは「暴力は悪いことだが、生活指導なら鉄拳制裁は許される」と間違っ了解釈が長年されてきたことの証左だろう。

そのうえ、この考えを社会が後押しする。

上記の事件報道に対し、ネットの反応で多かったのが「体罰は暴力と違う」だった。

「体罰は相手を思う気持ちがあり、受けた側にも受けるなりの理由がある。暴力は怒りの感情で振るわれるが体罰はそこには確かに愛情がある。個人的には誰かを深く傷付けたり、人の尊厳を踏みにじる行為をした人間には体罰をもって指導するべき時もあると思う」

「暴力を正当化するつもりはないし、体罰は振るわないなら振るわないに越した事はない。だが、ある不良が体罰を振るった教師に「生徒に暴力振るうのか？ 訴えるぞ!!」って凄んだら「それでお前がまともになってくれるなら刑務所でもどこでも行ってやる!!」って言い返されてその不良は教師が本気で自分の事を思ってくれていると感じ更正したと聞いた。ケースバイケースではあるけど必要な場面もあると思う」

（ともにヤフーニュースのコメントより抜粋）。

このようなコメントを、暴力や暴言を続けている指導者が読んだら、「やはりオレは間違っていない」と思うに違いない。

社会規範で悪とされる暴力を、スポーツや中高生への生活指導においてはOKにしてしまう日本の社会。児童虐待も、夫婦間のDV、上司からのパワハラやセクハラも今では厳しい目が向けられるのに、中学生や高校生はなぜか守ってもらえない。

なぜかといえば、教育に組み込まれた部活動は長年、「生徒は教員に従うもの」という主従関係にどっぷりつかってきたからだ。スポーツは楽しむもので、生徒が主体的に行うものだとし、新しい考え方を取り入れようとしても、抑圧、圧迫するコーチングで生徒に接してきた教育の現場やスポーツ指導のなかでも、肉体的苦痛を与える「体罰」は明確に禁止されている。本人は指導のつもりでもただの暴力であり、相手生徒が被害届を出せば罪に問われることもある。

例えば、悪質タックル問題が表面化した日本大学アメリカンフットボール部の関係者は当時、なぜあそこまで波紋を広げることになったのか理解できなかったのではないかと。

普通に今までの流れの中でやってきたことが、そのまま繰り返されていただけなのに。

日本におけるスポーツの価値観の中で、やっていただけなのに。

そのように捉えていたことだろう。

同じころ、ハンドボールでも高校生が試合中に肘打ちする事件があった。前日にSNSで「殺す」といった発言をしていたため、余計に騒ぎになった。肘打ちした生徒と肘打ちされた生徒は実は仲良しだった、とか、ハンドボールではあのような激しいプレーはよくあることだなど、さまざまな情報はあったものの、学校側が謝罪し何事もなかつ

たように収束してしまった。ジョークもあったかもしれないが、「殺す」や肘打ちがスポーツマンシップに則った態度だろうか。

競技を特定することは控えるが、いまだに指導者が生徒に「殺すぞ」や「もう来るな」「おまえなんかいない」といった言葉を使う部活動は散見される。これは、監督、コーチといった試合時にレギュラーメンバーを選択する人たちが、その権利を振りかざしたうえで生徒を抑圧、制圧しているわけだ。

コーチや監督たちもそのように抑圧されて育ったため、他の指導態度（コーチングのアティチュード）を知らない。追い詰めれば奮起して頑張るはずだ。頑張れば上達する。強くなる。勝てるようになる。旧態依然の指導方法をなかなか変えられない。

2019年ラグビーW杯でイングランドを率いるエディー・ジョーンズ氏は、前回大会では日本代表ヘッドコーチ。日本の部活を最もよく知る外国人コーチかもしれない。

1996年に東海大学のコーチを務めたのを機に来日。連続日本一に導いたサントリーの監督時代、実は「スクールウォーズ」のエピソード全編をおよそ3カ月かけ毎日のように見続けた。

熱血教師が高校ラグビー部を全国優勝に導く物語。エディーは、80年代に大ヒットしたこの学園ドラマから日本のラグビー文化を理解しようと試みたのだ。

「感想は……ジャスト・スチューピッド（Just stupid = バカバカしい）。戦時中とかではない。ほんの20数年前に作られたドラマだということが信じられなかった」

ずっと頭を抱えたまま、見続けた。

ドラマでは、百点ゲームで敗れた部員たちが次はその高校に勝ちたいと言うと、顧問がいきなり彼らを殴り始めた。豪州で生まれ育ったエディーにとって、まるで理解できなかった。

「スポーツは、何よりも楽しまなくてははいけない。10代まではその気持ちだけ育てればよいのです。でも、日本はスポーツを部活として学校教育に持ち込むことで、子どもたちに規律を守らせてきた。スポーツを手段に使った部分が、ほかの国と違うのです」

日本代表の選手たちに中学、高校でどんな指導を受けてきたのか尋ねながら、自分の目でも実際に見て回った。ジュニアチームから高校、中学校のラグビー部まで、部活の現状をリサーチしてきた。

「とにかくどこの学校も練習が長い。一度に3時間やるのが常だった。しかも、意味のない練習が非常に多かった」

最も驚いたのは、ある高校の夏合宿だった。午前、午後3時間ずつ練習。顧問は午後の練習後、突然フィットネステストをやらせた。3時間みっちり走らせた後、瞬発力や持久力を計測するのだ。選手は倒れそうになりながらテストに臨むので、当然出てくる数値は悪い。

だが、顧問は部員を怒鳴り散らした。

「ほらみる！ できてない。走れないじゃないか！」

エディーには、3時間もの練習のラストにテストをやる意味がわからなかった。単に選手を叱る材料にしているだけに見えた。

「それでラグビーが果たして上手くなるのか？ 私が部員ならそんな疑問を抱くだろうから、監督とケンカになってしまいラグビーをやめてしまったでしょう。でも、現実にそういった指導を日本はトップクラスの強豪校が行っていた」

エディーから贈られた二つのメッセージが印象に残る。

「何より部活は楽しまなくてははいけない」

「スポーツでも何でも、やらされるのではなく、自分でやるのが大事だ」

生徒が楽しんで主体的に取り組む理想の部活は、どうやってつくられるのだろう。

公立諏訪東京理科大学共通教育センターで教鞭をとり脳科学に詳しい篠原菊紀教授は、主体性を引き出すには「大きな進歩や結果のみをほめるのではなく、少しの進歩やスモールステップ、そのプロセスをほめること。何よりも萎縮させないコーチングが選手を伸ばす」と話す。萎縮させることで人の脳が意欲を失うことは、すでに脳科学の世界で実証されている。

であれば、冒頭に挙げた「抑圧する指導」こそ、生徒を萎縮させているのではないか。子どもを奮起させていたはずが、意欲をつぶしていたわけだ。

具体的にどうすれば、生徒が主体性を育てる指導ができるのか。次回でお伝えする。

# 熊本通信



11月30日から2019女子ハンドボール世界選手権が熊本で開催されます。世界24か国の強豪が集い、優勝を目指し熱い戦いが繰り広げられます。我らのおりひめジャパンもメダルを目指し、世界の強豪に立ち向かいます。ぜひ会場でおりひめジャパンを応援しましょう！！

チケットは公式HP (<https://japanhandball2019.tstar.jp/>)、プレイガイド、コンビニエンスストアなどで販売しています。

既に売り切れている席種もあります。良い席はお早めにお買い求めください。

## DISCOVER! HAND BALL!

世界各国から集まる選りすぐりの選手たち。各グループの注目選手をクローズアップ!!

### グループ A

オランダ、スロベニア、ノルウェー、アンゴラ、セルビア、キューバ

前回大会、前回3位と、優勝争い激し続けるオランダをセネガル・プレーヤー、グループAのGKとしてゴールに立ち回り、逆力満点のゴッポーズチームを鼓舞するフェスター●が注目選手。前回2位、メダルの有力候補として2016年のリオ・オリンピック、前回大会で得意としないオランダ選手、同じくメダルの有力候補、強手ながら素早い動きで知られるブラジル選手、アンゴラ●の活躍も注目の。

### グループ B

フランス、韓国、デンマーク、ブラジル、ドイツ、オーストラリア

前回大会優勝国フランスの絶対的エースであるボノ●を中心とした攻撃と、同じくフランスのララベルの激しがりやな走り出されるプレーは必死。デンマークのエース、ハンセン●、ドイツの若手サウスウェン●、シュート力、韓国ポイントゲッター、韓国勢のニューム、ブラジルの激戦エース、アモリ●、世界を代表するシューターが顔を揃えるグループはゴールラッシュになりそう。

### グループ C

ルーマニア、スペイン、ハンガリー、セネガル、モンテネグロ、カザフスタン

ルーマニア超絶のポイントゲッター、ネア●、同じルーマニアのピンポイントシューターというトップレベルの身長でエリア攻撃を牽引する。また、前回大会でデビューした2016年のヨーロッパ選手で活躍したハンガリーの20歳の若手17歳●、スペインのベレグエラ●、モンテネグロのラディチビッチ●、メキシコ選手といわれたサイドのスペインリストが強い奥からゴールを決める決め手も必要。

### グループ D

ロシア、中国、スウェーデン、アルゼンチン、日本、DRコンゴ

リオ・オリンピック金メダリストで、相手ディフェンスを切り抜く攻撃力が自慢のロシア、ビヤレク●、前回大会で初の4人入りを果たしたスウェーデンのポイントゲッター、グランド●が注目の。こうした世界のトッププレーヤーに、日本から両名ポイントゲッターの横顔●、期待の若手サウスウェン●も中団を走り、おりひめJAPANが世界の強豪チームと、どう立ち向かっていくかが注目。

# 世界がぶつかる。

## 2019 女子ハンドボール世界選手権大会

### 11.30 - 12.15

熊本開催

チケット情報は、中面にて!

2019女子ハンドボール世界選手権大会  
Hand in Hand 一つのチームが世界を動かす

主催/国際ハンドボール連盟 主管/公益財団法人日本ハンドボール協会 一般社団法人2019女子ハンドボール世界選手権大会組織委員会

### マッチスケジュール

| 会場       | パークドーム熊本  | アクアドームくまもと   | 熊本県立総合体育館  | 八代市総合体育館   | 山形県総合体育館                                     |
|----------|---|--|--|--|--|
| 11/30(土) | 13:30 開会式<br>15:00 JPN ● VS ● ARG<br>18:00 RUS ● VS ● CHN<br>20:30 SWE ● VS ● COD | 15:00 SRB ● VS ● ANG<br>18:00 NED ● VS ● SLO<br>20:30 NOR ● VS ● CUB                         | 18:00 ROU ● VS ● ESP<br>20:30 DEN ● VS ● AUS                         | 15:00 MNE ● VS ● SEN<br>18:00 HUN ● VS ● KAZ<br>20:30 ESP ● VS ● DEN | 15:00 GER ● VS ● BRA<br>18:00 FRA ● VS ● KOR |
| 12/1(日)  |   | 12:30 CUB ● VS ● SRB<br>15:00 ARG ● VS ● RUS<br>18:00 COD ● VS ● JPN<br>20:30 CHN ● VS ● SWE | 15:00 HUN ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 KOR ● VS ● DEN | 15:00 KAZ ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 ESP ● VS ● SEN | 15:00 BRA ● VS ● FRA<br>18:00 AUS ● VS ● GER |
| 12/2(月)  | 15:00 ARG ● VS ● RUS<br>18:00 COD ● VS ● JPN<br>20:30 CHN ● VS ● SWE              | 12:30 CUB ● VS ● SRB<br>15:00 ARG ● VS ● RUS<br>18:00 COD ● VS ● JPN<br>20:30 CHN ● VS ● SWE | 15:00 HUN ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 KOR ● VS ● DEN | 15:00 KAZ ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 ESP ● VS ● SEN | 15:00 BRA ● VS ● FRA<br>18:00 AUS ● VS ● GER |
| 12/3(火)  | 14:30 RUS ● VS ● COD<br>17:30 CHN ● VS ● ARG<br>19:30 SWE ● VS ● JPN              | 12:30 CUB ● VS ● SRB<br>15:00 ARG ● VS ● RUS<br>18:00 COD ● VS ● JPN<br>20:30 CHN ● VS ● SWE | 15:00 HUN ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 KOR ● VS ● DEN | 15:00 KAZ ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 ESP ● VS ● SEN | 15:00 BRA ● VS ● FRA<br>18:00 AUS ● VS ● GER |
| 12/4(水)  | 15:00 COD ● VS ● CHN<br>18:00 JPN ● VS ● ARG<br>20:30 SWE ● VS ● JPN              | 12:30 CUB ● VS ● SRB<br>15:00 ARG ● VS ● RUS<br>18:00 COD ● VS ● JPN<br>20:30 CHN ● VS ● SWE | 15:00 HUN ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 KOR ● VS ● DEN | 15:00 KAZ ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 ESP ● VS ● SEN | 15:00 BRA ● VS ● FRA<br>18:00 AUS ● VS ● GER |
| 12/5(木)  | 15:00 COD ● VS ● CHN<br>18:00 JPN ● VS ● ARG<br>20:30 SWE ● VS ● JPN              | 12:30 CUB ● VS ● SRB<br>15:00 ARG ● VS ● RUS<br>18:00 COD ● VS ● JPN<br>20:30 CHN ● VS ● SWE | 15:00 HUN ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 KOR ● VS ● DEN | 15:00 KAZ ● VS ● MNE<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 ESP ● VS ● SEN | 15:00 BRA ● VS ● FRA<br>18:00 AUS ● VS ● GER |
| 12/6(金)  | 15:00 JPN ● VS ● CHN<br>18:00 ARG ● VS ● COD<br>20:30 RUS ● VS ● SWE              | 15:00 SRB ● VS ● ANG<br>18:00 ANG ● VS ● SLO<br>20:30 NOR ● VS ● CUB                         | 15:00 SEN ● VS ● KAZ<br>18:00 ROU ● VS ● ESP<br>20:30 FRA ● VS ● DEN | 15:00 MNE ● VS ● ESP<br>18:00 SEN ● VS ● ROU<br>20:30 HUN ● VS ● SEN | 15:00 BRA ● VS ● KOR<br>18:00 GER ● VS ● FRA |
| 12/7(土)  |   |  |  |  |  |
| 12/8(日)  |   |  |  |  |  |
| 12/9(月)  | 12:30 23-24位決定戦<br>15:00 15-16位決定戦<br>18:00 13-14位決定戦                             | 12:30 23-24位決定戦<br>15:00 15-16位決定戦<br>18:00 13-14位決定戦  | 12:30 21-22位決定戦<br>15:00 19-20位決定戦<br>18:00 17-18位決定戦                |  |  |
| 12/10(火) | グループD 2回 VS グループC 3回<br>グループC 3回 VS グループC 1回<br>グループD 1回 VS グループC 2回              | グループD 2回 VS グループC 3回<br>グループC 3回 VS グループC 1回<br>グループD 1回 VS グループC 2回                         | グループD 2回 VS グループC 3回<br>グループC 3回 VS グループC 1回<br>グループD 1回 VS グループC 2回 |  |  |
| 12/11(水) | グループC 3回 VS グループC 3回<br>グループC 2回 VS グループD 2回<br>グループC 1回 VS グループD 1回              | グループC 3回 VS グループC 3回<br>グループC 2回 VS グループD 2回<br>グループC 1回 VS グループD 1回                         | グループC 3回 VS グループC 3回<br>グループC 2回 VS グループD 2回<br>グループC 1回 VS グループD 1回 |  |  |
| 12/12(木) | 11:30 7-8位決定戦<br>14:30 5-6位決定戦<br>17:30 準決勝 1<br>20:30 準決勝 2                      |  |  |  |  |
| 12/13(金) | 17:30 準決勝 1<br>20:30 準決勝 2  |  |  |  |  |
| 12/14(土) | 17:30 3位決定戦   |  |  |  |  |
| 12/15(日) | 17:30 決勝戦   |  |  |  |  |

●メインランドの試合開始時刻は15:00、18:00、20:30です。試合開始時刻は予選ラウンド終了後に振り出されます。

●メインランドの試合開始時刻は15:00、18:00、20:30です。試合開始時刻は予選ラウンド終了後に振り出されます。

●メインランドの試合開始時刻は15:00、18:00、20:30です。試合開始時刻は予選ラウンド終了後に振り出されます。

## 女子ハンドボール世界選手権大会

### 1日券

| ゲームカテゴリー             | 区分    | カタコリアー (指定席) |         | カタコリアー (自由席) |        | カタコリアー (自由席) |        | 観客席 (エリア指定) |        |
|----------------------|-------|--------------|---------|--------------|--------|--------------|--------|-------------|--------|
|                      |       | 前席           | 当日      | 前席           | 当日     | 前席           | 当日     | 前席          | 当日     |
| ファイナルラウンド (準決勝・決勝)   | 大人    | ¥8,000       | ¥10,000 | ¥5,000       | ¥7,000 | ¥3,000       | ¥4,000 | ¥3,000      | ¥4,000 |
|                      | 小・中・高 | ¥2,500       | ¥3,500  | ¥1,500       | ¥2,500 | ¥1,500       | ¥2,500 | ¥1,500      | ¥2,500 |
| ファイナルラウンド (準決勝・決勝)   | 大人    | ¥6,000       | ¥8,000  | ¥4,000       | ¥5,000 | ¥2,500       | ¥3,500 | ¥2,500      | ¥3,500 |
|                      | 小・中・高 | ¥2,000       | ¥3,000  | ¥1,200       | ¥2,200 | ¥1,200       | ¥2,200 | ¥1,200      | ¥2,200 |
| メインラウンド              | 大人    | ¥4,000       | ¥5,000  | ¥3,000       | ¥4,000 | ¥2,000       | ¥3,000 | ¥2,000      | ¥3,000 |
|                      | 小・中・高 | ¥1,500       | ¥2,000  | ¥1,000       | ¥1,500 | ¥1,000       | ¥1,500 | ¥1,000      | ¥1,500 |
| 予選ラウンド (指定席)         | 大人    | ¥4,000       | ¥5,000  | ¥3,000       | ¥4,000 | ¥2,000       | ¥3,000 | ¥2,000      | ¥3,000 |
|                      | 小・中・高 | ¥1,500       | ¥2,000  | ¥1,000       | ¥1,500 | ¥1,000       | ¥1,500 | ¥1,000      | ¥1,500 |
| 予選ラウンド (パークドーム熊本)    | 大人    | ¥2,000       | ¥3,000  | ¥1,500       | ¥2,500 | ¥1,000       | ¥2,000 | ¥1,000      | ¥2,000 |
|                      | 小・中・高 | ¥700         | ¥1,000  | ¥500         | ¥800   | ¥500         | ¥800   | ¥500        | ¥800   |
| プレジデントクラブ (13-24位決定) | 大人    | ¥1,000       | ¥1,500  | ¥500         | ¥1,000 | ¥500         | ¥1,000 | ¥500        | ¥1,000 |
|                      | 小・中・高 | ¥400         | ¥600    | ¥200         | ¥400   | ¥200         | ¥400   | ¥200        | ¥400   |

●本大会の試合は観客に限り入場無料です。但し、試合開催日の観客席チケットは有料となります。観客席は個人入場券となります。観客席の購入は10人以上の購入で、20%の割引が適用されます。●観客席：小・中・高生1名につき大人1名に対し、小・中・高生標準料を適用します。但し、観客席の人数は観客席の人数となります。

### 会場パッケージ (予選ラウンドのみの販売となります)

| 会場            | 開催日程 (予定) | 試合数 (予定) | S席 (指定席) | A席 (自由席) | 単席券 (エリア指定) |
|---------------|-----------|----------|----------|----------|-------------|
| パークドーム熊本(準決勝) | 5日        | 15試合     | ¥14,000  | ¥10,000  | ¥10,000     |
| アクアドームくまもと    | 5日        | 15試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      |
| 熊本県立総合体育館     | 5日        | 10試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      |
| 八代市総合体育館      | 5日        | 10試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      |
| 山形県総合体育館      | 5日        | 10試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      |

### ホスピタリティチケット (パークドーム熊本のみ)

| 会場            | 開催日程 (予定) | 試合数 (予定) | S席 (指定席) | A席 (自由席) | 単席券 (エリア指定) | ゲームカテゴリー  | 総席数      |
|---------------|-----------|----------|----------|----------|-------------|-----------|----------|
| パークドーム熊本(準決勝) | 5日        | 15試合     | ¥14,000  | ¥10,000  | ¥10,000     | ファイナルラウンド | ¥100,000 |
| アクアドームくまもと    | 5日        | 15試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      | メインラウンド   | ¥80,000  |
| 熊本県立総合体育館     | 5日        | 10試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      | 予選ラウンド    | ¥60,000  |
| 八代市総合体育館      | 5日        | 10試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      | プレジデントクラブ | ¥60,000  |
| 山形県総合体育館      | 5日        | 10試合     | ¥7,000   | ¥5,000   | ¥5,000      | 予選ラウンド    | ¥60,000  |

### 会場チケット 「ハッピーアワーチケット」

平日の会場及び土日の一部の会場にて販売します。2試合目以降に入場できるチケットです。会場は1日限りですが、各会場のファンゾーンで使えるお楽しみクーポン券がついています。

●特典：クーポン券 大人500円・小・中300円

### チケットお申込み方法

●公式HP

●プレイガイド

●コンビニエンスストア

### オフicialサイトにアクセス

●チケット

●お申込み

### 希望チケットをお申込みください!

●チケット

●お申込み

お問い合わせ/チケットカスタマーセンター TEL050-5433-1880

# 令和元年度第22回ハンドボール研究集要項

## テーマ「ゴール型教材としてのハンドボール—その12—」

**趣 旨** 平成29年3月31日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が従前のとおり3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになっている。また、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてハンドボール、ラグビー、フットボールなど、ゴール型、ネット型及びベースボール型の型に応じたその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そして、ほぼ20年間に渡る学校体育ハンドボール専門委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値をさらにアピールしていくとともに、低・中学年のゲーム領域、及び中学校の球技との関連性を考慮した一貫指導体系を確立していかなばならないという必要性に迫られている。そこで本研究集では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

**主 催** 公益財団法人 日本ハンドボール協会

**主 管** 熊本県ハンドボール協会

**後 援** スポーツ庁 熊本県教育委員会 菊池市教育委員会

**対 象** 小学校、中学校及び高等学校教諭、教員養成大学学生・大学院生及び教員、地域スポーツ指導者、日本ハンドボール協会J級指導員等

**会 期** 令和元年11月28日(木)～11月29日(金)

**会 場** 菊池市立隈府小学校  
(〒861-1331 菊池市隈府792番地 TEL 0968-25-2197)

**日 程** **11月28日(木)**

受 付 12:00～12:30 (菊池市立隈府小学校)

開 会 式 12:30～12:50

講 演 12:50～13:50

講 師 塩見英樹(スポーツ庁 政策課 教科調査官(併) 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官)

研究発表 14:00～15:50

実技研修 16:00～17:30 (菊池市立隈府小学校)

講 師 Henny Nijboer(オランダハンドボール協会指導委員長)

交 流 会 18:45～20:45

※会場が決定次第、参加希望者には別途連絡いたします。

**11月29日(金)**

受 付 8:30～9:00 (菊池市立隈府小学校)

授業提案 9:00～9:45

菊池市立隈府小学校 3年「ゴール型ゲーム～ハンドボール～」

授業者 木村綾児(菊池市立隈府小学校教諭)

講 義 10:10～11:40 (菊池市立隈府小学校)

講 師 Henny Nijboer(オランダハンドボール協会指導委員長)

閉 会 式 12:00～12:30

**学校体育専門委員会事務局**

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

岐阜大学教育学部 杉森研究室 気付

E-mail: [sugimori@gifu-u.ac.jp](mailto:sugimori@gifu-u.ac.jp)

TEL & FAX: 058-293-3123

**大会事務局**

〒869-0524 宇城市松橋町豊福1604番地

宇城市立豊福小学校 舩田真一 宛

E-mail: [masuda-s3@tsubaki.higo.ed.jp](mailto:masuda-s3@tsubaki.higo.ed.jp)

TEL: 0964-32-0329 FAX: 0964-32-0319

**参加費** 教員・指導者 3,000円

学生・大学院生 1,000円(当日、受付にて学生証提示)

※資料代、及び保険料込み。当日受付にて徴収。

**参加申込** 参加を希望される方は、別紙参加申込書に必要事項を記入の上、E-mailで上記「大会事務局」までお申し込み下さい。  
申込〆切日: 令和元年11月20日(水)

**発表申込** 研究集会のテーマに関係する研究及び実践報告を募集します。発表を希望される方は、大会事務局、または専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。

1) 口頭発表・質疑時間: 発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は、演題数により変更することもあります。

2) 発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。

3) 締切り日: 令和元年11月8日(金)

尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。

その他、発表に関してご不明な点は、大会事務局までお問い合わせ下さい。

**宿 泊** 宿泊を希望される方は、会場近くのホテルを斡旋しますが、大会事務局の確保数に限りがありますので、担当者にご連絡ください。

**申し込み先:** 九州産交ツーリズム(担当: 安川)

電話 096-325-8240

FAX 096-323-1777